

第四十四條第二項及第五十三條ノ規定ニ依リ拂渡スヘキ金錢アルモ受取人アラサルトキハ其ノ金額ヲ供託シ得ルノ制ヲ定メラレタシ

鹿兒島縣

一 耕地整理ニ關スル農商務大臣ノ内訓第三一二號中第十四項ヲ削除サレタシ

理由 本縣今日ノ發達ヲ致シタルハ事業其ノモノノ利益顯著ナルカ爲ナリトハ云ヘ一面費用ノ過半ハ増歩地處分代ヲ以テ之ニ充テ利益ニ對シ各自ノ負擔甚タ輕カリシニヨルモノトモ云フヲ得ヘク新法實施後ハ規約ニ之ヲ規定セスト雖事實ハ之カ處分ヲナシ工事費償却ニ充テントスルモノモ少ナカラス若全然之ヲ削除シ能ハサレハ或ル條件ヲ附シテモ之カ解禁ヲ希望ス尤モ之ヲ許スカ爲土地兼併ヨリ生スル弊害ノ如キハ十分ニ取締ルコトヲ得ヘシ

二 明治四十二年十月大藏省訓令第三八號耕地整理地取扱手續第三條中地價配賦ノ請求アリタルトキノ下ニ「直ニ」ノ二字ヲ加フルコト

理由 地價配賦ノ申請後其ノ決定ニ至ル迄ニハ今日少ナカサル時日ヲ要ス故ニ地價配賦ノ申請アリタルトキハ直ニ決定セラレサレハ後ノ手續ヲ進行スルコトヲ得ス其ノ決定ヲ見ル迄ハ一時事務ヲ中止セサルヘカラス今日工事完了後ノ事務ノ進捗思ハシカラサルハ一ハ地價配賦ノ決定ノ遲キニ基因ス、今日ノ實際ヲ見ルモ申請書類提出後早キモ數ヶ月甚タシキニ至リテハ數ケ年ニ

亘ルモ尙決定ヲ見サルノ實例多々アリ

三 耕地整理登記令第八條ノ二中若ハ登記名義人ノ表示ノ變更ノ下ニ「更正」ノ二字ヲ加フルコト

理由 整理地登記ヲ申請スル場合何レノ地區モ土地ノ表示若ハ名義人ノ住所氏名ノ更正ヲ要スルモノ多シ然ルニ法文ニ更正ノ文字ヲ缺如スルカ故ニ更正ハ各土地所有者ニ於テ自ラ之ヲナシ整理施行者ニ於テ爲シ得サルノ不便アリ尙同條ニ相續ニ因ル所有權移轉ノ外賣買ニ依ル所有權移轉ヲモ爲シ得ル様改正セラレルヲ得ハ至便ナラン

四 耕地整理ニ關スル農商務大臣内訓第三一二號中(五)「工事著手前、著手中、又ハ完了後ノ區別」ト

アルヲ削除シ單ニ工事著手中ノモノニ限り報告スルコトニセラレタシ
理由 著手前ノモノニアリテハ組合設立認可報告書ニ依リ知ルヲ得ヘク工事完了後ノモノニアリテハ殆ト年々同様ノ書類ヲ繰返シ提出スルノ必要ナキモノト認ム

五 耕地整理法施行規則第三十二條第二號中地目ノ下「及等位」ノ三字ヲ削除セラレタシ

理由 地目等位別合計ハ非常ナル手數ヲ要スルモ手續上格別必要ナルモノトモ難認全ク無用ノ手數ト認ム

沖繩縣

本縣ハ未ダ整理ヲ施行セシコトナキヲ以テ該當事項ナシ

農務局長提出議案

議案

第一 耕地整理事業中計畫上特種ナルモノニシテ他ノ參考ト爲ルヘキモノノ計畫ノ概要

答申

京 都 府

府下ノ事業ハ前項「現況及趨勢」ニ記述ノ通りニシテ特ニ計畫上他ノ參考トスヘキモノナシ唯淀川沿岸巨椋池ノ開拓ハ夙ニ多數ノ設計調査出願アリ其ノ面積約千百町歩ニ達シ府下ノ事業中特記スヘキモノナルモ目下治水其ノ他ノ關係上應議中ニ屬シ施行方法決定セサルヲ以テ未タ設計ニ着手スルニ至ラス從テ爰ニ記述スルヲ得ス

神 奈 川 縣

本縣ニ於ケル認可地區數ハ三十六ニシテ而シテ其ノ内排水機ヲ設置シタルモノ二、暗渠排水工事ヲ施

シタルモノ一、河川改修ニ伴フテ整理ヲ施行セルモノ三、水害復舊工事ヲ行ヒタルモノ七、ヲ數フルト雖特ニ記スヘキ程ノモノニアラス只前記排水機ヲ設置シタルモノノ一タル三浦郡久里濱村耕地整理施行地區ハ稍難工事ニ屬スルヲ以テ今其ノ概要ヲ左ニ記スヘシ

該地區ハ其ノ總面積百四十五町餘歩ニシテ關係地主四名（内一名寺院有）ノ共同施行タリ其ノ位置三浦半島ノ東岸ニ在リテ房總半島ト相對ス地區一體ニ低窪ノ地ニシテ往古砂村某カ埋立セル新田タリ而シテ大部分水田ニ利用サルト雖尙不毛ノ地十數町ヲ占メ古來水害ノ爲生産極メテ少ナク數年一回辛シテ平作ヲ得ルノミ豪雨一度臻レハ地區内一體洪水スルモ水位猶滿潮面下ニアルヲ以テ潮位少ナキモ干潮ニ復セサレハ地區内ノ惡水排出スルニ至ラス洪水連日爲ニ稻ノ生熟ヲ見サルコト多クナリ而シテ此ノ被害ヲ除ク爲地區ノ中央部ニ存在セシ舊排水本線タル平作川ニ一大改修工事ヲ施シ其ノ排水口ハ潮止自働樋門ニ向ハシメ兩岸ニ築堤ヲ施シ該樋門ヨリ凡ソ百二十間上流ノ右岸（地區内最底部）ニ別記排水機ヲ設置シ左右兩堤下方ニ各一個ノ自働排水樋門ヲ設ケ又伏越樋ニ依リテ左右兩岸相聯絡ス而シテ川ノ水位高マリ排水樋門鎖サルルニ至ラハ從來ノ降雨量ハ全田面ニ擴カリタルヲ以テ干潮時ニ非ラサレハ流下セサリシモ築堤ノ結果上流ヨリ降下スル水ハ地區内ニ入ラスシテ兩堤内ニ局限セラレ地區内ニ降下スル水モ亦河水位迄ハ自然排除セラレ以前ニ比スレハ排除サルヘキ水位ノ高マレル故比較的
高潮ニテモ自然排除サルルニ至ル此ノ時潮位次第ニ高マリ且田面内ノ水モ今少シク排除スヘキ必要アルトキハ初メテ機械ヲ運轉ス然トキハ河水ハ次第ニ高マリ遂ニ滿潮位ト雖排出スルニ至ル右ニ依リ如

何ナル豪雨ト雖堤防完全ナル以上ハ稻ヲシテ水腐セシムルコトナシ即チ該計畫ハ機械ニテ水ヲ直接ニ排除セシテ出來得ル限リ自然排水ニ依ラシメ尙田面ニ滯水アル場合初メテ機械力ニ依リテ堤外ニ排除シ其ノ水位ノ隆起ヲ利用シテ高潮時ニ於テモ排除セシムルニ在リ
該工事ニ當リ困難ヲ感シタルハ築堤ニ要スル適當ノ土ナリ附近一帶所謂土丹岩ノミナリシヲ以テ先ツ河底ノ泥土ヲ搔上ケ一旦乾燥シテ之ヲ中心羽金トナシ外部ヲ土丹岩ニテ包ミ以テ豫定ノ大サトナシタルモノナリ

排水機概要

一、排水面積 百四十六町步

一、蒸汽機關 橫置單働式非凝縮高速式、汽管徑十吋、衝程十吋、一分間回轉數百五十、圖示馬力五十

一、蒸汽罐、多管式、胴經五呎、全長十四呎、常用氣壓百封度

一、揚水機、離心働ポンプ、ダブルサクシヨン式、ボリュード圓形、實揚程三呎、一分間揚水量千二十立方尺、一分間ノ廻轉數百五十、唧筒ノ口徑二十吋、放水管直徑二十吋、全長三十呎

一、費用、一萬三千九百五十八圓（地形費、建築費、水路費等一切）

兵庫縣

一 西原耕地整理組合

本地區ハ淡路三原郡ノ北西松帆浦ノ海濱ニアリ總面積十六町步ニシテ地目ハ山林畑ヨリナル、元來本地區ハ元海面ナリシモノノ漸次砂礫ノ沖積シ陸地ニ變シタルモノノ如ク地下十四五尺ニ至ルマテ悉ク細砂ニシテ殆ト耕土ヲ交ヘス地目ハ山林畑ナルモ全ク不毛ノ砂濱ナリシカ會々當地方ノ地下水豊富ナルコトヲ知ラルルニ及ヒ客土ニヨリ土質ヲ改良シ地下水ヲ揚騰シテ開田スルコトヲ企圖セラ

計畫ノ概要

地區中央ノ凹所ヲ利用シ長サ七十間巾平均五間深十一尺ノ溝ヲ穿テ揚水機ニヨリ毎秒二、五立方尺ノ湧水ヲ揚騰シ約十三町步ノ水田ヲ作ルモノトス揚水ノ總直高十五尺ニシテ唧筒ハ徑八吋ノ「セントリフユーガル」式ヲ用ヒ原動機ハ十三馬力ノ吸入瓦斯機關ヲ設置セリ

地區内ノ道水路畦畔ハ凡テ厚サ三寸ノ重粘土ニテ卷キ堅メ田ハ地均シヲ行ヒタル上ニ重粘土ヲ以テ厚三寸乃至四寸ニ床張ヲ行フコトトセリ

田ノ床張工事ハ尤モ多額ノ費用ヲ要スルヲ以テ工事ノ初年ニ當リ試ミニ現地ノ地均シヲ行ヒタル上ニ單ニ厚約三寸ニ相當スル粘土散布シ一時ニ稍々多量ノ用水ヲ灌溉シ之ヲ練リ合セ整地ヲ試ミタルモノアリ其ノ成績ハ極メテ良好ニシテ用水ノ地下滲透量モ入念ニ床張工事ヲ施工セルモノト大差ナク費用ハ少ク稻ノ成育ハ遙カニ良好ナシヲ以テ爾來其ノ方法ニヨリ工事ヲ施工シ

ツツアリ

工事施工前ニ當リ關係人ノ憂慮セシ所ハ地下水ノ豊富如何又海濱ナルヲ以テ湧出水中鹽分ヲ含有セサル無キカ及耕地ノ滲透量大ナラサルカ等ニアリシモ工事施行ノ結果之等ハ何レモ杞憂ニ歸シ湧出量ハ極メテ豊富ニテ湧水中ニハ毫モ鹽分ヲ含有スルコトナク耕地ノ用水量モ亦平均〇〇七町秒立方尺ニシテ豫想ヨリ遙カニ少量ナルノ結果ヲ得稻作ハ工事終了後ノ初年ヨリ既ニ二石ノ收量ヲ擧ケツツアリ

工事ノ結果良好ナルヲ以テ今回隣接地ニ約三十町歩ニ亘リ同様ノ事業ヲ企圖セラルルニ至レリ今當組合ノ工事費總額及其ノ内譯ヲ示セハ次ノ如シ

科 目	豫 算 金 額
主要工事費	三、二二〇・五三九
道路築造費	九七・〇五〇
水路掘鑿費	二三・四八九
揚水機竝基礎費	二、九〇〇・〇〇〇
揚水機家屋建築費	二〇〇・〇〇〇
一般工事費	一〇、一八四・二九二
溝渠掘鑿費	五六・五六三

道路築造費	三六七・二五〇
畦畔築立費	七九・八九五
土橋築設費	五五・一九二
地盤盛土費	七、八二二・七六七
地盤切下費	一、〇〇七・一〇〇
土管敷設費	七五・五二五
レール損料	七二・〇〇〇
合 計	一三、四〇四・八三一

二 永上郡葛野村ノ内長野村耕地整理組合

灌溉揚水事業概要

長野村ハ永上郡成松町ヲ距ル半里西方ニ彎入セル山谷葛野村ノ一部ニシテ北ハ葛野川ニ接シ他ノ三方ハ山脈ヲ以テ圍繞ス元來葛野村ハ山林面積一千五百町歩ヲ有シ北西南ノ三面ハ山嶽ヲ以テ圍マン中ニ平坦ナル耕地田一百町歩畑二百七十町歩ヲ有スル郡内有數ノ大山谷ニシテ又豊富ナル澗流少ナカラスト雖地層ノ關係上之等ノ溪流ハ何レモ山谷ヨリ直ニ地下ニ滲透シ去リ葛野川ノ如キ降雨後僅カニ數日間ノ水流ヲ見ルノミニシテ平時一滴ノ水量ナク之ヨリ灌溉水ヲ得ルコト能ハス故ニ現在水田ノ多クハ湧出水又ハ溜池ニヨルモノナリト雖山勢急峻ニシテ且地層不規則土質不良

ニシテ溜池ノ地最モ乏シク二百餘町歩ノ畑ハ之カ變換ヲ望ムコト切ナリト雖奈何トモ爲シ能ハサ
 リシカ之等山谷ノ水ハ悉ク地下ニ滲透スルモノナルヲ以テ地下水ノ豊富ナルコト必然ナルヘキヲ
 覺知セラルルニ及ヒ當長野村ハ卒先シテ之ノ地下水ヲ利用シ在來ノ水田五町歩ノ旱魃ヲ防クト共
 ニ約十一町歩ノ畑ヲ田ニ變換スルコトヲ企畫スルニ至レリ然トモ其ノ地下水位ハ灌溉セムトスル
 耕地面ヨリ最高二十尺最低四十尺以下ニアルヲ以テ到底自然灌溉ヲナシ能ハス故ニ揚水機ニヨリ
 地下水ヲ揚水灌溉スルコトトセリ地下水ノ調査ニ就テハ葛野全村ニ亘リ人家ノ井戸ニヨリ高低湧
 水速度湧水量ヲ調査シ地區ノ西北隅山ニ近ク且葛野川ニ接スル地點ヲ選ミ直徑一間半深二十三尺
 (地區ノ最底地盤)ノ用水井戸ヲ設ケ最低水面上十五尺ノ所ニ唧筒ヲ据付ケ更ニ直高二十五尺距離
 三百六十尺ノ處ニ揚水シ山腹ニ用水本溝ヲ設ケ之ヨリ南方地區ノ高部ニ導キ而シテ縱横ニ水路ヲ
 配置シ灌溉スルモノトセリ

揚水ノ總直高ハ四十尺ニシテ内吸上十五尺押上二十五尺唧筒ハ「セントリフガルホンブ」ニシテ
 吸水管徑六吋排水管ハ徑九吋ノ土管ヲ用ヒ厚四寸混泥土ヲ以テ卷キ堅メ山腹ニ煉瓦ノ水塔ヲ作り
 之ヨリ用水本溝ニ放水ス一秒時間揚水量一、六秒立方尺ナリ唧筒ヲ回轉スヘキ原動力ハ蒸氣力ニ
 シテ三十馬力ヲ有スル「コルニツシュ」型汽罐及水平單氣筒高壓式汽機ヲ設置セリ
 如上ノ水量及揚程ニヨレハ約二十四實馬力ヲ以テ足ルモ將來ノ變換開墾地數町歩ヲ見込ミ特ニ三
 十馬力ノ原動力ヲ準備セリ又甚タシキ旱魃減水ノ際ヲ豫想シ吸水管ハ豫定ヨリ更ニ三尺餘水底ニ

入ラシメ井戸ハ底部ヨリ西北方(葛野川ニ直角ノ方向)ニ向ヒ高四尺巾四尺方形ノ隧道約二十間
 ヲ穿鑿シ萬一ノ湧水不足ヲ補フコトトセリ

工事施行ノ結果ハ湧水豫想以上ニ豊富ニシテ頗ル好結果ヲ得タリ之カ爲隣村ナル葛野村ノ内柿柴
 村面積十七町餘及成松町ノ内柿柴町面積十六町歩ハ本村ト同状態ノ土地ナルカ當事業ノ有利ニシ
 テ且用水源ノ確ナルヲ認メ耕地整理ヲ企劃スルニ至レリ柿柴町ハ組合ヲ設立シ目下工事施行中ニ
 シテ柿柴村モ亦耕地整理組合設立認可ノ手續中ニシテ工事着手ヲ急キ居レリ
 今此ノ揚水機設置ニ要シタル費用ヲ掲クレハ左ノ如シ

- 一、コルニツシュ型汽罐壹臺付屬品代 一、高壓式汽機 壹臺
- 一、給水唧筒 壹臺 一、遠心式唧筒 壹臺
- 一、給水排水管 貳本 一、調 革 二筋
- 一、汽機汽罐連絡用鐵管
- 以上購入代金參千圓

- 一、建物新築費 四百貳拾圓
- 一、基礎工事費 千貳百圓
- 一、購入ニ係ル出張旅費雜費 參拾五圓
- 合計金四千六百五拾五圓

新潟縣

四〇四

本縣耕地整理事業ハ從來主トシテ單純ナル區劃改良ヲ目的トセルモノ多ク從テ計畫上特種ノモノナキ
モ信濃川沿岸湛水地ノ改良即チ排水路ノ掘鑿及排水機ノ設置ハ水利組合ノ經營ニ依リ土地改良トシテ
著シク發達シ大正二年十一月末現在ニ於テ排水機設置八十七ヶ所其ノ關係面積一萬八千四百六十九町
一反歩ニシテ就中蒲原郡新飯田村外十ヶ町村普通水利組合ノ經營ニ係ル排水事業ノ如キ地區總面積
七千四百八十七町歩ニ對シ工費約四十萬圓ヲ投シ機械排水(唧筒及水車六ヶ所揚程九尺乃至十二尺、總
排水量每秒八百二十五立方尺、總馬力二千七百七十)ヲ施行シタリト雖其ノ計畫上ニ關シテハ特ニ他ノ
參考ニ資スヘキモノナシ

千葉縣

手賀沼開墾調査

現況ノ大要

一、地勢

本地區ハ東葛飾印旛兩郡ノ中間ニ介在スル手賀沼ヲ中心トシテ其ノ附近耕地ヲ以テ形成セラル東ハ
印旛郡大森町ニ西ハ東葛飾郡千代田村及富勢村ニ南ハ印旛郡永治村東葛飾郡手賀村風早村ニ北ハ東

葛飾郡布佐町湖北村我孫子町ニ及ヒ其ノ面積三千二百七十四町歩ヲ含有スル大區域ニシテ其ノ流域
ハ地區内ヲ合シ一萬六千二百町歩ニ達セリ而シテ手賀沼ハ蝦形ヲナシ東西四里十八町五十間南北一
町乃至十八町ノ沼池ニシテ平水ノ面積ト雖千五百五十四町歩餘ニ上レリ該沼ノ稍東部手賀村城戸地
先ヨリ湖北村下新木地先間ニ往古ヨリ千間堤ト稱シ沼ヲ横斷セル舊堤ノ形跡アリ之ヲ境界トシテ西
ヲ上沼ト云ヒ東ヲ下沼ト稱セリ而シテ上沼ノ底ノ中央ノ縱斷線ハP.上四尺ニシテ東西ニ平坦ニシテ
南北ニ向テ此ノ縱斷線ヨリ約三分ノ一ノ傾斜ヲ以テ上昇シ下沼ノ底ハ上沼ヨリ稍高ク中央縱斷線
ハP.上六尺ニシテ之ヨリ南北ニ向テ約七分ノ一ノ傾斜ヲナシ上下沼共ニ沿岸耕地ニ連接ス沼ノ最
低部ハ永治村地先ノP.下二尺トス其ノ面積僅ニ一反歩ナリ又沼ノ最高部即チ耕地トノ境ハP.上九尺
前後ノ位置トス

沼ノ周圍耕地ノ東部ニ位スル部分ハ殆ト平坦ニシテ龜成落谷津ニ連ル(此ノ谷津ハ凡ソ流域面積千
五百八十三町)其ノ南部ハ五分内外ノ昇リ勾配ニテ高臺ニ連レリ而シテ此ノ方面ニハ三大谷津ヲ
有ス一、金山落谷津(流域面積千六百六十一町餘)二、染井入谷津(流域面積八百十五町)三、鎌ヶ
谷々津(流域面積三千七百六十三町)之ナリ其ノ西部ハ直ニ篠籠田谷津(流域面積二千三十七町)地
金落谷津(流域面積八百九十四町)ハ手賀沼沿岸耕地ニ連接ス其ノ北部ハ三分ノ一内外ノ傾斜耕
地ニシテ直ニ成田鐵道ノ走レル高臺ニ連ル

前記谷津流域ハ高臺ト谷津耕地ト及之ト連接スル急傾斜面ノ三者ヨリナルモノニシテ高臺五四、五傾

斜面一六、〇谷津耕地二九、五ノ割合ヨリナル而シテ高臺ノ位置ハP.上六十尺乃至九十尺ノ所ニアリ高臺ニ存スル地目ヲ面積順ニヨリテ列擧スレハ山林、原野、畑等ナリ而シテ是等ハ一般ニ平坦ニシテ緩ナル波狀ヲ爲ス山林ハ十年生位ノ松最モ多ク檜欅杉之ニ次ク高臺ニ接スル急傾斜地ハ十度乃至四十度ニシテ一般ニ山林ニシテ高臺ノ山林ト同一状態ナリ谷津耕地ハ縦斷ニテ五百乃至千二百分ノ一横斷ニテ五十乃至百分ノ一ノ傾斜ヲ有ス

二、整理地區ニ屬スル耕地面積及其ノ被害ノ狀況

地區内ニ屬スル耕地其ノ他ノ地目別面積ハ水田千四百二町五反畑二百三十五町四反池沼九百二十二町九反原野四百九十六町其ノ他二百十七町八反歩合計三千二百七十四町二反歩ニシテ内官有地ノ池沼八百七十八町九反原野七町二反其ノ他百三十七町歩ヲ有セリ

而シテ明治三十五年以降同四十四年ニ至ル十箇年間ニ於ケル水害耕地面積及其ノ被害總額平均毎年水田五百七十二町一反歩此ノ被害石高四千五百七十九石ニ達シ其ノ被害ノ程度ハ收穫皆無百二十町一反、二分作四十五町一反、五分作百九十一町八反、七分作二百十五町一反歩ナリトス

更ニ明治四十三、四ノ兩年ニ於テ收穫皆無ノ爲水害免租ヲ受ケタル反別及地價ハ四十三年ニ於テ六百四十町九反地價金八萬七千二百十二圓四十四年ハ五百五十二町五反歩地價金六萬七千七百三十圓ノ多キニ達セリ

右ノ如キ現況ニシテ本地區ハ年々水害ニ苦ミ且廣漠タル池沼ハ空シク放棄セララルカ故ニ之ヲ救済ス

ルト共ニ新ニ開發ヲ講スルハ實ニ本縣經濟上急要ノコトトス依テ之カ計畫ニ付反復調査ノ結果ハ排水機ニ依ルノ外到低自然排水ノ見込ナキカ如シ以下其ノ計畫ニ付テ概説セントス

計畫ノ大要

一、機械排水ニ關スル水量

沼ノ地盤高ハ前ニ述ヘタルカ如クY.P.上四尺ニシテ利根川平水ハY.P.約八尺五寸ナレハ本地區ノ排水ハ機械力ニ依ルノ外方法ナキカ如シ而シテ排水機ヲ利根川堤防ニ接近シテ一ヶ所ニ設置スル時ハ排水機設置費ヲ輕減スルモ水路費及成田鐵道ヲ横斷スル箇所ノ鐵橋ニ多大ノ費用ヲ要スルヲ以テ之ヲ廢止シテ代フルニ大森町發作地先ニ號排水機ニテ八尺七寸揚水シタモノヲ再ヒ木下地先ニ於テ一號ノ排水機ニヨリ更ニ二十四尺ノ揚程ヲ以テ利根川ニ排水スルコトトセリ該計畫ニ依ルトキハ一號排水機ハ全流域一萬六千二百町歩ニ對スル惡水量ヲ排除スルノ必要アルモ二號排水機ハ全流域ヨリ來ル惡水量ノ一部ハ用排水溝ヲ兼タル承水溝ニヨリ直ニ一號排水機ニ導キ得ルヲ以テ一號排水機ノ排水能力ヨリ稍小ナラシムルヲ得以下一號二號排水機ノ排水量ニ就テ述ヘントス

一號排水機

本地區ノ如キ機械排水ニ依ル計畫ニ於テハ其ノ排水量ノ算出ハ最モ注意ヲ要スルコト論ヲ俟タス依テ本地區ト稍其ノ状態ヲ同クスル座生沼、三ヶ尾沼開墾ノ實況及既往手賀沼水位ノ上昇ト降雨量ノ關係竝大正二年二月二十二日、大正二年八年二十六日ニ於ケル降雨ト該沼ニ於ケル湛水量ノ調査ノ

結果等ヲ參酌シテ全流域内ノ降雨量カ沼中ニ集注セラルル量ノ割合ハ三割五分ト決定セリ之ヲ基礎トシテ既往三十七ヶ年中間明治十一年八月同十八年十月同二十六年九月同四十三年八月ニ於ケル連續最大降雨量ニ就テ研究ノ結果全流域面積一萬六千二百町歩ニ對シ十三耗丈ケノ厚サヲ一日間ニ排水スルヲ得八十ヶ年ニ一回位多少ノ水害ヲ蒙ルニ過キスシテ比較的機械設置費及經常費ニ於テ利アルヲ以テ之ノ能力ニテ充分ナルモノトス今之ノ水量ヲ毎秒ニ換算セハ八百六十八立方尺トナルモ尙機械設置費ヲ減少センカ爲沼ノ新田ニ開發セラルヘキモノノ中假リニ千町歩ニ對シ數日間三寸深ノ水ヲ湛ヘシムルモノトシ之ヲ差引タルモノ即チ七百七十五立方尺ヲ排水量ト決定セリ

二號排水機

一號排水機ノ排水量七百七十五立方尺中ニ於テ稍高キ地域ヨリ來ル惡水ノ一部毎秒百五十立方尺ハ前ニ述ヘタルカ如ク承水溝ニヨリ直ニ一號排水機ニ輸送セラルルノミナラス更ニ湖北地方ニ用水補給ノ爲毎秒三十立方尺ヲ揚クル揚水機設置セラルルヲ以テ之レ亦排水ノ用ヲ兼ネ一號排水機ニ送水スルカ故ニ結局二號排水機能力ハ一號ノ七百七十五立方尺ヨリ百五十五立方尺ト三十立方尺トヲ引去リタルモノ即チ五百九十五立方尺ノ排水能力ニテ適當ナルコトナレリ

二、排水幹線

排水幹線ハ之ヲ承水溝及ヒ沼中ノ二種ニ區別スルヲ得而シテ承水溝ハ四圍ヨリ流出スル水量百五十立方尺ヲ輸送スルヲ極度トセルカ故ニ其ノ幅員大ナラス又場所ニヨリ其ノ大ヲ一定セス大ナルモノ

ニアリテハ水面巾二十六尺水深五尺ニ達スト雖其最小ナルモノニアリテハ水面巾十四尺水深四尺ニ過キス又沼中ノ幹線ハ篠籠田ヨリ金山落迄ハ其幅員水面巾六十六尺水深六尺ニシテ金山落ヨリ來ルモノハ三十三尺水深六尺ナリ面シテ其合流點以下ニ至リテハ實ニ水面巾八十四尺水深六尺ニ達セリ

三、用水幹線

用水源ハ各谷津ヨリ流出スルモノ毎秒八十四立方尺ニ達シ之ヲ水田三十町歩ニ對シ一立方尺ノ割合ヲ供給スルトキハ五十七立方尺ニテ不足ヲ見サルノ割合ナレトモ水源ヲ去ル遠キ所ニアリテハ灌溉意ノ如クナラサルノ恐アルカ故ニ更ニ毎秒三十立方尺ノ揚水機ヲ設置シ之カ不便ヲ補フコトトセリ
(Y.P. 六尺以下ハ灌溉セス自然耕地滲透水及ヒ低地浸透水ヲ利用スルコトトセリ)而シテ用水幹線ハ傾斜面ト耕地トノ界ニ設ケタル承水溝ヨリ分岐セシム其ノ大サハ支配反別ニ依リテ各地一ナラサルモ之ヲ十六個ニ大別スルコトヲ得而シテ其ノ幅員ハ小ナルモノ水面幅二尺四寸水深六寸大ナルモノト雖水面巾九尺水深二尺四寸ニ過キス

四、道路幹線

道路ノ幹線ハ勉メテ從前ノモノヲ改修スルニ止タリト雖新ニ舊渡船場タリシ沖戸地先千間堤、湖北下、岩井、船戸及新船戸ノ六ヶ所ニ道路ヲ設ケ馬踏ノ高サハY.P. 上十二尺ニシテ高水位ト雖水面上二尺ノ所ニシテ其ノ巾一間半乃至二間トシ四時絶ヘス自由ニ車馬ノ往來ヲ便ニス

五、整理前後地目別

耕地整理前ニ於ケル各地目反別ハ現況ニ陳ヘタルカ如シト雖其ノ整理後ニ於ケル各地目反別ヲ舉ク
レハ左ノ如シ

地目	整理前		整理後		差引
	面積	畝	面積	畝	
田	千四百〇二町		二千七百六十五町		千三百六十三町
畑	二百三十五町		二百五十三町		十八町
池沼	千四百十八町		三十町		
原野	二百十七町		五百〇二町		二百八十五町
其他					
計	三千二百七十二町		三千五百五十町		二百七十八町ハ丈量延ノ結果トス

即チ整理前ノ各地目反別ト比較スルトキハ池沼、原野タリシモノハ全然水田ニ開發セラレ實ニ丈量延
二百七十餘町歩ニ達スルカ故ニ結局水田ノ増加反別ハ千三百六十二町八反歩ニ及ヘリ今又右ノ内官有
池沼ノミニ付見ルトキハ池沼ノ實測反別ハ九百五十八町歩ニシテ之カ整理後ハ水田ニ開發セラルルモ
ノ實ニ八百二十一町歩ノ多キニ達セリ

六、工事費

工事費ハ其ノ細目ヲ舉クルノ煩ヲ避ケ土工及工作物費、機械費及豫備費ヲ加算スルトキハ其ノ金額
八十八萬圓トナル

七、利益計算

(一) 千葉縣トシテ生産增收

- (イ) 池沼ヲ新ニ開發シテ得タル水田 二萬三千石 (一反歩ニ對シ收穫二石ノ割)
- (ロ) 池沼ノ沿岸ニシテ從來水害ノ劇甚ナリシ水田五百五十五町ヨリ 四千四百四十石 (約六分作ト假定シ一反歩二石ノ割)
- (ハ) 普通水田九百九十五町歩ヨリ 一千九百九十石 (一反歩ニ付二斗ノ增收ノ割)

計 二萬九千四百三十石

此ノ價額金五十二萬九千七百四十圓 (一石十八圓)
外ニ新田及被害劇甚水田ヨリ收ムル糞代金二萬八千六百二十圓總合計金五十五萬八千三百六十圓

(二) 自作農業者トシテノ利益

收入

金五十五萬八千三百六十圓

總 益 金

- 内 譯
- 金四十一萬四千圓
- 金七萬九千九百二十圓
- 金三萬五千八百二十圓
- 金二萬八千六百二十圓

支出

開墾地千五百五十町歩ヨリ收穫セル二萬三千石代
被害劇甚ナル從來ノ水田五百五十五町歩ヨリ增收スル四千四百四十石代
普通水田九百九十五町歩ヨリ增收スル一千九百九十石代
開墾地其ノ他ヨリ得ル糞ノ增收益金

金三十一萬四千二百六十三圓

内 譯

金十四萬三千七百五十圓

金六萬一千五百圓

金八萬五千十三圓

金五千圓

金一萬九千圓

收支差引

金二十四萬四千九十七圓

(三) 沼地中官有ニ屬スル八百二十一町歩ノ開墾地ヲ組合ニ於テ自ラ經營シ其ノ小作米ヲ以テ組合費ノ全部ヲ負擔スルトキハ其ノ收支左ノ如シ

收 入

金十一萬八千二百二十四圓

内 譯

金十一萬八千二百二十四圓

支 出

四二二

總 支 出 金

公課、種苗、人夫賃、肥料代等新田千五百十町歩ニ對スル分
機械運轉費其ノ他機械減價金及修繕費
工費其ノ他八十八萬圓ニ對スル二十年賦七分三厘ノ償還金
組 合 事 務 費
從來沼池ヨリ産スル鴨魚類其ノ他ノ利益ノ損失額

純 益 金

總 收 入 高

一反歩小作料八斗一石十八圓餘ノ割ニ
テ反當純收益金十四圓四十錢餘ツ

金十六萬二千九百九十三圓

内 譯

金八萬五千十三圓

金六萬一千五百圓

金五千圓

金一萬一千四百八十圓

收支差引

金四萬四千七百六十九圓

不 足 高

總 支 出 高

年 賦 償 還 金
機 械 運 轉 費 其 他
組 合 事 務 費
公課其ノ他諸費一反歩ニ付一圓四十錢
弱ノ割ニテ八百二十一町歩ニ對スル分

備考 以上ノ如ク四萬四千七百六十九圓ノ不足ヲ生スト雖從來ノ土地所有者ハ公課其ノ他ニ於テ一萬一千四百八十圓ヲ輕減スルカ爲ニ差引不足額ハ金三萬三千二百八十九圓トナルカ之ニ依テ得ル所ノ利益ハ實ニ二十萬四千七百七十三圓ノ巨額ニ達セリ(但シ古田ヨリ增收スルモノ十一萬五千七百四十圓民有池沼及原野ヲ開墾シタル新田ヨリ收穫スルモノ七萬七千三百十五圓水害甚シキ古田及新田ノ一部ヨリ收ムル蕪代金一萬千七百十八圓)

愛 知 縣

一、土取池利用ノ計畫

本計畫ハ主ニ海濱ニ接續セル排水不良ノ土地ニシテ盛上ノ土積ヲ容易ニ得ルコト能ハス爲ニ排水計畫ノ收支計算上地區内ノ生産力最モ弱少ナル土地ヲ掘下ケ之ヲ以テ地盤盛上ノ土積ニ利用シ掘下ケ

タル個所ヲ更ニ利用シテ養魚池ヲ經營スルノ目的ニ出テタルモノニシテ其ノ一例トシテ縣下渥美郡牟呂吉田村神野新田耕地整理地區ニ於ケル該計畫ニ付其ノ大要ヲ掲クレハ左ノ如シ

計畫ノ大要 神野新田ノ内東北隅ノ一劃面積百七十九町步餘ノ耕地整理地區ハ土地極メテ平坦惡水ノ排除ニ困難尠ナカラス且盛上ノ土積ヲ得ルコト能ハサルカ爲地區内葭生地又ハ池沼等生産力乏シキ部分ヲ掘下ケ之ヲ以テ一部分ノ盛上ヲ爲シタル結果掘下ケラレタル土地ヲ利用シテ養魚場トナシ之ニ依リテ相當ノ利益ヲ收メツツアリ即チ總面積百七十九町二反五畝十六步内三十七町一反四畝十八步ハ養魚池トシテ利用シ之カ堤防其ノ他ノ設備費及地盤、掘下費等ヲ計上スルトキハ合計一萬六千四百三十六圓六十五錢トナリ一反步當リ純收益金十八圓九十四錢弱ニシテ合計金七千三十八圓三錢八厘ノ利益ヲ收メ居ルカ如キ現況ナリ

二、砂防溜池利用ノ計畫

本計畫ハ縣ニ於テ砂防設備ヲ行ヒタル箇所中砂防堤内ニ堆積セラレタル土砂ノ爲平坦ナル土地ヲ生シ農地トシテ利用セラルヘキモノニ就テハ更ニ其ノ上流ニ砂防兼灌溉用ノ溜池ヲ新設シ平坦ト爲リタル土地ヲ開墾スルコトヲ目的トシタルモノニシテ其ノ一例トシテ縣下西加茂郡三好村大字福谷字廣久傳ニ於ケル該計畫ニ付其ノ概要ヲ掲クレハ左ノ如シ

計畫ノ大要 本地區ハ總面積十一町六反八畝二步ニシテ縣ニ於テ明治十四、十五、ノ二ケ年ニ涉リ本地區ノ下流約百數十間ノ個所ニ於テ砂防ノ爲延長百二十間高サ十數尺ノ砂防堤ヲ築造シタリシカ年

々土砂堆積ノ爲約十數町步ノ平坦地ヲ生シタルヲ以テ之カ開墾ヲ企テ上流ニ更ニ砂防兼灌溉用ノ溜池ヲ新設シ整理後十町四反六畝三步ノ田地ヲ得ルノ計畫ニシテ工事已ニ大概完了シ不毛ノ土地今ハ化シテ平均二石ノ收量ヲ得ラルヘキ美田ト爲ルニ至レリ

尙之ニ類シタルモノハ本地區ニ接續シタル同村大字福谷地區内ニ於テモ亦見ル所ナリ

滋 賀 縣

地下水ヲ灌溉ニ利用セシ成績

滋賀縣犬上郡豐鄉村耕地整理組合

第一章 地區ノ概説

一 位置及面積

地區ハ近江國湖東平野ノ中央ニ位シ彦根町ノ南約二里半近江鐵道豐鄉驛ノ北方ニアリ西ハ大字四十九院及石畑ノ部落ニ接シ東ハ西甲良村大字下ノ郷及豐鄉村大字八町ノ耕地ト境シ北ハ西甲良村大字尼子耕地ニ南ハ愛知郡日枝村大字上枝ノ耕地ニ界ス

東西約五町南北凡十五町包容面積百一十一町一反六畝八步内民有地百四町六段七畝二十三步國有地六町四段八畝十五步ヲ有シ其ノ内詳左ノ如シ

種別	地目		面積	地積	地價	筆數
	田	畦				
民有地	田外	畦畔	九〇・九六一九	四三、四三五・九〇〇	一、〇〇七	
	山	林	一〇・三五一四	一、一四四・〇六〇	三〇四	
	原	野	二・九九二三	二五〇	一	
	溜	池	一〇八	六・四八〇	八	
	計	計	三二二・三			
國有地	溝	道	二〇六	四四、五八六・六九〇	一、三二二	
	計	計	二・二七二一			
	渠	路	四・二〇二四			
	計	計	六・四八一五			
合計	計	計	一一一・一六〇八			

二 地勢及土質

地勢概シテ平坦ナルモ田區毎ニ五六寸乃至一尺ノ高差ヲ有シ其ノ形長方形ニシテ東北部最モ高ク漸次西南部ニ傾斜セリ田區ノ大サハ比較的大ニシテ一區劃最大面積一段歩最小面積一畝歩平均面積凡ソ四畝歩ニシテ其ノ配列稍々佳ナリ

土質ハ一般ニ第四紀新層ニ屬スル壤土ニシテ大字四十九院ハ稍砂質ヲ帶ヒ大字石畑ハ多少粘質ナリ地

味豐沃ニシテ表土ノ深サハ五六寸心土ハ一二尺ニシテ礫質埴土トナリ更ニ數尺ヲ下レハ埴質礫土トナリ最下層ハ礫土ナリトス地下水位ハ極メテ低ク一丈乃至二丈五尺ニ達シ排水最モ佳良ナリ

三 戶口及生業

地區ハ大字四十九院及石畑ノ二部落ニ屬シ大字四十九院ハ戶數百十六人口五百七十八大字石畑ハ戶數五十六人口二百八十九住民ノ多クハ農業ニ從事スト雖中仙道ニ沿ヒ殊ニ近江商人ノ淵藪地ナルヲ以テ商業ヲ營ミ又ハ行商出稼ニ從來スルモノ尠ナシトセス平均一戶耕地反別ハ五反四畝歩ニ當リ之ヲ農家戶數八十七戶ニ割當ツル時ハ一町八畝歩ナリト雖他部落農家ノ耕作スルモノ多キヲ以テ實際耕作面積ハ平均七段一畝ナリトス

大字	總戶數	地主	自作農	自作兼小作農	小作農
四十九院	一一五	一〇	一四	一九	二七
石畑	五七	六	五	七	一五
合計	一七二	一六	一九	二六	四二

四 地區外ノ狀況

地區外ノ地勢ハ地區内ト等シク一般ニ西ニ傾キ大部分田ニシテ犬上川ノ流域ニ屬シ概ネ旱魃地ナリ故ニ耕作ノ方法懇切ヲ極メ古來水利ニ苦心セリ

第二章 地下水利用前ノ狀況

地區ノ用水ハ田一反歩ニ付一晝夜凡ソ七十石即一町歩毎秒〇、〇五二五立方尺ヲ要シ地區内灌溉面積九十一町歩ニ對シテハ六萬三千六百石即毎秒四、七七七立方尺餘ヲ要ス然ルニ水源ハ一里有餘ノ上流犬上郡東甲良村大字金屋犬上川一ノ井堰ヨリ來リ下ノ郷川トナリ東甲良村大字横關西甲良村大字下ノ郷ヲ經テ地區内ニ流入ス而シテ灌溉期間中ハ關係部落ト協議ノ上時間ヲ定メテ引水スル習慣ナリキ然トモ晴天五日乃至十日以上打チ續クトキハ忽チ上流下ノ郷ノ用水缺乏スルヲ以テ當然地區内ニ引用スヘキ時間内ト雖盜水ヲナシ成ハ水路ニ漏レ穴ヲ穿ツヲ以テ區内三分ノ一ノ用水ニモ缺乏ヲ來シ旱魃更ニ繼續スルトキハ川水涸渴シテ更ニ其用ヲ爲ササルニ至ル此ノ如ク地區内ノ用水缺乏スルノミナラス附近一帶旱魃地ナルヲ以テ水利ノ慣例錯雜シ自然水論ヲ釀スコト珍シカラス如斯永利ノ困難ナルヲ以テ古來ヨリ地區内ニ一丈乃至三丈ノ堀井戸三百餘箇所ヲ設ケ桔槔ヲ以テ井水ヲ汲ミ上ケ用水ヲ補フト雖旱魃久シキニ亘ルトキハ地下水位次第二下降シテ一丈乃至三丈ノ汲上ヲ要シ炎暑燒クカ如キ三伏ノ候晝夜兼行老幼婦女ニ至ルマテ揚水ニ從事シ殆ト愁ムトキナシ今井水汲上ニ要スル勞力ヲ示セハ左ノ如シ

揚程	釣瓶ノ大キサ	汲上人夫	賃	金	揚水量	反別灌溉	揚水一石ノ經費	一反歩灌溉費
一丈	一斗二升	男一人 女一人		一・〇五〇	一八〇 _石	三反	五厘八毛	三・四八 _円

一丈五尺	一斗二升	男一人 女二人		一・四〇〇	一八〇	三反	七厘七毛	四・六二
二丈	一斗	男一人 女三人		一・七五〇	一五〇	二反半	一錢一厘六毛	六・九六
二丈五尺	一斗	男二人 女二人		二・一〇〇	一二〇	二反	一錢七厘五毛	一・〇五〇
三丈	一斗	男三人 女三人		二・四五〇	九〇	一反半	二錢七厘二毛	一・六三二

前表ノ如ク用水汲上ノ勞苦極メテ大ナリ然モ水位ノ低下スルニ從ヒ勞力ヲ要スルコト増大シ一村ノ全カヲ傾注スルモ遂ニ維持スル能ハサルニ至ル故ニ自作農家ニアリテハ他部落ヨリ人夫ヲ雇ヒ入レテ全力之ニ從事スルモ小作農ノ家ニ於テハ忽チ生計ニ困難ヲ來シ放棄スルノ止ムナキニ至ル故ニ地主ハ小作人ニ飯米ヲ貸付シ或ハ金品ヲ與ヘテ之ヲ勵マスト常トス

然トモ旱天更ニ繼續スルトキハ田面次第ニ龜裂ヲ生シ心土ニ徹スルヲ以テ一度龜裂セル田ハ如何ニ多量ノ水ヲ灌入スルモ恰モ籠中ニ水ヲ汲ムカ如ク徒ニ地下ニ滲透シテ其効ヲ奏セス禾苗萎縮枯死シテ收穫皆無ノ慘狀ヲ呈スルコト珍シトセス若シ夫レ耕作時期ニ於テ旱魃ニ遭遇センカ稻ヲ栽培スルコト能ハス僅ニ大豆小豆等ヲ播キ或ハ雜草ノ繁茂ニ任セテ荒原ノ觀ヲ呈スルニ至ル況ンヤ井戸ノ設ケナキ他ノ田面ニ於テヤ

カカル旱魃ニ際シテハ神明ニ祈願シテ降雨ヲ待ツノ例多シ之素ヨリ無稽ノ迷信ニ似タリト雖人力ヲ盡シテ殆ト爲スナキニ際シテハ一種ノ慰安策トナルヘク又以テ古來旱害ニ困難セシヲ想像スルニ足ルヘ

維新以前ニ於ケル旱害ノ程度ハ記録ノ微スヘキナキヲ以テ詳細ニ之ヲ知ル能ハスト雖明治ノ初年ヨリ以後ニ係ルモノ左ノ如シ

年 度	旱 魃 時 期	大字四十九院 旱害減收歩合	大字石畑同上	備 考
明治六年	自五月下旬 至七月 月	・五〇	・四〇	田ノ七分植付殘大豆作付
同 七 年	同五 月	・五〇	・四〇	
同 八 年	同六月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 年	同五月中旬	・五〇	・三〇	
同 十 三 年	同五月中旬	・五〇	・三〇	
同 十 六 年	同六 月	・五〇	・七〇	田面ノ龜裂八割ニ達ス
同 十 七 年	同五 月	・六〇	・三〇	
同 十 九 年	同六 月	・三〇	・四〇	
同 廿 一 年	同六 月	・三〇	・二〇	
同 廿 六 年	同六 月	・四〇	・四〇	
同 廿 七 年	同五 月	・三〇	・五〇	
同 卅 六 年	同七月下旬	・三〇	・三〇	
同 卅 七 年	同七月下旬	・五〇	・四〇	
同 卅 八 年	同七月上旬	・五〇	・四〇	
同 卅 九 年	同八 月	・三〇	・三〇	
同 四 十 一 年	同九 月	・四〇	・二〇	
同 四 十 二 年	同九月下旬	・三〇	・五〇	
同 四 十 三 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 四 十 四 年	同八月下旬	・五〇	・四〇	
同 四 十 五 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 四 十 六 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 四 十 七 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 四 十 八 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 四 十 九 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 一 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 二 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 三 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 四 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 五 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 六 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 七 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 八 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 五 十 九 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 一 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 二 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 三 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 四 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 五 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 六 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 七 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 八 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 六 十 九 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 一 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 二 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 三 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 四 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 五 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 六 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 七 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 八 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 七 十 九 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 一 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 二 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 三 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 四 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 五 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 六 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 七 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 八 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 八 十 九 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 一 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 二 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 三 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 四 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 五 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 六 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 七 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 八 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 九 十 九 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
同 一 千 年	同八月下旬	・三〇	・三〇	
平均一ケ年		・三〇	・三〇	

即明治以降ノ實歴ニ徴スルモ三割以上ノ減收前後十三回平均一ケ年ノ被害率大字四十九院ハ一割三分 大字石畑ハ一割九厘ニ達ス誰カ被害ノ大ナルニ驚カサルモノアラシヤ

二 耕作ノ狀況

前述ノ如ク地區ハ地勢及土質ヨリ考フル時ハ全部二毛作ニ適當スト雖元來旱魃地ナルヲ以テ耕耨ノ際 用水ノ缺乏ヲ虞レテ其半以上ハ年中湛水シテ一種ノ貯水池トナシ二毛作ハ四割四分ニ過キス耕耨及除 草ノ際ハ互ニ手用水車ヲ以テ隣田ニ水ヲ移シ耕作ヲ了レハ再ヒ水ヲ戻シ敢テ落水スルコトナシ耕耨ハ 人力耕牛馬耕相半シ頗懇切ニ行ヒ以テ微細土ヲ沈澱セシメテ水ノ滲透ヲ防キ畦畔ハ成ルヘク高く築キ テ深水ヲ湛ヘ苗ノ水中ニ没スルモ水ノ漫々タルヲ見テ喜フガ如キ有様ナリ

植付ハ六月上旬ニ行フヲ普通トスルモ降雨ノ如何ニヨリ植付時期ヲ失ヒテ七月上旬ニ至リ甚シキハ稻 ヲ植付クル能ハスシテ大豆小豆等ヲ下種スルコト珍シトセス

肥料ハ藁又ハ紫雲英廐肥等ヲ基肥トシ追肥ハ二番除草ノ際油粕石灰等ヲ施スヲ常トスルモ旱魃ニ遭遇 スル時ハ收穫皆無ナルヲ以テ自然其分量ヲ減シ施用ノ時期モ亦遲延スルヲ免レス

如斯用水ノ缺乏ニヨリ耕耨ノ手數多ク耕作植付施肥等ノ時期ヲ失ヒ肥料ノ用量手控トナリ深水ヲ湛ヘ テ苗ノ發育ノ害スルヲ以テ地質ノ善良ナル割合ニ米ノ收穫少ク一反歩ノ平年作(上田二石四斗中田二 石下田一石八斗)

平均二石ニ過キス加フルニ一朝旱魃トナルトキハ番水桔槔等ニ過多ノ勞力ヲ要スルヲ以テ農家ハ平素 耕作面積ヲ縮小シテ勞力ノ餘裕ヲ存スルニ努メ一町歩ノ耕作力ヲ有スルモノモ七反歩ヲ耕作スルニ止 メ二毛作ノ如キモ亦用水ヲ虞ルルノ結果僅ニ其ノ一部分ニ過キス

第三章 揚水機ノ設置

一 耕地整理

如斯地區ハ素ヨリ附近一帶旱魃地ナルヲ以テ夙ニ水源涵養ノ必要ヲ認メ豊郷村ニ於テハ大瀧村外四ヶ所ト共ニ共有林一千町歩ヲ經營シ郡ニ於テハ明治三十三年ヨリ十六ヶ年ノ繼續事業トシテ五百町歩ノ植林ヲ實施シ縣ハ禿山ニ山楳ヲ植込ミテ砂防工ヲ設ケ或ハ保安林ヲ設定スル等森林ノ繁茂ニヨリテ根本的水利ノ解決ニ努メ他日其ノ効果ノ大ナルヘキハ明カナリト雖焦眉ノ急ヲ救フニ足ラサルヲ如何セシ溜池ノ築造ハ古來屢々企テラレタリト雖其ノ築造ノ場所ニ乏シク之ヲ數里ノ山地ニ求メサルヘカラス加フルニ山系石灰岩層ナルタメ漏水ノ虞アリ且之ヲ引用スルニ幾多ノ部落ヲ貫流セシメ水便ヲ一層複雑ナラシムルノ不便アル等殆ト策ノ施スヘキモノナク空シク天ヲ仰イテ嘆息スルノミナリキ

明治四十二年七月六日ヨリ連續八月下旬ニ亘リ降雨ナキコト四十餘日七月十七日ヨリ九月三日迄繼續番水取下ニ從事セシト雖地區内ノ田面大半龜裂シ收穫皆無ノ害ニ罹ルモノ五町七反半作ノ害ヲ受ケタルモノ十八町八反減收七百十四石金額九千二百八十二圓ト算セラル同年八月旱害ノ甚シカラントスルヤ村内ノ地主有志者ハ日夜肝膽ヲ碎キテ救済ノ策ヲ講シ凝議シテ遂ニ揚水機ヲ設置シテ地下水ヲ汲上クルノ計畫ヲ立テタリ爾來有志ハ東奔西走之カ調査ニ從事シ十二月五日委員會ヲ開キテ水源ノ試掘ヲ決議シ翌六日ヨリ開鑿ニ從事セリ

之ヨリ曩縣郡當局者ハ耕地整理施行ヲ慫慂セラレ村民亦喜ンテ之ニ應シ十二月十二日實測設計ノ申請

ヲナシ地下水ノ利用ヲ耕地整理組合ノ事業トナスニ至レリ茲於テ二月十日縣ハ技術員ヲ派遣シテ測量設計ニ着手セシメラレ六月三日組合認可ヲ申請シ同月六日其筋ノ認可ヲ得テ組合設立セリ

二 水量試験

湧水量ノ檢定ハ本計畫ヲ立ツルニ當リテ尤モ苦心シタル所ニシテ前述地勢ノ項ニ於テ記セシ如ク地下水ノ流下スヘキ附近一帶ノ地表上ノ状態ニ就キテ精査セルノミナラス其ノ土地ノ地質的變遷ニ就キテモ亦熟慮セリ然リ而シテ當村ハ第四期層ニ屬シ愛知川ニヨリテ漸次冲積セラレタル直徑四五寸以下ノ砂礫層ト粘土層ト交互ニ重疊セルモノニシテ地層ノ状態前述ノ如クナルヲ以テ湧水量豊富ニシテ之ヲ他ノ細微ナル土砂ヨリ成レル地層ニ比シ最モ有利ナル状態ニアリ加之土層ニシテ充分ナル通水ヲ許スト雖地下ノ流線ニシテ其ノ位置ニアラサレハ所要ノ湧水ヲ得ルコト難シサレハコノ點ニ就キテハ附近多數ニ存在スル桔桿用ノ小井戸ニヨリテ其ノ大體ヲ推知スルヲ得タリ次ニ試掘及水量試験ノ狀況ヲ詳記セン

明治四十二年十二月六日大字四十九院ハ字砂山ニ大字石畑ハ字流レニ水源ノ位置ヲ定メ試掘工事ノ起工式ヲ舉ク之ヨリ數十名ノ人夫ハ晝夜兼行鶴嘴鋤簾等ヲ以テ土壤ヲ掘リ上ケ同月十六日ニ至リ大字四十九院ハ地平線下二十一尺大字石畑ハ十八尺ヲ掘下テ初メテ水點ニ達シ十二月三十日水面以下三四尺ヲ掘鑿セシヲ以テ明治四十三年一月七日消防手百餘名ノ應援ヲ得テ消火用唧筒十一臺人夫百五十名ヲ以テ水勢ヲ試験シタルニ湧水強クシテ人力ニ限アリ水位ヲ下降セシムルコト僅ニ一尺揚水量毎秒一立

方尺ヲ得テ地下水ノ豊富ナルコト地下水流ノ方向ヲ確ムルヲ得村民ニ深キ自信ノ念ヲ與ヘタリ
爾來寒風霜雪ヲ犯シ池中ニ舟ヲ浮ヘ袋鋤罷ヲ以テ井底ノ浚深ニ努メ一月十五日水深七八尺ニ達スルヲ
得タリ

サレト水量ノ多寡ハ唧筒ノ大小据付位置ノ高低汽機ノ馬力等ニ及ホス影響極メテ大ニシテ前ニ試掘井
ノ水量豊富ナルヲ認メシト雖之素ヨリ推測ノミ推測ヲ以テ百年ノ計ヲ立ツルハ尙砂上ニ樓閣ヲ築クカ
如シ茲於テカ毎年地下水ノ最モ低下スル冬季ニ於テ更ニ周密ナル水量試験ヲ行フコトトセリ
而シテ大字四十九院ト大字石畑トハ地區ヲ二分シ各別ニ揚水灌溉スルノ便ナルヲ認メ之カ調査モ亦各
別ニ行ヒタリ

大字四十九院ハ灌溉面積約六十町歩用水量ハ一町歩ニ對シ毎秒〇、〇五ナルヲ以テ

$60 \times 0.05 = 3.0$ 立方尺

然トモ安全ヲ計リ一分間一千三百ガロン即三、五四立方尺ノ水量ヲ要スルヲ以テ從テ其ノ水源ヲナス
井戸ハ之カ要求ヲ充スニ足ルモノタラサルヘカラス水量試験ノ爲豫メ掘リタル井戸ノ大サハ長十七間
巾三間ニシテ其ノ水面積五十一平坪ナリ然トモ之ヲ二間ニ五間位ニ區分シコノ區分内ノ水ヲ汲上ケ以
テ湧水量ヲ斷定シタリ

即同年二月二十八日大阪ヨリ八馬力ノ蒸汽機關ト五吋ノ離心動唧筒ヲ借入レ三月十日午後二時二十分
器械運轉ヲ開始セシニコノ時ハ一分間ニ井戸ノ水位降ルコト七分ノヲ容積ニ換算シ更ニ毎秒ノ量ト見

ルトキハ〇、六八立方尺ニシテ此ノ時ニ於ケル唧筒ノ揚水量ハ〇、八三立方尺ナリ而シテコノ吐出量ヨ
リ井戸ノ水位ノ下リタルタケノ容積ヲ減スルトキハ實際井戸ノ湧水量〇、一五立方尺ナリシヲ算出ス
ルコトヲ得ヘシ更ニ運轉ヲ繼續シテ十分間ノ後即午後二時三十分ニ至レハ水位ハ五寸下降シ此場合ニ
於ケル一分間ノ減水二分ニシテ此容積毎秒ニ換算シテ〇、二立方尺トナリ而シテ唧筒ノ揚水量ハ毎秒
一、二二立方尺ナレハ先ノ一分間ノ減水容積ヲ毎秒ニ換算シタル量即〇、二立方尺ヲ減スレハ實際ノ湧
水量ハ一、〇二立方尺トナル更ニ引續キ唧筒ヲ運轉シテ二十分ノ後即二時五十分ニ至レハ水位ハ更ニ
五寸ヲ減シコノ場合ニ於ケル一分間ノ減水一分ニシテコノ容積ヲ毎秒ニ換算スレハ〇、〇九八立方尺
而シテコノ場合ノ揚水量一、二二立方尺(毎秒)ナレハ減水容積ノ〇、〇九八立方尺ヲ減スレハ實際ノ湧
出量ハ一、〇二立方尺ナリ更ニ運轉ヲ繼續スルコト三十五分ニシテ午後三時二十五分ニ至レハ水位下
ルコト更ニ五寸コノ場合五分間ノ減水七分ニシテコノ容積ヲ毎秒ニ換算スレハ〇、一四立方尺ナリコ
ノ際ノ揚水量ヲ一、四一立方尺ニシテ減水ノ容積ヲ減スレハ實際ノ湧出量ハ一、二七立方尺ナリ更ニ
一時間運轉ヲ繼續シテ四時二十五分ニ至レハ水位降ルコト三寸ニシテコノ場合十分間前ヨリ水位ニ變
化ナシ故ニ唧筒ノ揚水量ハ即井戸湧出量ニシテ毎秒一、三六立方尺ナリトス今コレヲ表記スレハ

常 水 位	常水位ヨリ五寸下	同 一 尺 下	同 一 尺 五 寸 下	同 一 尺 八 寸 下
〇、一五	一、〇二	一、〇二	一、二七	一、三六

是ニ依テ見レハ水位ノ降ルニ從ツテ湧水量ハ増加スルモノニシテ今前表ニヨリ水位五寸ヲ降ル毎ニ湧

出スル増加量ヲ見ルハ

$$1.02 + 1.02 + 1.27 + 1.36 = 4.67$$

$$4.67 \div 4 = 1.168$$

然ルニ初メ一立方尺ノ基本湧出量トシテ減スルトキハ五寸ヲ降ル毎ニ湧出スル平均量ハ〇、一六八ナリ(但シ前表末段ハ水位三寸降リシ結果ナレハ若五寸降リシ結果ヲ想像スル時ハ更ニ大ナルヤ明ナレトモ安全ニ見積ルタメ假ニ五寸降リシ結果トシテ計算セリ)

以上ノ結果ニヨリテ必要水量ヲ汲上クルニ要スル井戸ノ深サヲ計算セリ

大字四十九院ノ用水量ハ每秒三、五立方尺ナレハ今前記基本湧水量トシテ一立方尺ヲ減スレハ二、五立方尺トナリ之ヲ水位ヲ降スコトニ依テ増加スル湧水量ニテ補ハントスレハ水量ノ計算結果ヨリ次ノ比ヲ得ヘシ

$$0.168 : 2.5 :: 0.5 : x$$

$$\text{故} = x = 7.43$$

即七尺四寸三分ノ水位ヲ降ス時ハ二、五立方尺ノ水位ヲ補フコトヲ得ヘシ然トモ基本湧出量ヲ出スニ五寸ノ下降ヲ要スル故ニ結局常水位ヨリ

$$7.43 + .5 = 7.93 \div 8r$$

八尺ヲ降ルトキハ所要ノ水量三、五立方尺ヲ得ヘシ但コノ断定ニヨルトキハ理論上非常ニ餘裕ヲ有ス

ルモノタルヤ明ナリ何トナレハ試験結果ハ上水一尺八寸内外ノ下降ニヨリテ湧水増加ノ平均率ヲ算出シタルモ實際ノ湧水ハ單ニ水位下降ノ尺度ニ比例セスシテ水壓ノ減少地下水壓力ノ増大土砂ノ組織ノ漸次粗大ニ傾ク等ノ諸種ノ原因ニヨリテ水位下降尺度ノ x 乗ニ比例スルモノノ如シサレハ上層一尺八寸ノ水位ニテ五寸毎ニ對スル湧水増加率ヲ見ルト上層五、六尺下降シテ同様ニ増加率ヲ見タルトハ後者ノ廻ニ前者ヨリ大ナルハ一見明ナル事實ナレトモ後者ニヨリテ試験ヲ行フコト不可能ナルヲ以テ x ノ値ヲ求ムル能ハス不得止前者ニ依レリ故ニコノ意味ニ於テ計算ニ餘裕アルモノタルコト明ナリ又井戸ノ大サヲ二分シテ其最モ湧水多キ部分ニ試験セシモノニシテ他ノ湧水少キ部分ハ嚴密ニ水ヲ遮リ試験ノ計算ヲ加ヘサルモ實際使用スル場合ニ於テハ元ヨリ共通ナルヲ以テ湧水量ハ假令小ナリト雖容積ヲ二倍スルヲ得ヘシ此事モ亦試験ニ比シ實際使用ノ場合ニ餘裕アル一事實ナリ尙コノ際ニ於ケル水位ハ最モ旱魃ノ時季ニシテ地平線ニハ約二十七尺ノ際ナレハ此ノ最モ涸渴セル時期ノ試験ハ平常用ヒテ安全ナルコト明ナリ由之觀是水位ノ下降八尺ト見ルトキハ最大ノ場合ニシテ實際ニ於テハ五六尺ノ範圍ニ止マルヘキヲ信ス

唧筒ノ揚程ヲ決定シタル理由ヲ示セハ該地方旱魃ノ際ニ於ケル地下水水位ハ三十二尺ト定メ汲上ニヨリテ減少スル量八尺ヲ加フルトキハ四十尺ニシテ更ニ鐵管ノ摩擦其ノ他ノ水頭四尺ヲ加ヘ尙之ニ一尺ノ餘裕ヲ見込ミテ四十五尺ヲ旱魃ノ場合ニ於ケル最大揚程トセリ

大字石畑ノ灌溉反別ハ約三十町歩ニシテ前記用水量計算ニヨレハ〇、〇五秒立方尺ナルカ故ニ

$$30 \times 0.05 = 1.5$$

然トモ安全ヲ計リ一分間七百五十ガロン即每秒約二立方尺ノ水量ヲ要ス

水量試験ニ供セシ井戸ノ大サハ常水ヨリ約一尺下リテ二間四方ノ梓ヲ組ミ梓ノ上部ハ三間四方トス試験ニ用ヒシ揚水機ハ四十九院ト同一ノ五吋離心動唧筒ナリ試験ノ方法モ四十九院ト異ナル所ナキヲ以テ單ニ試験ノ結果ヲ記述スルニ止メントス即試験ニ方リ減水三寸毎ノ湧水量ヲ每秒立方尺ニ換算スレハ左ノ如シ

常水位ヨリ一寸下	同	五寸下	同	九寸下	同	一尺三寸下
〇、五〇		〇、八四		〇、九五		一、〇八

水位三寸ヲ下ル毎ニ増加スル湧水量ハ

$$0.84 + 0.95 + 1.08 = 2.87$$

$$2.87 \div 3 = .96$$

然ルニ常水一寸餘リ降リシ際ノ湧水量〇、五立方尺ヲ基本湧水量トシテ減スレハ水位四寸ヲ降ル毎ニ増加スル湧水量ハ結局〇、四六立方尺トナル之ニ由テ必要水量ヲ汲上クルニ要スル井戸ノ深サヲ決定セリ

即大字石畑ノ用水量ハ每秒二立方尺ニシテコノ内ヨリ基本湧水量トシテ〇、五立方尺ヲ減スレハ一、五

立方尺トナリコノ水量ハ水位ヲ降ス毎ニヨリテ増加スル水量ヲ以テ補ハサルヘカラサルモノニシテ今幾何ノ下降ヲ要スルカハ前ノ計算ニヨリ次ノ比ヲ求ム

$$0.33 : 1.5 :: 0.3 : x$$

$$0.46 : 1.5 :: 0.4 : x$$

$$\text{故} = x = 1.36 \quad \text{故} = x = 1.3$$

然ルニ基本水量ヲ湧出セシムルタメニ一寸ヲ加ヘ更ニ計算ニ餘裕ヲ保タシメテ唧筒運轉ニ因ル水位ノ最大下降ヲ二尺トセリ

次ニ唧筒ノ揚程ヲ決定セシ理由ヲ記セハコノ地方旱魃ノ際ニ於ケル地下水ハ二十五尺以下ニ降ルコト極メテ稀ニシテ古老モ未タ知ラサルトコロナレハ最モ旱魃時期ノ地下水位ヲ二十五尺ト定メ之ヨリ揚水中下降スル三尺ヲ加ヘテ二十八尺トナリ更ニ四尺ノ損失水頭及餘裕ヲ見込ミ三十二尺ヲ以テ唧筒ノ揚程ト決定セリ

以上記載セシ兩井戸ノ水量試験ハ比較的水涸レ期節ナル三月中旬ニ於テ前記ノ唧筒ヲ裝置シ三晝夜間斷ナク器械ヲ運轉シテ地下水ノ絶對量ノ多少ヲ見シニ四十九院ニ於テ二尺石畑ニ於テ一尺五寸以上下降スルコトナク若暫時運轉ヲ中止スルトキハ水位忽チ舊ニ復セリ茲於テ試験ノ第三日目ニ於テ精密ナル水位變化及揚水量ノ觀測ヲナシ前記ノ如キ結果ヲ得タルナリ
故ニ該地下水ハ地上水ト均シク砂礫ノ間ヲ流動スル極メテ豊富ナルモノニシテ世人ノ想像セルカ如ク

地下ニ滯溜シ或ハ細流ノ蓄積セルカ如キ薄弱ノ水脈ニハアラサルナリ

三 揚水機据付 附耕地整理ノ竣工

明治四十二年十二月二十三日大阪ジエムスモリソン商會ノ手ヲ經テ英國ダブルユーエツチアレン父子商會ニ唧筒及汽機各二臺ヲ注文シ汽罐ハ大阪市平尾鐵工所ニ製造セシメ四十二年五月二十八日到着大字四十九院ハ六月九日据付六月十日試運轉ヲ行ヒ大字石畑ハ六月四日据付六月五日試運轉ヲ行ヘリ

灌漑區名	井ノ名	井ノ深	揚水機ノ名	吸水管及排水管ノ内徑	最分間ノ揚程	一分間ノ揚程	唧筒ニ要スル馬力	一分間ノ揚水量	汽機ノ直徑	汽筒ノ直徑	汽筒ノ行程	汽機ノ連結力
五十九町歩	砂山池	三十九尺	長百三十二尺 巾四十八尺 長九十六尺 巾十二尺 コンケロール式離心動唧筒	九吋	四十五呎	五十五呎	三百三十三馬力	千三百ガロン(三、五四秒立方尺)	八吋	五吋	直	三十九馬力
三十一町七反歩	龍ヶ池	三十四尺	長五十四尺 巾五十四尺 長十五尺 巾十五尺 コンケロール式離心動唧筒	七吋	三十二呎	三十五呎	三百五十五馬力	七百五十ガロン(二、秒立方尺)	六吋	五吋	直	十五、五馬力

汽罐ノ名	汽罐ノ積	汽罐ノ封度	汽機ノ直徑	汽機ノ行程	汽機ノ連結力
陸用コルコツシ型汽罐	直徑五呎 長廿四呎	十五平方呎	十吋	百二十吋	直徑一呎六吋高五十吋
陸用コルニツシ型汽罐	直徑三呎八吋 長十六呎	十平方呎	十吋	百二十吋	直徑一呎三吋高五十吋

揚水機ノ据付ト水源井戸ノ完成ハ耕地整理第一期工事ニ屬シ明治四十二年十二月起工四十四年三月竣功シ道路及溝渠ノ改修工事ハ第二期工事ニ屬シ四十四年十二月起工爾來農閑ヲ利用シテ之ニ從事シ本年三月豫定ノ工事ヲ完了シ茲工事ノ竣功ヲ見ルニ至レリ

四 工事費

耕地整理ニ要セシ經費ノ總額ハ二萬八千三百五十五圓ニシテ内水源開鑿工事費三千二百九十四圓汽機汽罐唧筒工事費一萬九千四百圓其ノ他經費五千九百五十七圓ニシテ之ヲ細別スルトキハ左ノ如シ

費目	大字四十九院	大字石畑	計
創業費	四〇五	二〇七	六七五
水源開鑿工事費	二、四九四	一、八〇〇	三、二九四
汽機汽罐唧筒工事費	一、一四六	七、六四〇	一、九一〇
汽機汽罐購入費	三、一四八	一、八三三	四、九八一
汽罐購入費	一、〇五二	七〇五	一、七五七
其他附屬品購入費	一、七五三	一、五二五	三、二七八
基礎及防壁工事費	三、七五〇	二、五七一	六、三二一
汽機汽罐室建築費	一、二三二	八七八	二、一一〇

タンク設置費	二五九	一〇四	三六三
水量試験費	二七〇	二二四	四九四
道路工事費	五〇〇	三〇〇	八〇〇
水路工事費	七九二	六三七	一、三二九
溝畔工事費	一、二三九	四二五	一、六六四
廢除工事費	八五	五九	一四四
雜費	三〇〇	四五	四五
合計	一七、二七九	一一、〇七六	二八、三五五

五 經費ノ賦課

整理費總額二萬八千三百五十五圓ノ中縣費補助金九千八百九圓ヲ差引キ一萬八千五百四十六圓ヲ組合員ノ負擔トシ内五百四十六圓ヲ組合員ヨリ徵收シ殘一萬八千圓ハ明治四十三年十二月二十四日滋賀縣農工銀行ヨリ年利五朱八厘ヲ以テ勸業銀行低利資金ヲ借入レ大正二年七月三十日マテ据置キ同年八月一日ヨリ大正十二年七月三十一日マテ滿十ヶ年賦トシテ元利完済ノ見込ニシテ一ヶ年ノ償還金二千四百二十二圓五十錢ニシテ毎半ヶ年毎ニ支拂フコトトセリ

經費ノ賦課方法ハ規約ニヨリ整理前ノ評定價格ニ比例スルコトトシタリ今一反歩ノ平均負擔額ヲ算出スレハ二十圓六十九錢トナル

六 毎年使用ノ狀況

揚水機ノ使用ハ其年ノ雨量及水利ノ如何ニ關スル極メテ大ナリ大字四十九院ハ明治四十三年ニ於テ二百五十二時間明治四十四年ニ於テ三百七十四時間大正元年ニ於テ一千二百四十五時間運轉シ大字石畑

ハ明治四十三年ニ於テ二百二時間明治四十四年ニ於テ四百三十七時間大正元年ニ於テ一千百三十六時間使用セリ

而シテ明治四十三年ニ於テ二十七時間四十四年ニ於テ十四時間ハ工事ノ必要ニヨリ使用シタルモノ又大正元年度ノ運轉時間極メテ長キハ五月下旬ヨリ九月上旬ニ亘リ降雨極メテ少量近年稀ナル旱魃ニシテ地區外ニ於テ挿秧未了ノモノ數十町歩ニ達シ被害極メテ大ナリキ若本地區ニシテ揚水機ヲ使用スルコト能ハスンハ恐ラクハンノ過半ハ植付不能ニ畢リシナルヘシ

反之大正二年度ノ如キハ五月以來屢々降雨ヲ得六月末日ニ至ルモ殆ト之ヲ使用シタルコトナシ依之考フル時ハ毎年二十五晝夜即六百時間ヲ運轉スル時ハ安全ニ米作ヲ行ヒ得ヘキヲ信ス

七 經常費

經常費ハ運轉時間ノ多少ニ關スル極メテ大ナルヲ以テ年々一定ナル能ハス今既往三ヶ年ノ經費決算額ヲ示セハ左表ノ如シ

費目	明治四十三年		明治四十四年		大正元年	
	石畑	畑	石畑	畑	石畑	畑
運轉費	四七、二八〇	二二、〇六六	四〇、〇〇〇	四三、五二〇	一八、六〇〇	九八、七〇〇
石炭代	三三、七六〇	二七、〇九六	四八、二〇〇	一七、五三〇	一四、五〇〇	六二、二八〇
運轉手人夫等給料	一三〇、〇〇〇	五七、〇〇〇	一四一、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一四一、〇〇〇	三三、七〇〇
雜費	五五、一八〇	三三、二九六	八一、五〇〇	五〇、一〇〇	一三、〇〇〇	一〇一、三〇〇
運轉時間	二、五三三	一、〇〇一	三、七四五	一、〇七二	一、〇七二	一、一三三

一時間一馬力運轉費	〇・〇八	〇・〇五	〇・〇八	〇・〇六
修繕費	五〇・二〇	五五・五〇	七六・五〇	八五・七〇
合計	五七・五〇	三七・五〇	六八・五〇	五二・〇〇
一反歩經常費負擔額	八・五三	七・四九	一・五〇	一・六三

四三四

明治四十三年及明治四十四年ハ創設日淺キヲ以テ自然經常費ヲ要スルコト多カリシモ運轉ノ經驗ヲ重
 スルニ隨ヒ石炭ノ節約等ニヨリテ經費ノ減少ヲ見ルニ至レリ最近ノ調査ニヨレハ一晝夜ノ運轉費左ノ
 如シ

費目	大字			石			畑		
	數	量	價金	數	量	價金	數	量	價金
石炭	三二六	斤	〇・五四	一七六	斤	一・六四七	一九六	斤	〇・五四
マシン油	四一	升	一・八〇	七三	升	一・三八	一	升	一・八〇
シリンドー油	一	升	二・八五	二〇〇	升	二・〇〇	一	升	二・八五
運轉手及火夫日常 雜費石油茶炭燭等	三	人	一・四〇〇	四	人	二・〇〇	三	人	一・二〇〇
合計			二二・二八四			五・〇〇			一五・三六四

即一晝夜ニ要スル經費ハ大字四十九院二十三圓二十八錢四厘大字石畑ハ十五圓三十六錢四厘ニシテ平
 均一ヶ年二十五晝夜運轉ヲ要スルモノト見做シ之ニ修繕費トシテ大字四十九院百三十圓石畑百圓ヲ見
 積ルトキハ每年平均經常費ノ見込左ノ如シ

揚水費	四十九院	石畑	計
五八二・一〇〇	三八四・一〇〇	九六六・二〇〇	
修繕費	一三〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	二三〇・〇〇〇
合計	七一二・一〇〇	四八四・一〇〇	一、一九六・二〇〇
一反歩經常費負擔額	一・二〇七	一・五二七	一・三三八

即一ヶ年ニ要スル經常費ハ大字四十九院一圓二十錢七厘大字石畑一圓五十二錢七厘平均一圓三十一錢
 八厘ヲ要ス

第四章 地下水利用後ノ成績

一 勞力ノ節約

地下水利用後ハ從來ノ如ク桔槔ニヨリテ多量ノ水ヲ汲上ケ又ハ番水ノ必要ヲ感セルヲ以テ米作上勞力
 ヲ節約スルコト多大ナリ之ヲ平作ノ狀況ニヨリ前後ヲ比較スルトキハ一反歩ニ付勞力ヲ節約スルコト
 男三人女二人此ノ賃錢二圓五十錢灌溉面積九十町七反歩ニ付二千二百六十七圓五十錢ノ利益アリトス

二 米作ノ增收

用水便ナルヲ以テ耕耘、植付、施肥、除草等ヲ適當ノ時期ニ於テ行フヲ得ヘク又旱害ノ憂ナキヲ以テ
 農家ハ安心シテ耕作ニ從事シ自然耕作懇切トナリ肥料ノ用量ヲ増シ極端ナル深水ヲ避クルヲ以テ稻ノ
 生育良好トナリ收穫ヲ増加スルコト一反歩ノ增收金額六圓七十六錢五厘ナリト雖肥料ノ用量金二圓ヲ
 増加スルヲ以テ差引純利益ハ四圓七十六錢五厘灌溉面積九十町七反歩ニ對シ四千三百二十一圓八十五

錢五厘ノ增收ナリトス

三 旱害ノ全免

前項米作ノ增收ハ平年ニ於ケル增收ナリ地下水利用前ニ於テハ四十二年間ニ十三回ノ旱害ヲ受ケ平均一箇年ノ減收大字四十九院ハ一割三分大字石畑ハ一割〇九厘ニ當リシト雖利用後ニ於テハカカル損失ヲ全ク免ルルヲ得ヘシ

即旱害ヲ免ルルニヨリ毎年受クル所ノ利益ハ四千二百十八圓ニシテ一反歩平均四圓六十五錢ナリトス

四 二毛作ノ増進

地下水利用前ニ於テハ耕作期節ニ早魃ノ至ランコトヲ恐レテ二毛作ハ四割四分ニ過キス殘ハ可惜二毛作ノ適地ニ年中水ヲ湛ヘシト雖水源確實トナルニ及ヒテハ全部二毛作地トナスヲ得ヘシ然レトモ利用後日向淺ク農家ハ多年ノ舊觀念ニ支配セラレ未タ八割九分ニ増進セシメシニ過キスサレトモ二毛作ノ増加ハ麥五町步紫雲英二十八町七反歩合計三十三町七反歩ニ達シコノ純利益一千百七十八圓八十二錢五厘ニ達ス

五 經費ト利益トノ比較

以上地下水ノ利用ニヨル利益ヲ合算スルトキハ實ニ一萬二千〇二十三圓九十七錢五厘ニシテ之ヲ灌溉反別九十一町步ニ割リ當ツルトキハ一反歩ニ付十四圓五十錢八厘ノ利益ヲ増進シタルモノトス更ニ之ニ要スル經費ヲ合計スル時ハ三千七百八十五圓九十五錢七厘ニシテ一反歩平均四圓十七錢參厘

ナリトス

即地下水利用ニ依リ得タル純利益ハ八千二百圓二十二錢三厘平均一反歩九圓四錢トナルナリ

以上八年々受クル利益金ナレトモ之ヲ一時的ノ利益ニ換算センタメ五分利ニ對スル還元額ヲ求ムレハ一反歩ニ付百八十圓八十錢地區總面積ニ對シ十六萬四千四百六十錢ノ巨額トナルナリ

六 間接ノ利益

直接打算上利益ノ大ナルコト此ノ如シサレト間接ノ利益トシテモ更ニ大ナルモノアルヲ記憶セサルヘカラス即地區ハ非常ナル旱害地ナレハ早魃時期ニ於テ過多ノ勞力ヲ要スルヲ以テ平素耕作力ヲ減縮シ冬間ニ於テモ二毛作ヲ擴張スル能ハス常ニ勞力ノ餘裕ヲ存シテ早魃ニ備ヘ其ノ全部ヲ利用スル能ハサリシカ水源ノ確實ナルトキハ米作及二毛作反別ヲ増加シ更ニ餘力ヲ養蠶等ノ副業ニ利用スルヲ得テ極メテ經濟的ナラシム其ノ收穫物ニ於テモ適當ノ時期ニ排水シ土地ノ乾燥ヲ計ルカ爲熟期ヲ一定シテ品質ヲ向上セシムル等利益ヲ増進セシコト枚舉ニ遑アラス茲於テ從來一反歩平均一石ニ過キサリシ小作料ハ一石二斗トナリ一反歩二百圓ノ地價ヲ三百圓ニ昇騰セシムルニ至リタリ殊ニ當部落ノ如キ水利上屢々上下部落相爭ヒ甚シキハ知己兄弟ト雖我田引水ヲ以テ相鬪キ農村ノ青年日ニ月ニ減少シ田面ノ大部分他部落小作者ノ手ニ歸シ村勢累卵ノ危キニ至リシカ本工事ノ成功ニヨリ村民ニ共同一致農事改良ノ觀念ヲ養成シ和氣緩々一村ノ繁榮ヲ期スルニ至リタルカ如キ間接ノ利益極メテ偉大ナリ

岐 阜 縣

一、岐阜縣不破郡表佐村耕地整理組合ニ於ケル用水暗渠

(イ) 整理前ニ於ケル状態 本組合地區ノ面積約四百町步中常ニ用水ノ不足ヲ訴フル田地約六十町步、地目ヲ變換シテ水田ト爲サムトスル畑地約八十町步ト有ス而シテ叙上ノ土地ハ附近田面ヨリ高位置ニアリテ平時天然ニ引用スヘキ適當ノ水源地ヲ有セス又好箇ノ溜池築造地ヲ有セス然ルニ地區ヲ南北ニ貫ク相川ト稱シ集水面積約八千町步ヲ有スル河流アリ其ノ河底ハ附近田面ニ比シ數尺ノ高位ニアリテ(地區内ノ最高部即チ用水不足地ニ比シ)常ニ河底面ニ流水ノ出現ヲ見ス唯數十耗ノ降雨數日間連續シタル際ニ於テノミ河底面ノ流水ヲ見ル而モ如何ナル豪雨後ト雖雨後僅カニ一週日ニシテ再ヒ河底面ノ流水ヲ見ルニ至ルヲ常トス然トモ地下水トシテ當該集水區域内ニ於ケル流去水ヲ集合流下セシメツアルハ地勢上將タ地區内低位部(用水不足地ヨリ約二十尺低位地)ニ於ケル常湧水池及舊井等ニ依リ推斷スルニ難カラス

叙上ノ状態ヲ考量シ次ノ計畫ヲ樹テタリ(用水不足田地及開田地ニ要スル用水量ハ約十五秒立方尺ナリトス)

(ロ) 計畫ノ概要 暗渠ニ依リ地下水引用ノ計畫ノ下ニ暗渠伏設候補地ノ精細ナル高低測量、地下水位、地下水流去ノ方向並速度及砂礫ノ間隙等精査ノ上暗渠ノ位置、断面及延長等ヲ假定シ其ノ

終端(上流)ニ假井二箇ヲ掘リテ地下水位ヲ檢シタルニ略ホ豫想ト一致(附近ノ舊井水面ト對照シテ)シタルヲ以テ茲最後ノ決定ヲ爲セリ即チ

延長二百九十間ヲ導水暗渠トシ縱斷勾配千分ノ一ニ特製口徑二尺五寸土管ヲ埋設ス土管ノ位置ハ河床面以下最淺八尺、最深二十尺ノ下(河床面勾配ハ約百五十分ノ一ナリ)ニアルモ最旱魃時ニ於テハ導水管ノ下流部ハ地下水位以上ニアルヲ以テ漏水ヲ防ク爲「モルタル」接キ「コンクリート」卷トナセリ

導水暗渠ノ先端ニ集水裝置ヲナセル上巾二尺五寸高三尺下幅四尺六寸ノ断面ヲ有スル梓延長四十間ヲ地下水方向ニ約八十度ノ角度ヲ有スル二股ニ敷設セリ而シテ導水暗渠トノ接續點ノ位置ヲ低水位以下三尺五寸(土管ノ中心ニ於テ)トス

(ハ) 施工ノ一端 大正元年末ヨリ起工シ昨年旱魃時前ニ於テ導水暗渠延長百十間成工シタルノミニテ結果ヲ見ルヲ得サリシモ當時斷水日數約二十日ナリキ(附近田面普通用水ノ斷水日數三十餘日ナリキ)其ノ後工事進行スルコト(大正二年十一月迄ニ於テ)百二十間總延長二百三十間ヲ施工シタルモ爾來濁水時來ラス常ニ豫定水位以上數尺ヲ下ラサルヲ以テ工事ヲ進ムルヲ得ス今日ニ及ヘリ、今日迄ノ成績ニ見ルニ計畫ニ異算無キカ如ク寧ロ豫定以上ノ水量ヲ湧出セシメ得ヘキ傾向ヲ示シ居レリ

(ニ) 工事施行ノ方法 土管ノ善惡ハ直チニ工事ノ安危ニ關係ヲ有スルヲ以テ土管ハ特ニ製作者

ニ注文シテ購入シ爾餘ノ材料及工事ハ之ヲ請負ニ付セリ工事中ハ縣技術員及地區工事係監督遺漏無キヲ期セリ尙請負ニ付スルニ當リ各部ニ於ケル豫定地下水位ヲ定メ水位其レ以下ニ下リタルトキハ遲滯無ク着手シ以上ニ上リタルトキハ直チニ中止セシムヘク契約セリ

未設暗渠延長六十間ハ工事ノ進行上水中工事ヲ爲スノ止ム無キニ依リ土管ヲ木管ニ變更スヘク目下考量中ニ屬ス

二、岐阜縣養老郡養老村大字石畑耕地整理組合ニ於ケル揚水機ニ依ル地下水利用

本組合地區附近一帶ノ地ハ砂礫ノ深層ヨリナルヲ以テ少シク旱天打續ク時ハ忽チ旱害ヲ蒙ルヲ常トス(旱魃時ニ於ケル地下水水位ハ地表以下約十二尺ナリ)而モ附近ヲ流下スル牧田川(集水面積一萬八千町步餘)ハ河底附近田面ヨリ高ク平時流水ヲ見サルコト前記相川ニ均シ然トモ本地區ハ前記表佐村地區トハ四圍ノ狀況ヲ異ニシ本地區ニ於テ任意ニ地下水ヲ取ル時ハ地區外ニ惡影響ヲ及ホスノ虞アリ故ニ上流地域ニ對シ地下水ノ變動ヲ來ササル様地下水ヲ利用セムカ爲地下水流方向、流速及砂礫ノ間隙等ヲ精査シ所用水量ニ對スル地下水通水断面ヲ計算シ湧水池ノ大サヲ決定セリ(方向及流速ノ測定ニハ數箇ノ井ヲ穿チ上流部ノモノニ食鹽ヲ投シ下流部ノ井水ヲ採リ硝酸銀ノ反應ニヨリ決セリ)即チ

灌溉田面積約七十町步ニ對シ最渴水時ニ於ケル地下水々深七尺長三十間巾六尺ノ湧水池ヲ掘鑿シ揚水機ニ依リ毎秒十立方尺ヲ揚水セムト目下工事中ニ屬シ成績ヲ發表シ得ルノ域ニ達セス

此ノ種ノ計畫ヲ爲シタルモノ尙一箇所アリ將來スカル計畫ヲ要スル土地少ナカラサル見込ナリ

秋 田 縣

本縣ニ於テハ特ニ耕地整理事業上特種ナルモノニシテ他ノ參考トナルヘキモノナシ只秋田縣中央耕地整理地區ニ於ケル灌溉用水取入口水門及突堤並本川岩見川ノ切堰堤工事ト仙北郡角間川耕地整理地内ノ排水水防兼用ノ自働水門ノ構造及由利郡小友村岡本地區ノ揚水機使用ノ開墾工事等ナルモ前者ハ普通一般ノ計畫ニシテ特ニ意匠ノ變リタルモノニアラス又後者ノ内自働水門ハ未タ建設ノ運ニ至ラサルヲ以テ其ノ效果分明セス揚水機使用ノモノハ十八町步ノ灌溉用水引入ニ要スルモノニシテ瓦斯吸入機關離心動啣馬力二十揚程十四尺送水量五立方尺ナリ是ハ既ニ設置ヲ了リ回轉シ豫定ノ效果ヲ奏シツツアリ其ノ他陳述スヘキモノナシ

福 井 縣

一、坂井郡三國町外ニケ村ニ涉ル聯合耕地整理ト北陸鐵道分歧線建設工事トノ聯絡計畫
北陸鐵道分歧線(金津驛ヨリ芦原溫泉場ニ至ル)建設ニ際シ坂井郡三國町外ニケ村ニ涉ル整理地區ノ聯合計畫ヲ定メ之ヲ施行セントシ鐵道工事ハ已ニ竣功シ整理地區ハ目下工事中ナリトス
本整理地區ノ總面積ハ二百四十二町餘工事費總額六萬千七百三十四圓地區ハ三國港ヲ去ル東方約一

里ニシテ海面上僅ニ四五尺ニ達セル低濕ノ土地ニシテ排水常ニ不良ノ状態ニアリ又一面適當ナル用水源ニ乏シク唯僅ニ湧水及溜池ニ依ルノミニシテ灌漑水モ亦充分ナラス年々水損及干損ノ爲生産甚タ劣等ナルヲ免レサルヲ以テ之カ整理施行ノ獎勵ニカメタリ

之ヨリ先北陸鐵道分岐線タル三國線實施計畫ノ義アルヲ好機トシ利害關係ヲ示シ以テ整理施行ノ勸誘ニカメタル結果企業セントセルニ至レルヲ以テ計畫上該鐵道建設當事者ト相謀リ整理地區ノ地勢其ノ他ヲ考慮シ三大排水路ノ計畫ハ鐵道計畫線ニ直角ニ選定シ以テ排水ノ方法ヲ講シ其ノ他ノ用排水路ノ小溝ハ鐵道線ニ沿ヒタル鐵道用ニ屬スル排水路ニ放流セシメ或ハ之ヲ利用スル等ノ外整理地區ニ散在セル畑地ノ不用土ハ之ヲ鐵道建設用ニ提供セシムル等聯合計畫ノ下ニ施行セシメタルニ道路水路ノ配置ハ勿論區劃形狀ニ至ル迄豫期以上ノ効果ヲ擧ケタルノミナラス經費ノ點ニ於テモ彼我ノ便益ヲ得タルモノ蓋シ尠ナラス

二、日野川河川改修工事ト今立郡神明村鳥羽耕地整理聯合計畫

今立郡神明村鳥羽整理地區ハ淺生水川沿岸ニ亘レル一帯ノ整理地區ニシテ其ノ總面積百十二町餘工事實費總額金三萬二千二十七圓餘ナトス

由來本地區ハ淺生水川ノ汎濫ヲ受ケ例年浸水ノ被害ヲ蒙ルコト尠ナカラス爲ニ該川沿岸他ハ草地或ハ畑地トシテ不生産ノ土地ヲ現存セシムルノ状態ニアリ尙且本地區ノ用水路ノ配置適當ナラサル爲用水補給上極メテ困難ナル状態ニアルヲ以テ麻生津川改修ニ伴ヒ沿岸畑地其ノ他ノ土地ヲ田地ニ變

換スルト共ニ用水幹線ノ改良ヲ期セントセリ之ヨリ先政府ハ日野川改修ニ伴ヒ麻生津川改修ヲ實施セラレントシ改修河川ハ地區ノ一端ヲ橫斷セシムルノ計畫ニシテ從來ノ用水幹線タル三大用水路ハ該改修河川ニヨリ截斷セラルル豫定計畫ナルヲ以テ整理計畫上用水路ノ位置ヲ變更シ之ヲ二線ニ定メ改修河川ヲ橫切ルニ「サイホン」裝置ヲ以テシ所用水量ノ通過ヲ計リタルノ外地形其ノ他ノ狀況ニ鑑ミ農道用水及排水路ノ支線ヲ定メ河川改修工事ト相俟テ施行セシメントス而シテ本河川ノ改修事業ハ既ニ事業ニ着手シ一部ノ土地ノ買収セラルルニ至リタルヲ以テ不遠實施セラルヘク又本整理地區ハ今秋ヨリ工事ヲ施行セン計畫ノ下ニ既ニ耕地整理組合設立ノ申請ヲ爲スニ至レリ

三、三方郡山東村坂尻耕地整理共同施行地區

本地區ハ丹後道ヲ距テ日本海ニ接シ他ノ三方ハ概ネ山岳ヲ以テ圍遶セラレタル地區ニシテ其ノ總面積二十二町餘而シテ田面ハ海面ヨリ低ク干潮ノ場合ト雖尙田面上惡水停滯ノ被害尠ナカラス土質ハ概ネ埴土ニシテ地盤低キコト田面以下約七、八尺ナリトス從テ耕作管理ニハ俗ニ「カンジキ」ヲ穿テテ作業ニ從事セル状態ニシテ不便不利云フヘカラス之ヲ以テ地盤ノ構成ヲ計ルト共ニ田面ヲ高メ毎年二寸若ハ三寸ノ砂土ヲ散布シ以テ一般作業ヲ容易ナラシムルハ勿論用排水路ノ設備並道路ノ新設ヲ行ハントシ既ニ起工セルニ豫期ノ如ク地盤ノ構成セラタルノミナラス生産量ニ於テ殆ント倍加セル成績ヲ示セリ

廣 島 縣

本縣ニ於テ特種ノモノト認ムヘキモノハ左記一箇所ノ外稍々大規模ノ地下水堰ノ計畫セルモノ一ヶ所(御調郡山中村)アルモ未タ施工ニ至ラサレハ之ヲ省略ス

廣島縣賀茂郡仁方町耕地整理組合地區

面積 全反別十六町一反七畝步(田反別十四町一反六畝步)

位置 瀬戸内海ニ沿エル仁方灣ニ望ム

地勢 北ヨリ南ニ向テ傾斜ス最高最低地盤ノ差ハ六、七尺トス

土質 從來鹽田ナリシモ廢止セラレタルモノナルヲ以テ一般ニ粘質ナリ

用水及排水ノ状態 從來鹽田ナリシ爲此等ノ必要ナキヲ以テ其ノ設備不完全ナリ

工事施行ノ目的 從來ノ鹽田ヲ稻田ニ變更スル目的ナルヲ以テ新ニ用水源ヲ求メ排水樋門ヲ設ケ地盤

埋上ヲ行フモノトス

計畫ノ説明 本地區ノ最モ必要ナルモノハ用水源ナルヲ以テ特ニ之ニ付テ説明ス可シ

イ、地下堰 地區ノ西方ヲ流下スル西大川ニ地下堰ヲ設ケテ用水ヲ求ムル方針ナリ其ノ規模小ナリト

雖本縣ニ於テ注目ス可キ工事ニシテ現在工事施行中ニ屬ス

而シテ其ノ地下水ヲ利用シ得ルヤ否ヤヲ調査スルニ現在本川ニ於テ一石樽ヲ五尺深ニ埋設シ所々ニ

穴ヲ造リ中ニ大ナル砂利ヲ詰メタルモノヨリ内徑六寸ノ土管ヲ導キ以テ約二町步ノ耕地ヲ涵養シツ

ツアリ故ニ適當ノ設備ヲ施ス時ハ充分所要ノ水量ヲ得ル見込ナリ

ロ、用水量 本設計ニ於ケル地區内ノ全用水量ハ一晝夜水深五分ニシテ之レヲ秒立方尺ニ換算スレハ

$$\frac{.5 \times 108000 \times 14.16}{86400} = .885$$

ハ、利用水量 今米國ノ學者「シリクトル」氏ノ案出セル地下水量算定公式ニ依リ計算スレハ

$$Q = 10.22 \times \frac{d^2 F h}{n k e} \text{ c.c.m. per. sec}$$

$$d = 0.1432 \quad n = 0.012 \quad K = 1.5847$$

$$F = 168 \frac{w}{e} \frac{h}{100} \text{ 地質粗砂粒}$$

$$\therefore 1.24 \text{ 秒立方尺}$$

右ノ計算ニ依リテ安全ニ利用シ得可キモノトス

福 岡 縣

三潞郡耕地整理概況

一、位 置

本地區ハ三潞郡ノ西北ニ位シ東ハ三井郡上津荒水村及ヒ本郡西牟田村ニ接シ南ハ木室大溝村ニ境シ西北ハ筑後河ノ蛇流スルアリ對岸佐賀縣三養基郡ニ臨ミ安武村外十一ヶ町村ニ亘リ此ノ包含面積ハ

實ニ二千四百九十九町九畝二十二歩ナリ

四四六

二、地勢

本地區ハ筑後平原ノ區域ニ屬シ海拔十尺五寸ヨリ五十三尺ノ間ニ在リ地勢ハ一般ニ東北高クシテ西北ニ向テ漸次傾斜シ廣川及山ノ井川ハ地區内ヲ貫通シテ筑後河ニ注キ安武、三瀨、犬塚村ノ一部分及城島町、江上、三叉、青木村ノ西半部ハ砥ノ如キ平地ナリ

三、土性

地質ハ第四紀層ニシテ埴質壤土ヨリ成リ表土深サ田四寸畑八寸山林原野五六寸ナリ荒木村ノ高位部一小區域ハ土質酸性ヲ帶タル個所アリ然トモ底土ハ一般ニ粘土層ヨリ成ルヲ以テ保水力ニ富ミ地味肥沃ナリ

四、用水状態

廣川及山ノ井川ノ二河川アリト雖本地區ハ之カ末流ニシテ夏季流量尠ナク僅ニ上流ノ一部ヲ自然灌溉スルニ過ス故ニ夏季用水時ニ至レハ全ク枯渴ノ状態ニシテ自然灌溉ヲナスコト不可能ナリ加之本郡ハ極メテ平坦ナルヲ以テ水源溜池ヲ設置スルノ個所ニ乏シク爲ニ現在耕地面積ニ對シ約三割ノ廣大ナル地積ヲ潰シ用水堀ヲ縱横ニ開鑿シ潑水シタル水ニヨリ灌溉シツツアリ而シテ早魃ニ際シ用水不足ヲ訴フルトキハ大潮ノ際筑後河ノ排水門樋ヨリ逆水セシメ其ノ不足ヲ補フヲ以テ用水全ク枯渴スルコトナシト雖如此場合ニ於テハ堀ノ水位ノ關係上甚シキハ五六段ノ踏車灌溉ヲナスノ狀況ナリ殊ニ近時地目變換開墾等ニ依リ著シク灌溉面積ノ増加ヲ來シタル結果一層用水ヲ困難ナラシメタ

リ今灌溉ニ要スル勞力ヲ調査スルニ一段乃至三段踏車ニ要スル勞力ハ反當七八人三段乃至四段灌溉ニ於テハ十三人ヨリ十五人ヲ要ス而シテ農用水車ハ耕地五反ニ對シ一臺ノ割合ヲ示シ水車ノ耐久力ハ約十年ニシテ代價ハ十圓ヨリ十四圓ナリ依ツテ其ノ代價及修繕費等ヨリ考案スルニ水車一ヶ年ノ使用料ハ二圓二十錢ヲ要スルコトナル又地目變換、開墾等ニ依ル土地ノ利用上ニ就テハ荒木鳥飼村及安武三瀨犬塚村ノ高位部ニ亘リ約六百町歩ノ地味肥沃ナル平地アリト雖用水困難ノ爲之ヲ開拓スルコト能ハサリシカ近來米麥ノ騰貴ハ農業者ヲシテ一層田地ノ渴望ヲ促シ爲ニ山林又ハ畑地ノ一部ニ用水堀或ハ井戸ヲ穿鑿シ手桶釣瓶ノ類ヲ以テ人力的灌溉ヲナスノ窮シタル手段ニ依ルニ徵スルモ地區内灌溉ノ一般ヲ窺フコトヲ得ヘシ

本地區用水状態ハ以上概説ノ如クニシテ灌溉ニ關シ耕作者ノ苦慮實ニ想像以外ニシテ勞力ノ空費夥シキモノアリ

五、整理ノ目的及地區界決定

本計畫ハ疏水路ヲ設ケテ筑後川ヨリ導水シ電動機直結渦卷唧筒ヲ以テ揚水シ之ヨリ灌溉本溝及支溝ヲ設ケテ現在水田ニ對シ用水不足ヲ補給スルト同時ニ人力灌溉ヲ自然灌溉法ニ改良シ將又畑山林原野ヲ開墾シテ水田トナシ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進セントスルモノニシテ地區ハ三瀨郡北部十ヶ町村ニ跨リ總反別二千四百餘町歩ニシテ地勢又一様ナラス故ニ高低起伏ヲ測定シタル結果地勢上最モ有利ニシテ且經濟ナル區分ヲ定メ左ノ四地區トシテ夫々適當應セル計畫ヲ樹テタリ

四四七

六、用水量決定

當地區ニ於ケル用水量ハ設計調査ノ際多年各地方毎ニ標準タルヘキ地ヲ相シ灌漑期間中用水消費量ヲ日々實測シタル材料ニ基キ尙充分安全ヲ見積リ以テ用水量決定ノ要素トセリ其ノ結果ハ左ノ如シ

名	稱	揚水機ノ支配區域水量
安武村地區	三瀨村地區	第一號唧筒 三四・五 第二號 九・六 第三號 一〇・二
江上村	外三ヶ町村組合	第四號 二七・八七 第五號 一四・〇〇 第六號 二九・三 第七號 四・九
大善寺村大字	大善寺村大字中津組合	

右ハ各地區ニ於テ實際必要水量ナルヲ以テ之ニ水路内ノ損失水量ヲ加算スルノ要アルト同時ニ本地區ニ於テ揚水唧筒ハ原動力ヲ電力ニ依ル計畫ニシテ電力ハ晝夜ヲ通シテ供給スルヲ得サル事情アルヲ以テ午前一時ヨリ午後七時ニ至ル間即チ一晝夜ヲ通シ十八時間運轉ノ計畫ナリト雖運轉時間ニ於テモ尙餘裕ヲ見積リ一晝夜揚水時間ヲ十六時間ト假定シ其ノ間一晝夜ノ必要水量ヲ揚水セシムル事トセリ而シテ損失量ハ〇・一五トシ

其ノ結果次項ニ記述セルカ如ク決定セリ

七、用水源

本地區用水源ハ筑後川ヨリ導水路ヲ開鑿シ各地區適當ノ位置ニ於テ電動機直結渦卷唧筒ヲ設置スルモノナリト雖就中安武村地區ノ如キハ地勢上一回ニ揚水スルハ極メテ不利ナルカ故ニ二段揚水企畫

ヲナシタリ即チ各地區ヲ通シ揚程ヲ七種ニ區分シ五ヶ所ニ於テ揚水ス而シテ揚水唧筒ノ起動ハ底辨ヲ用セス「スルイスヴァルヴ」ヲ閉シ排氣唧筒ニ依リ吸水管内ニ水ヲ充シタル後起動セシムルモノニシテ任意モ水量ヲ加減シ又ハ水面ノ高低ヨリ來ル荷野ノ變動ヲ適宜ニ調制スル爲吸水管ノ一部ニ吸氣辨ヲ設ケ之ヨリ適量ノ空氣ヲ入レ得ルノ裝置ヲ有シ排氣唧筒「スルイスヴァルヴ」ハ何レモ電動機直結トス

唧筒ノ原動機ニ關スル變壓機竝之ニ伴フ設備ハ各地區共通事業トス此ノ總豫算ハ二萬六千圓ナリ而シテ之ニ使用スル電力ノ總數ハ千百八十馬力ヲ要シ右ハ九州電燈鐵道會社ヨリ供給スルコトニ協商ヲ遂ケタリ此ノ使用料金ハ唧筒運轉ニ關スル經常費及修繕料ヲ包含シ十ヶ年間ノ契約ニシテ一ヶ年一萬千三百三十二圓ナリ依テ地區内總反別（但民有地ノ内一部ノ堀反別ヲ除キタル二、一七七・〇四一五）ニ平均スレハ反當僅ニ五十一錢二厘ナリト雖各地區ノ負擔額ハ馬力數ニ對シ七、反別ニ對シ三ノ比率ヲ以テ分賦スルノ協定ニ基カサルヘカラス即チ其ノ施設要領及電力使用料金ノ負擔額ノ細別ハ次ノ如シ

名稱	安武村地區	三瀨村地區	江上村地區	大善寺村大字
區域	安武村、荒木村、大善寺村	三瀨村、大塚村、城島町	江上村、城島町、三叉村	大善寺村大字中津
總反別	七、五九二・五〇四	九、一〇一・八〇四	七、九六八・六〇六	三二八・〇〇八

本縣ニ於ケル耕地整理施行ハ順當ニシテ計畫上特種ノモノトシテ他ノ參考ニ資スヘキモノ頗ル少ナシ
今其ノ稍々異レルモノ一、二實例ヲ以テ示セハ左ク如シ

一、工事施行ニ際シ整理施行者ニ勞力ヲ供給セシメ組合ハ其ノ賃銀又ハ勞賃ノ幾分ヲ差引テ預リ置キ
他日費用徴收ニ際シ其ノ預金ト相殺ス此ノ例ハ東松浦郡打上村八床耕地整理組合其ノ他ノ組合又ハ
地區ニテ之ヲ行ヒ頗ル好結果ヲ得タリ

二、石積堰堤ノ例

本縣ニ於テハ左ノ各項ニ相當スル場合ニ溜池ノ堰堤築造ニ此ノ式ヲ應用セリ即チ

(一) 溜池敷地ヲ狭少ナラシムル必要アルトキ

(二) 堰堤ノ盛土ヲ少ナクセサルヘカラサルトキ

(堰堤ノ地盤堰堤ト直角ノ方向ニ傾斜シタルトキハ其ノ外法ニ適當ノ勾配ヲ與フル爲ニ多大ノ盛
土ヲ要シ從テ多額ノ經費ヲ要スルヲ以テ盛土ヲ少ナクシ併テ經費ヲ減少セントスルトキ)

(三) 堰堤ノ盛土ヲ掘取ル際石多キトキ

(四) 適當ナル堰堤築立用ノ土ヲ充分ニ得難キニ拘ラス石多キトキ

本縣ニ於テ此ノ式ニ依リタル堰堤ハ其ノ土留石垣ヲ數層(一層ノ高約一間一層ノ幅三乃至四尺)
ニ積ミ重ネ其ノ裏ニ十分裏込ヲナシタルモノニシテ石垣ハ多ク間知積ニシテ裏込ハ硬質ノ自然石
又ハ割石ヲ用ヒタリ

此ノ式ニ依ル築堤ニシテ其ノ石積層二三層ノモノハ枚舉ニ違アラス其ノ特例トスヘキモノハ藤津
郡久間村志田耕地整理地區溜池堰堤ノ六層(全直高六間)及西松浦郡大坪村今岳耕地整理地區ノ
九層(全直高八間)ナリ是等ハ築造後數年ニ及ヒ溜池ハ満水セシコト數回ニ及ヘトモ未タ缺壞ノ
恐ヲ懷カシメタルコトナシ
其ノ築堤ノ特點及缺點等ハ特ニ茲ニ述フルノ要ナカルヘク要スルニ其ノ構造一種ノ「ロツク、フ
イル、ダム」タルナリ

宮 崎 縣

一、高木原用水路工事設計書

計 畫 說 明

一、水源地 本工事ハ北諸縣郡五十市村大字五十町字今町地内ニ大淀川ノ上流大岩田川ニ井堰ヲ設ケ
導水スル計畫ニシテ其ノ集水區域ハ右取入口迄ニ約七千四百町歩ニシテ田八分畑二割七分山林三割
五分原野二割七分宅地三分ヨリ成リ水量ノ變化少ク本年稻作期間ヲ通シテ調査スルニ最モ減少セル
トキニ於テ百五十三秒立方尺(川中四十七尺深一尺)アリ又大洪水ノ場合ニ於ケル流量ヲ推算スルニ水深
七尺内外ニ達シ二千六百六十秒立方尺内外ヲ流過セリ

一、取入口 用水路ニ百秒立方尺ヲ取入ル爲取入口ノ平均水深ヲ四尺四寸ニ高メ井堰ノ高サヲ四尺

トス又井堰ヲ水門迄五十八間ノ間ハ特ニ敷巾三十尺法五分トシ洪水ノ場合ニ於テハ井堰ノ爲ニ遮斷
 流過ヲ妨ケラルル水量ヲ導キ之ヲ其ノ下流ニ放水スル爲巾十二尺ノ放水口三個ヲ設ケ自動門扉ヲ設
 置ス故ニ大洪水ノ際ニ於テモ二千六百六十秒立尺尺ノ過半即チ千三百十秒立方尺内外ハ井堰ヲ流過ス
 ルコトナク爲ニ洪水位ヲ高ムルコトナカラシム

一、用水路 用水路ハ敷巾十尺法一割勾配三千五百分ノ一水深四尺トシ取入口ヨリ大岩田川ノ右岸ニ
 沿フテ片切五十二町五十間ニシテ都城末吉間縣道ニ達シ其ノ直下ニ巾十尺高九尺長七十六尺ノ隧道
 ヲ設ケ六十丁十六間ニシテ冷水川ニ徑間二十三尺巾十尺深四尺五寸ノ掛樋ヲ設ケ六十一丁十五間ニ
 シテ都城・中郷村・梅北ノ里道下ニ徑四尺長十九尺三寸ノ鐵管ヲ二列ニ埋設シテ「サイフォン」工
 事ヲ施シ六十六丁二十間ニシテ萩原川ニ長七十八尺ノ掛樋ヲ設ケ九十一丁五十五間ニシテ前田川ニ
 長三十二尺ノ鐵管「サイフォン」工事ヲ施シ更ニ百十六丁ニシテ沖水川ニ長千二十尺ノ鐵管「サイ
 フオン」ヲ設ケ百二十六丁三十八間ニシテ開田地區ニ達セリ而シテ各工作物間ハ總テ掘割築堤ノ土
 工ヲ施スモノトス

一、用水量 水路断面ハ敷巾十尺法一割勾配三千五百分ノ一水深四尺ナルカ故ニ「クッター氏」ノ公
 式ニ依リ係數ヲ〇、〇二五トシテ計算スルニ流速一尺九寸ニシテ百〇六秒立方尺ヲ通水スルヲ得ヘ
 シ

一、灌溉反別 耕地整理組合ノ事業トシ畑三百五十町歩山林原野二百町歩ヲ開田スル豫定ナレトモ他

ニ開田シ得可キ百町歩内外ノ地積ヲ存ス

設計摘要及費用

費目	設計	摘要	費用
土工費	内	敷巾十尺法一割ニ切取ルモノトシ長五千五百五十六間土坪四五、八 九四坪トス 但取入口ヨリ水門迄五十八間ハ敷巾三十尺法五分トス	八六、〇一八
水路切取	内	堤塘七巾四尺高五尺五寸法一割ニ盛立ツルモノトシ長二千八十間土 坪二五、四一五坪トス	五一、六三一
同盛工	内		三四、三八七
工作物費	内		七三、五五二
頭首工井堰	内	木材及石材ヲ用キテ築立ツルモノトシ長五十七尺間ニ巾六尺ヲ隔テ テシートパイルヲ二列(高四尺根入十一尺)ニ打込ミ込石ヲナシ上部 ヲ板張トシ前面法一割後面法五割ニ捨石ヲナシ後面ハ石張トシ尙ホ 下流川巾五十四尺長十五尺間ニ長六尺巾五尺高六尺ノ樺ヲ打込ミ込 石ヲナシ兩岸ニハ高八尺法四分長百四十尺ノ護岸石垣ヲ施工ス	一、九四四
水門及放水口	内	水門ハ巾三尺五寸高四尺五寸ノモノ四列トシ螺旋卷上ケ門扉ヲ設ケ 放水口ハ巾十二尺高八尺ノモノ三列トシ自動門扉ヲ受ケコンクリ ト及石材ニテ築造ス	一、七二八
隧	内	側壁四尺巾十尺トシ上部ハ半徑五尺ノ半圓形トス長七十六尺 煉瓦三枚積	二、一〇六
冷水川掛樋	内	長三十一尺巾十尺深四尺五寸ノ矩形トシ樺葉高二十八尺煉瓦積ニシ テ徑間二十三尺トス	七、一七一
梅北道路鐵管伏越	内	内徑四尺厚二分長十九尺三寸ノ鐵管二列ヲ路面下四尺ニ埋設シ兩端 シヤフトハコンクリト及煉瓦ニテ築造ス	三、七二七

地目	作物	反作付	反當收量	單價	反當代價	總收量	反當代價	總金肥	反當小作料	總小作料	反當勞力	總勞力	反當勞賃
萩原川掛種	長七十八尺巾十尺深四尺五寸ノ矩形トシ植養高二十三尺煉瓦積ニシテ徑間二十四尺ヲ隔テテ二列ノ植杭ヲ設ク												
前田川鐵管伏越	内徑四尺厚二分長三十二尺ノ鐵管二列ヲ河底下三尺ニ埋設シ兩端シヤフトハ煉瓦積トス												
沖水川鐵管伏越	内徑四尺厚二分長二十尺ノ鐵管二列ヲ河底下三尺ニ埋設シ兩端シヤフトハ煉瓦積トス												
區梁四十九ヶ所	暗渠三十ヶ所掛種二十五ヶ所サイホン十七ヶ所												
雜地													
豫備													
計													

四五六

(一) 高木原開田地現在ノ農作狀況

地目	作物	反作付	反當收量	單價	反當代價	總收量	反當代價	總金肥	反當小作料	總小作料	反當勞力	總勞力	反當勞賃
烟陸稻	陸稻	四五丁	三〇〇	一三〇〇	三九〇〇〇	三〇〇	三九〇〇〇	二、五五〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二八人	二八〇〇〇	一〇、〇〇〇
甘藷	甘藷	八丁	三〇	七、五〇〇	二、二五〇	三〇	二、二五〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二八人	一八、〇〇〇	一、八〇〇
大豆	大豆	八丁	三〇	七、五〇〇	二、二五〇	三〇	二、二五〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二八人	一八、〇〇〇	一、八〇〇
大麥	大麥	八丁	三〇	七、五〇〇	二、二五〇	三〇	二、二五〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二八人	一八、〇〇〇	一、八〇〇
蕎麥	蕎麥	八丁	三〇	七、五〇〇	二、二五〇	三〇	二、二五〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二八人	一八、〇〇〇	一、八〇〇
小麥	小麥	八丁	三〇	七、五〇〇	二、二五〇	三〇	二、二五〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二八人	一八、〇〇〇	一、八〇〇
稗	稗	八丁	三〇	七、五〇〇	二、二五〇	三〇	二、二五〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二八人	一八、〇〇〇	一、八〇〇
山林	山林	八丁	三〇	七、五〇〇	二、二五〇	三〇	二、二五〇	一、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二八人	一八、〇〇〇	一、八〇〇
計													

平均反當ハ總テ地目別反別ヲ以テ總計ヲ除シタルモノナリ
 勞力ハ耕作及肥料調製等農作全般ニ要スル男女勞力ノ合計ナリ
 勞賃ハ生産物價格ヨリ肥料小作料ヲ差引キタル殘額ニシテ農具畜力等ノ費用ヲ含ム故ニ其ノ一人當賃金は是等ノモノヲ提供シタル場合ノ計算ナリ

(二) 高木原田地現在利益計算

地目	反別	小作料	地價	公課率	公課	地主利益	反當利益	實測面積豫想
山畑	三五五町	一四、九一〇	二〇、一四五	〇・八〇	一、六一九	一、六一九	三、九〇〇	三五〇町
原野	九七	八二四	一、一五五	〇・九三	一〇五	一、〇五〇	三三三	三三三
計	三五四	一五、七三四	二一、三〇五	〇・八六	一、七二四	一、七二四	三、九〇〇	三三三

公課ヲ實測面積豫想ニ割當ルトキハ反當二十八錢トナル
 地主利益ヲ實測面積豫想ニ割當ルトキハ反當二圓三十三錢トナル

(三) 高木原開田地累年增加豫想

年次	開田	田累	計	從前ノ儘
一	一五〇町	一五〇	一五〇	三四六町
二	一〇〇	一〇〇	二五〇	二六九
三	一〇〇	一〇〇	三五〇	一九二
四	一〇〇	一〇〇	四五〇	一一五
五	一〇〇	一〇〇	五五〇	三八

四五七

従前反別一町ハ平均開田反別一町三反トナル
 五年目ニ至リ開田ヲ終了スルモノトシ三十八町歩ハ開田シ得サルモノト看做ス

(四) 高木原開田後反當收支計算

開田初年

作物	反當	單價	反當	反當	反當	反當	勞力	勞賃	勞賃	公課	殘	現在	差引	利益
冬作米	一・〇	一四・〇〇	一四・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	二〇	三・五	五・〇〇	三・六	五・七三	二・三三	三・元	
開田米	一・三	一四・〇〇	一八・八〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	二〇	三・六	五・二〇	三・八	八・三三	二・三三	五・九九	
開田米	一・五	一四・〇〇	二一・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	二〇	三・七	五・四〇	三・八	一三・三三	二・三三	九・九九	
開田米	一・八	一四・〇〇	二五・二〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	二〇	三・八	五・六〇	三・八	一六・三三	二・三三	一四・九九	
裸麥	三・三	九・〇〇	二九・七〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	六	二・九	一・七〇	一・六八	一・三三	二・三三	一七・三三	

麥作ハ開田反別三分ノ一ニ作付タルモノトシ一反當收量ヲ九斗ト豫想ス故ニ一反歩ヲ開田地ニテハ收量其ノ三分ノ一即チ三斗トナル以下之ニ準ス

開田五年

裸麥	三・三	九・〇〇	二九・七〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	六	二・九	一・七〇	一・六八	一・三三	二・三三	一七・三三
----	-----	------	-------	------	------	------	---	-----	------	------	------	------	-------

開田六年

裸麥	三・三	九・〇〇	二九・七〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	六	二・九	一・七〇	一・六八	一・三三	二・三三	一八・三三
----	-----	------	-------	------	------	------	---	-----	------	------	------	------	-------

開田七年

裸麥	三・三	九・〇〇	二九・七〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	六	二・九	一・七〇	一・六八	一・三三	二・三三	二二・三三
----	-----	------	-------	------	------	------	---	-----	------	------	------	------	-------

六年目ヨリ地價修正サルルニ付一反歩二十五町ト看做シ公課ヲ其八分即チ二圓ト見込ム

開田八年以後ハ七年ニ同シ

(五) 高木原開田地收支計算

初年 (大正三年度)

一年目開田	反別	米作收	生産物	代金	勞力	勞賃	公課	殘	現在	利益	増利	加益
未整理地	四九六	一五・〇〇	六七・八八三	一五・一九一	一三三・八〇〇	三・八八六	一・七三	一・九一	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
一年目開田	一五〇	一・五〇〇	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	三・〇〇〇	一・七三	一・九一	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
計	六四六	一六・五〇〇	一〇〇・八八三	二五・一九一	二三三・八〇〇	六・八八六	三・四六	三・八二	二・六〇	二・六〇	二・六〇	二・六〇

二年

未整理地	三九六	三・〇〇〇	一三・八八三	三・一九一	一〇〇・〇〇〇	一・八八六	一・七三	一・九一	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
一年目開田	一〇〇	一・〇〇〇	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	三・〇〇〇	一・七三	一・九一	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
二年目開田	一五〇	一・八〇〇	三三・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	三・〇〇〇	一・七三	一・九一	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
計	六四六	五・八〇〇	七九・八八三	二五・一九一	三〇〇・〇〇〇	四・八八六	五・二〇	五・七三	三・九〇	三・九〇	三・九〇	三・九〇

三年

三年目開田	一五〇	二,二五〇	三,〇〇〇	四,〇〇〇	五,〇〇〇	八,〇〇〇			
二年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
一年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
未整理地	五四三	四,四五〇	八,八三六	一六,四三三	二七,六〇〇	三二,八二六	一七,七五	五八,三三〇	一四,〇三三
計									二四,二八一

四年

四年目開田	一五〇	二,七〇〇	三,七〇〇	四,五〇〇	五,〇〇〇	八,四〇〇			
三年目開田	一〇〇	一,五〇〇	二,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇			
二年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
一年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
未整理地	五六五	六,四〇〇	一〇,九三三	一八,一〇〇	二五,五五三	三二,四六六	一七,七五	五四,七六八	一四,〇三三
計									二四,二八一

五年

五年目開田	一五〇	三,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	八,七〇〇			
四年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
三年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
二年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
一年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
未整理地	五六八	八,五〇〇	一三,一〇〇	一九,四三四	二六,六六五	三六,八六五	一七,七五	七三,二九〇	一四,〇三三
計									五九,三三六

六年

六年目開田	一五〇	三,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	九,〇〇〇	三,〇〇〇		
五年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
四年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
三年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
二年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
一年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
未整理地	五六八	九,〇〇〇	一五,二八九	二〇,三三四	二六,四三〇	三九,七九五	四,二六〇	八八,六八〇	一四,〇三三
計									七四,六八八

七年

七年目開田	一五〇	三,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	九,〇〇〇	五,〇〇〇		
六年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
五年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
四年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
三年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
二年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
一年目開田	一〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇			
未整理地	五六八	九,〇〇〇	一五,二八九	二〇,三三四	二六,四三〇	三九,七九五	四,二六〇	八八,六八〇	一四,〇三三
計									七四,六八八

八 年

未整理地	計	三八	一、二五〇	五、一四九	一、一七四	一、一〇〇	二、六五五	五、九九七	一〇七、三五三	一四、〇六二	九三、一九三
------	---	----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	---------	--------	--------

七年目以上開田	田三分ノ一	六、二五〇	八七、五〇〇	七、五〇〇	五〇、〇〇〇	一五、五〇〇	七、〇〇〇	四、六五〇	七、〇〇〇	一四、〇六二	九三、一九三
四年目以上開田	田三分ノ一	九、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、七五〇	一五、〇〇〇	四、六五〇	七、〇〇〇	四、六五〇	七、〇〇〇	一四、〇六二	九三、一九三
六年目開田	田三分ノ一	三、三〇〇	三〇、六〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇
三年目開田	田三分ノ一	三、三〇〇	三〇、六〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇
五年目開田	田三分ノ一	二、八〇〇	二八、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇
二年目開田	田三分ノ一	二、八〇〇	二八、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇
四年目開田	田三分ノ一	二、八〇〇	二八、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇
一年目開田	田三分ノ一	二、八〇〇	二八、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇	六、〇〇〇	一、六〇〇
未整理地	計	三八	一、二五〇	五、一四九	一、一七四	一、一〇〇	二、六五五	五、九九七	一〇七、三五三	一四、〇六二	九三、一九三

九 年

七年目以上開田	田三分ノ一	八、七五〇	一三、三五〇	一〇、五〇〇	二二、〇〇〇	二、七〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	二、六五五	一四、〇六二	九三、一九三
四年目以上開田	田三分ノ一	二、二〇〇	二二、〇〇〇	二、四〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	二、六五五	一四、〇六二	九三、一九三
六年目開田	田三分ノ一	三、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	二、六五五	一四、〇六二	九三、一九三
三年目開田	田三分ノ一	三、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	二、六五五	一四、〇六二	九三、一九三
五年目開田	田三分ノ一	二、六〇〇	二六、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	二、六五五	一四、〇六二	九三、一九三
二年目開田	田三分ノ一	二、六〇〇	二六、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	二、六五五	一四、〇六二	九三、一九三
未整理地	計	三八	一、二五〇	五、一四九	一、一七四	一、一〇〇	二、六五五	五、九九七	一〇七、三五三	一四、〇六二	九三、一九三

(六) 高木原水路工事收支計算

水路工事ハ大正二年度ニ著手シ同年度ニ完成ス

開田ハ耕地整理組合ニテ大正三年度ヨリ著手ス

借入金利子ハ据置期間年利七分二厘償還期間年七分ト見込ム

水路工事費納付金トシテ現在反別四百二十三町(四百六十一町ヨリ開田シ得サル)ニ對シ一反歩ニ付(三)年(二)年(四)年

度一圓十六錢 度二圓六十二錢 度九十五錢)ヲ徴收スルモノトス

用水料ハ年々經費支出ニ應シテ實測反當二圓五十錢乃至十二圓六十四錢ヲ徴收スルモノトス

借入金ノ内約四萬一千圓ハ用地費トシテ即時拂ヲ要スレトモ殘金十七萬五千圓ハ年度内時々必要ニ

應シテ仕拂フヲ以テ之ニ對シ四ヶ月分ノ預金利子(年五分ノ割)ヲ見込ム(雜收入)

年度	借入金	反開田	用水料	水路工事費納付金	雜收入	前年度繰越金	収入計	工事費	維持費	縣債額	償還元金	利子	支出計	殘
大正二	三、〇〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
三	一、〇〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
四	一、〇〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
五	一、〇〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
六	一、〇〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

年次	七	八	九	十	十一	十二
三年以上	九,000,000	九,000,000	九,000,000	九,000,000	九,000,000	九,000,000
二年以上	九,000,000	九,000,000	九,000,000	九,000,000	九,000,000	九,000,000
一年以上	九,000,000	九,000,000	九,000,000	九,000,000	九,000,000	九,000,000
計	27,000,000	27,000,000	27,000,000	27,000,000	27,000,000	27,000,000

(第二十三號)宮崎縣高木原開田特別會計設置及管理規則

第一條 高木原開田ニ要スル水路開鑿ノ目的ヲ以テ高木原開田特別會計ヲ設置ス

第二條 高木原開田特別會計ハ縣債及用水料其ノ他一切ノ收入ヲ以テ歲入トシ水路費縣債費其ノ他一切ノ經費ヲ以テ歲出トス

第三條 用水料及水路工事費納付金其ノ他開田事業ヨリ生スル收入ヲ以テ工事ニ要シタル一切ノ經費ヲ償フニ至リタルトキハ本件水路ハ無償ヲ以テ高木原耕地整理組合ニ交付スルモノトス

附 則

本則ハ大正二年度ヨリ之ヲ施行ス

大正元年十二月 六 日提出

同 年同 月十一日可決

宮崎縣知事 有 吉 忠 一

(第二十五號)宮崎縣高木原開田起債及償還方法

第一條 縣ハ高木原開田ニ要スル水路費ニ充用スル爲大正二年度ニ於テ金貳拾壹萬六千圓ヲ日本勸業銀行又ハ其ノ他ノ銀行若ハ會社ヨリ借入ルルモノトス但シ借入期ハ貸主ト協定スルモノトス

第二條 借入金利率ハ年七分三厘以内トシ毎年元金ト同時ニ仕拂フモノトス但シ借入及償還最終年度ニ於ケル利率ハ日割ヲ以テ之ヲ附スルモノトス

第三條 元金ハ大正六年度ヨリ大正十二年度マテ七ケ年間ニ之ヲ償還スルモノトス但シ縣經濟ノ都合ニ依リ償還年額ヲ増加シ又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ借替ヲ爲スコトヲ得其ノ額ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 毎年度ニ於ケル償還期日及據置年度ニ於ケル利率ノ仕拂期日ハ貸主ト協定スルモノトス

第五條 縣債ノ利率及元金償還ハ水路工事費納付金用水料及其ノ他開田事業ヨリ生スル一切ノ收入ヲ以テ之ニ充テタルモノトス前項ノ收入ニシテ縣債ノ利率及元金償還ニ不足ヲ告グルトキハ一般會計ヨリ之ヲ補填シ漸次前項ノ收入ヲ以テ戻入ルルモノトス

大正元年十二月 六 日提出

高木原開田起債還年次表

宮崎縣知事 有 吉 忠 一

年次	大正	度	債	額	償	還	元	金	利	子	償	還	元	利	計
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	計			
二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	計				
三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	計					
四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	計						
五	六	七	八	九	十	十一	十二	計							
六	七	八	九	十	十一	十二	計								
七	八	九	十	十一	十二	計									
八	九	十	十一	十二	計										
九	十	十一	十二	計											
十	十一	十二	計												
十一	十二	計													
十二	計														
計															

(第二十九號)大正二年度宮崎縣高木原開田歲入歳出豫算書

歳入

- 第一款 開田收入 金貳拾參萬參千六拾五圓
- 第一項 縣債 金 貳拾壹萬六千圓
- 第二項 水路工事費納付金 金壹萬貳千六百九拾圓
- 第三項 雜收入 金四千參百七拾五圓

歳出

- 第一款 開田費 金貳拾參萬參千六拾五圓
- 第一項 水路費 金貳拾萬四千圓
- 第二項 縣債費 金壹萬五千七百六拾八圓
- 第三項 豫備費 金壹萬參千貳百九拾七圓

大正元年十二月六日提出
同 年同 月十一日可決

宮崎縣知事 有 吉 忠 一

大正二年度宮崎縣高木原開田歳入出豫算說明

歳入

第一款 開田收入

本款ハ新設ニ屬シ金貳拾參萬參千六拾五圓ヲ要ス其ノ理由左ノ如シ

(原案說明)

第一項 縣債

本項ニ於テ金貳拾壹圓六千圓ヲ要スルハ開田ノ爲縣債ヲ起スニ由ル

第二款 水路工事費納付金

本項ニ於テ金壹萬貳千六百九拾圓ヲ要スルハ水路工事費納付金ノ收入アルニ由ル

第三款 雜收入

本項ニ於テ金四千參百七拾五圓ヲ要スルハ預金利子ノ收入アル見込ナルニ由ル

科	目	本年度豫算額	備	考
第一款 開田收入	第一項 縣債	二二三、〇六五		
	第一項 縣債	二一六、〇〇〇		
	第一項 縣債	二一六、〇〇〇		
第二款 水路納付金	第一項 水路納付金	一一、六九〇		
	第一項 水路納付金	一一、六九〇		
	第一項 水路納付金	一一、六九〇		
第三款 雜收入	第一項 雜收入	四、三七五		
	第一項 雜收入	四、三七五		
	第一項 雜收入	四、三七五		
			臺帳反別四百二十三町步一反步ニ付金參圓ノ割	

歳出

第一款 開田費

本款ハ新設ニ屬シ金貳拾參萬參千六拾五圓ヲ要ス其ノ理由左ノ如シ

(原案說明)

第一項 水路費

本項ニ於テ金貳拾萬四千圓ヲ要スルハ水路工事費ヲ要スルニ由ル

第二項 縣債費

本項ニ於テ金壹萬五千七百六拾八圓ヲ要スルハ縣債利子ノ支出ヲ要スルニ由ル

第三項 豫備費

本項ニ於テ金壹萬參千貳百九拾七圓ヲ要スルハ豫算外又ハ豫算超過ノ支出ニ充用セントスルニ由ル

科	目	本年度豫算額	備考
第一款	開田費	二二三、〇六五	
第一項	水路費	二〇四、〇〇〇	
第一目	水路費	二〇四、〇〇〇	土工費 八六、〇一八 工作物費 七三、五五二 用地費 四一、七三〇 雜費 二、七〇〇
第二項	縣債費	一五、七六八	
第一目	縣債利子	一五、七六八	元金貳拾壹萬六千圓ニ對スル一ヶ年分年利七分三厘
第三項	豫備費	一三、二九七	
第一目	豫備費	一三、二九七	

(第二十六號)宮崎縣二原及高木原開田用水料徵收規則

第一條 二原及高木原開田ハ開田實測面積一反歩ニ付壹ヶ年金拾參圓以內ノ用水料ヲ徵收ス但シ毎年度徵收スヘキ金額ハ歲入豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 用水料ハ開田地所有者ヨリ之ヲ徵收ス

附則

本則ハ大正二年度ヨリ之ヲ施行ス

大正元年十二月六日提出

同年 同月十一日可決

宮崎縣知事 有 吉 忠 一

(第二十號)宮崎縣參事會委任

縣參事會委任條件中ニ左ノ事項ヲ加フ

一 宮崎縣ニ原及高木原開田起債償還方法更正ニ關スル件

大正二年十二月六日提出

同年 同月十一日可決

宮崎縣知事 有 吉 忠 一

二 二原用水路修繕工事設計書

本工事ハ明治三十四年三月十二日付西諸縣郡小林村大字東方坂之下萬左衛門外五人ニ許可シタル同村大字同字宇土丸高塚西上之蘭中屋敷ニ至ル井堰及水路工事ニシテ明治三十五年二月五日付命令書日數內(明治三十四年三月十二日ヨリ二十日以内ニ着手シ着手ノ日ヨリ百五十日以内ニ竣)ニ於テ竣功シタル旨届出アリタル(工スヘキ旨命令アリ工事請負人大崎連ノ受負ニテ水路開通五十町歩ヲ開田セリ)モノナレトモ間モナク水路破損シテ其ノ用ヲナササルニ依リ今設縣ニ於テ右既成工事及集芻材料一切ヲ買受ケ修繕工事ヲ施行スルモノトス

計畫說明

一、水源地 水源ハ西諸縣郡小林村地内岩瀬川ノ支流濱瀬川筋大字東方宇土丸ヨリ導クモノニシテ濱瀬川ハ源ヲ熊本縣球磨郡ニ發シ西諸縣郡小林村及須木村地内水路取入口迄ノ流域約六千餘町歩ヲ有シ概ネ森林地ニ屬シ稻作期間ヲ通シテ常時約百秒立方尺ノ水量アリ取入口ハ河流兩岸岩石ニシテ河ノ中央ニ頭出セル岩石ノ爲ニ分水セル部分アリ此ノ岩石ヲ利用シテ左右ニ堰ヲ築造スル計畫ニシテ河巾約八十四尺ニ過キササルニ依リ洪水ノ場合ニ堰ノ安全ヲ期スル爲其ノ上流右岸ニ蛇籠ヲ沈設

シ河身ヲ右中央岩石ニ向ハシメ且取入口隧道内ニ土砂ノ洗込ミヲ防クモノトス

二、水路幹線(二千五百五十一間)幹線ハ濱瀬川ノ右岸ヲ沿フテ千五百七十間ノ急斜面地ノ岩石片切落ト四百一十一間ノ岩石隧道ヲ經テ山林原野及畑地ノ直下ニ四百三間及四百一十一間ノ軟土隧道(西隧道間二十六間ハ開渠トス)ヲ堀鑿シ開田地區ニ達セリ然トモ勾配幅員共ニ不規則ニシテ側壁薄ク漏水甚クシク隧道断面モ亦小ニシテ通水充分ナラス殊ニ軟土隧道ノ如キハ側壁積合掌卷トナセトモ總テ平積ニシテ控ナク破損ノ恐レアルニ依リ全部大修繕ト共ニ増築ヲ加ヘ開渠巾八尺深四尺岩石隧道巾八尺高六尺軟土隧道(甲)巾八尺高六尺(乙)巾七尺高六尺トス

三、分水路(千三百五十五間)字野上原五十餘町步ヲ灌溉スル爲ノ支線ニシテ幹線軟土隧道ノ中部ヨリ分岐シテ山林原野ノ傾斜地ト畑地間ノ片切落八百四十三間ト隧道五百十二間トニ堀鑿シタルモノニシテ施工後未タ通水セス其ノ勾配断面共ニ不規則ナルニ依リ二百十八間ノ開渠ヲ除キ其ノ他ヲ浚深増築シテ開渠巾四尺深三尺隧道巾四尺高四尺トス

四、通水量水路幹線ハ巾八尺深三尺勾配七分ノ一トス故ニクッター氏ノ公式ニ依リ係數ヲ、〇三トシテ計算スルニ流速二尺五寸五分ニシテ六十一秒立方尺ヲ通水シ得ヘク軟土隧道(甲)ハ巾八尺水深三尺勾配千分ノ一トス故ニ係數ヲ〇、〇三トシテ計算スルニ流速二尺一寸ニシテ五十秒立方尺ヲ通水シ得可シ又分水路ハ巾四尺水深二尺勾配千二分ノ一トセルカ故ニ係數ヲ、〇三トシテ計算スルニ流速一尺三寸ニシテ十秒立方尺ヲ通水シ得ルモノトス

五、灌溉區域

耕地整理組合事業トシテ開田スルモノニシテ畑二百町步ノ豫定ナレトモ尙他ニ開田シ得可キ地積約二十町步ヲ存セリ

設計摘要及費用

費目	設計摘要	費用
土工費	内譯以下三項ノ通	三〇、一一九
水路幹線掘鑿	河岸側壁ヲ増築スル爲巾三尺通現水路數ヲ縮小スルニ依リ更ニ片側岩石巾三尺乃至四尺ヲ切廣ム但水路巾八尺トス	一八、六九三
新設隧道	長千五百七十間	八、一一五
舊隧道切擴	長百八十四間 巾八尺 高六尺	七、一一〇
水路幹線側壁	從來平均巾四尺高四尺内外ナルヲ切擴メテ巾八尺高六尺トス	三、四六八
水路幹線側壁	長二百二十七間	七、三九三
溪水落下部側壁取擴	從來巾二尺内外ナルヲ更ニ増築シテ巾五尺高四尺法一分トス	六八
土砂崩落防止	長六十尺高五尺落下部巾六尺 高一尺ノ階段積	二一八
側壁積直シ	長五十七間高四尺間知石積	四二四
分水路浚深	長二十六間高四尺根堀一尺間知石積	二〇三
軟土隧道崩落土浚深	開渠七百八十一間ハ平均巾四尺堤塘上市三尺高三尺法一割ニ修築隧道三百八間ハ從來巾三尺高三尺内外ナルヲ巾四尺高四尺ニ修築	三、一一〇 二五、五八五

地主利益ヲ開田後實測面積豫想ニ割當ルトキハ反當二圓七錢トナル
(三) 二原開田地累年増加豫想

年	次	開	田	累	年	從	前	ノ	儘
四	年	年	年	年	四〇〇	八〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三	年	年	年	年	四〇〇	一六〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
二	年	年	年	年	四〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一	年	年	年	年	八〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

從前反別一町ハ平均開田反別一町〇八畝トナル

(四) 二原開田後反當收支計算
開田初年

種	目	反當	單	反	反	反	反	一	勞	勞	公	殘	現	差	引	利
米	收	石	價	當	當	當	當	勞	賃	賃	課	價	在	引	益	加
	益	120	12000	12000	3000	3000	3000	2人	300	6000	500	7000	2000	2000	5000	5000

三年間冬作ヲナス冬期モ水ヲ溜メ込ミナル可ク速カニ滲透ヲ少ナカラシム

開田二年

米	1.5	12000	22000	3000	3000	3000	3000	2	300	6000	500	7000	2000	2000	5000	5000
---	-----	-------	-------	------	------	------	------	---	-----	------	-----	------	------	------	------	------

開田三年

米	1.8	12000	22000	3000	3000	3000	3000	2	300	6000	500	7000	2000	2000	5000	5000
---	-----	-------	-------	------	------	------	------	---	-----	------	-----	------	------	------	------	------

開田四年

米	種	11.0	12000	22000	3000	3000	3000	2	300	6000	500	7000	2000	2000	5000	5000
---	---	------	-------	-------	------	------	------	---	-----	------	-----	------	------	------	------	------

菜種作ハ開田反別三分ノ一ニ作付ケルモノトシ一反當收量ヲ九斗ト豫想ス故ニ一反歩ノ開田地ニテハ收量其ノ三分ノ一即チ三斗トナル以下之ニ準ス

開田五年

米	種	11.1	12000	22000	3000	3000	3000	2	300	6000	500	7000	2000	2000	5000	5000
---	---	------	-------	-------	------	------	------	---	-----	------	-----	------	------	------	------	------

開田六年

米	種	11.5	12000	22000	3000	3000	3000	2	300	6000	500	7000	2000	2000	5000	5000
---	---	------	-------	-------	------	------	------	---	-----	------	-----	------	------	------	------	------

六年目ヨリ地價修正セラルニ付一反歩三十三圓ト見做シ公課ヲ其八分即チ二圓六十四錢ハ見込
開田七年以後ハ六年ニ同シ

(五) 二原開田地收支計算

初 年 (大正三年度)

未整理地	一年目開田	反別	米作 收量計	代生 産物 價物	代金 價肥	勞力	勞賃	公課	殘	利在 益米	増利 加益
計	一〇	一〇	九〇	一三、四〇〇	二、四〇〇	一六、〇〇〇	四、八〇〇	九六三	八、一六三	四、一三二	四、〇三二
未整理地	一〇	一〇	九〇	一三、四〇〇	二、四〇〇	一六、〇〇〇	四、八〇〇	九六三	八、一六三	四、一三二	四、〇三二

二 年

未整理地	一年目開田	二年目開田	反別	米作 收量計	代生 産物 價物	代金 價肥	勞力	勞賃	公課	殘	利在 益米	増利 加益
計	一〇	八〇	九〇	一三、四〇〇	一六、〇〇〇	二、四〇〇	一八、〇〇〇	六、二六六	一三、六六八	四、一三二	九、五五七	
未整理地	一〇	八〇	九〇	一三、四〇〇	一六、〇〇〇	二、四〇〇	一八、〇〇〇	六、二六六	一三、六六八	四、一三二	九、五五七	

三 年

未整理地	一年目開田	二年目開田	三年目開田	反別	米作 收量計	代生 産物 價物	代金 價肥	勞力	勞賃	公課	殘	利在 益米	増利 加益
計	一〇	八〇	六〇	九〇	一三、四〇〇	二〇、一〇〇	二、四〇〇	二〇、〇〇〇	三、一〇六	二〇、六六七	四、一三二	一六、七六七	
未整理地	一〇	八〇	六〇	九〇	一三、四〇〇	二〇、一〇〇	二、四〇〇	二〇、〇〇〇	三、一〇六	二〇、六六七	四、一三二	一六、七六七	

四 年

一年目開田	四年目開田	反別	米作 收量計	代生 産物 價物	代金 價肥	勞力	勞賃	公課	殘	利在 益米	増利 加益
計	一〇	八〇	九〇	一三、四〇〇	二二、四〇〇	二、四〇〇	二二、〇〇〇	一、四八八	二二、九〇〇	四、一三二	一八、七六八
一年目開田	一〇	八〇	九〇	一三、四〇〇	二二、四〇〇	二、四〇〇	二二、〇〇〇	一、四八八	二二、九〇〇	四、一三二	一八、七六八

五 年

一年目開田	二年目開田	三年目開田	反別	米作 收量計	代生 産物 價物	代金 價肥	勞力	勞賃	公課	殘	利在 益米	増利 加益
計	一〇	八〇	六〇	九〇	一三、四〇〇	二四、〇〇〇	二、四〇〇	二四、〇〇〇	一、四八八	二四、九〇〇	四、一三二	二〇、七六八
一年目開田	一〇	八〇	六〇	九〇	一三、四〇〇	二四、〇〇〇	二、四〇〇	二四、〇〇〇	一、四八八	二四、九〇〇	四、一三二	二〇、七六八

六 年

一年目開田	二年目開田	三年目開田	四年目開田	五年目開田	六年目開田	反別	米作 收量計	代生 産物 價物	代金 價肥	勞力	勞賃	公課	殘	利在 益米	増利 加益
計	一〇	八〇	六〇	四〇	二〇	九〇	一三、四〇〇	二六、〇〇〇	二、四〇〇	二六、〇〇〇	一、四八八	二六、九〇〇	四、一三二	二二、七六八	
一年目開田	一〇	八〇	六〇	四〇	二〇	九〇	一三、四〇〇	二六、〇〇〇	二、四〇〇	二六、〇〇〇	一、四八八	二六、九〇〇	四、一三二	二二、七六八	

(六) 二原水路工事收支計算

水路工事ハ大正二年度ニ着手シ同年度ニ完成ス

既成工事補償其他ノ爲大正元年ニ一萬五千圓ヲ大正二年ニ六萬三千圓ヲ据置期間年七分二厘償還期間年七分ノ利子ニテ借入ル但シ元年借入金利六百二十五圓ハ大正二年度ニ至リ仕拂フモノトス

開田ハ耕地整理組合ニテ大正三年度ヨリ着手ス

水路工事費納付金トシテ現在反別百八十五町歩ニ對シ一反歩ニ付(二年度ニ一圓十二錢)ヲ徵收スルモノトス

用水料ハ年々經費ニ應シテ實測反當三圓乃至八圓十七錢ヲ徵收スルモノトス

雜收入トシテ大正二年度借入金ハ年度内時々必要ニ應シテ仕拂フヲ以テ之ニ對スル四ヶ月分ノ預金利息(年五分ノ割)ヲ見込ム

二年度ノ借入金利息ハ八月一日以後ヲ計上ス

年度	借入金	開田一反當用水料收入	水路工事費納付金	雜收入	前年度繰越金	収入計	工事費	維持費	縣債額	償還金	利息	支出計	殘
大正元年	15,000	—	—	—	—	15,000	—	—	—	—	—	—	—
二年	6,000	—	—	—	—	6,000	—	—	—	—	—	—	—
三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

年度	借入金	開田一反當用水料收入	水路工事費納付金	雜收入	前年度繰越金	収入計	工事費	維持費	縣債額	償還金	利息	支出計	殘
大正元年	15,000	—	—	—	—	15,000	—	—	—	—	—	—	—
二年	6,000	—	—	—	—	6,000	—	—	—	—	—	—	—
三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

宮崎縣二原開田特別會計設置及管理規則案

- 第一條 二原開田ニ要スル水路開鑿ノ目的ヲ以テ二原開田特別會計ヲ設置ス
- 第二條 二原開田特別會計ハ縣債及用水料其他一切ノ收入ヲ以テ歳入トシ水路費縣債費其他一切ノ經費ヲ以テ歳出トス
- 第三條 用水料及水路工事費納付金其他開田事業ヨリ生スル收入ヲ以テ工事ニ要シタル一切ノ經費ヲ償フニ至リタルトキハ本件水路ハ無償ヲ以テ二原耕地整理組合ニ交付スルモノトス

本則ハ大正元年度ヨリ之ヲ施行ス

大正元年十二月 日提出

宮崎縣二原開田起債及償還方法案

- 第一條 縣ハ二原開田ニ要スル水路費ニ充用スル爲大正元年度ニ於テ金六萬參千圓ヲ日本勸業銀行又ハ其他ノ銀行若ハ會社ヨリ借入ルルモノトス但借入期ハ貸主ト協定スルモノトス
- 第二條 借入金利息ハ年七分參厘以内トシ毎年元金ト同時ニ仕拂フモノトス
- 但借入及償還最終年度ニ於ケル利子ハ日割ヲ以テ之ヲ附スルモノトシ大正元年度ニ於ケル利子ハ大正二年度ニ至リ仕拂フモノトス

第三條 元金ハ大正六年度ヨリ大正十二年度迄七箇年間ニ之ヲ償還スルモノトス

但シ縣經濟ノ都合ニ依リ償還年額ヲ増加シ又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ借替ヲ爲スコトヲ得其額ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 毎年度ニ於ケル償還期日及據置年度ニ於ケル利子ノ仕拂期日ハ貸主ト協定スルモノトス

第五條 縣債ノ利子及元金償還ハ水路工事費納付金用水料及其他開田事業ヨリ生スル一切ノ收入ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

前項ノ收入ニシテ縣債ノ利子及元金償還ニ不足ヲ告グルトキハ一般會計ヨリ之ヲ補填シ漸次前項ノ收入ヲ以テ戻入ルルモノトス

二原開田起債償還年次表

年次	年	度	債	額	償	還	元	金	利	子	償	還	元	利	計
一	大	正	元	一五、〇〇〇						六、〇五九				六、〇五九	円
二	二	正	元	七八、〇〇〇						五、六九四				五、六九四	
三	三	正	元	七八、〇〇〇						五、六九四				五、六九四	
四	四	正	元	七八、〇〇〇						五、六九四				五、六九四	
五	五	正	元	七八、〇〇〇						五、六九四				五、六九四	
六	六	正	元	七八、〇〇〇						五、六九四				五、六九四	
七	七	正	元	六九、〇六九						五、〇四二				四、六二五	
八	八	正	元	五九、四八六						四、三四二				四、六二五	
九	九	正	元	四九、二〇三						三、五九二				四、六二五	
十	十	正	元	三八、一七〇						二、七八六				四、六二五	
十一	十一	正	元	二六、三三一						一、九二二				四、六二五	
十二	十二	正	元	一三、六二八						九九七				四、六二五	
計										四七、五一六				一一五、五一六	

備考

大正元年度利子(四ヶ月分)ハ大正二年度ニ至リ仕拂フモノトス

大正元年度宮崎縣二原開田歳入歳出豫算

第一款 開田 收入	歳 入	金一萬五千圓
第一項 縣 債	歳 出	金一萬五千圓
第一款 開 田 費	歳 出	金一萬五千圓
第一項 水 路 費	歳 出	金一萬五千圓

大正元年十二月 日提出

宮崎縣知事 有 吉 忠 一

大正元年度宮崎縣二原開田歳入歳出豫算説明

歳 入

第一款 開田 收入

本款ハ新設ニ屬シ金一萬五千圓ヲ要ス其ノ理由ハ開田ノ爲縣債ヲ起スニ由ル

科	目	本年度豫算額	備 考
第一款 開田 收入		一五、〇〇〇 ^円	
第一項 縣 債		一五、〇〇〇	
第一目 縣 債		一五、〇〇〇	

歳 出

第一款 開田 費

本款ハ新設ニ屬シ金一萬五千圓ヲ要ス其ノ理由ハ新ニ開田事業ヲ施行セントスルニ由ル

科 目	本年度豫算額	備 考
第一款 開田 費	一五、〇〇〇 ^四	
第一項 水路 費	一五、〇〇〇	
第一目 水路 費	一五、〇〇〇	雜用 在來 工事 地事 補償 費費費 一四、三〇〇 ^四 六九〇 ^四

大正二年度宮崎縣二田開田歳入歳出豫算書

第一款 開田 收入

歳 入

第一項 縣 債

金六萬九千二百圓

第二項 水路工事費納金

金六萬三千圓

第三項 雜收入

金四千六百二十五圓

第一款 開田 費

歳 出

第一項 水路 費

金六萬九千二百圓

第二項 縣 債 費

金五萬八千圓

第三項 豫備 費

金五千五百四十一圓

大正元年十二月 日提出

宮崎縣知事

有

吉

忠

一

大正二年度宮崎縣二原開田歳入歳出豫算說明

歳 入

第一款 開田 收入

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算提案額ニ比シ金五萬四千二百圓ヲ増ス其ノ理由左ノ如シ

第一項 縣 債

本項ニ於テ金四萬八千圓ヲ増スハ起債ノ多キニ由ル

第二項 水路工事納付金

本項ニ於テ金四千六百二十五圓ヲ増スハ水路工事費納付金ノ收入アルニ由ル

第三項 雜 收入

本項ニテ於テ金千五百七十五圓ヲ増スハ預金利子ノ收入ニ由ル

科 目	本年度豫算額	前年度豫算提案額	比 較	備 考
第一款 開田 收支	六九、二〇〇 ^四	一五、〇〇〇 ^四	五四、二〇〇 ^四	
第一項 縣 債	六三、〇〇〇	一五、〇〇〇	四八、〇〇〇	
第一目 縣 債	六三、〇〇〇	一五、〇〇〇	四八、〇〇〇	
第二項 水路工事費	四、六二五		四、六二五	
第二目 水路工事費	四、六二五		四、六二五	
第一目 水路工事費	四、六二五		四、六二五	臺帳反別百八十五町歩 一反歩ニ付金二圓五十錢ノ割
第三項 雜收入	一、五七五		一、五七五	
第一目 雜收入	一、五七五		一、五七五	

第一款 開田費

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算提案額ニ比シ金五萬四千二百圓ヲ増ス其ノ理由左ノ如シ

第一項 水路費

本項ニ於テ金四萬三千圓ヲ増スハ工事費ヲ増スニ由ル

第二項 縣債費

本項ニ於テ全ク金六千五百九十九圓ヲ増スハ縣債利子ノ支出ヲ要スルニ由ル

第三項 豫算費

本項ニ於テ全ク金五千四百四十一圓ヲ増スハ豫算外又ハ豫算超過ノ支出ニ充用セントスルニ由ル

科 目	本年度豫算額	前年度豫算提案額	比 較		備 考
			増	減	
第一款 開田費	六九、二〇〇 ^円	一五、〇〇〇 ^円	五四、二〇〇 ^円		
第一項 水路費	五八、〇〇〇	一五、〇〇〇	四三、〇〇〇		
第一目 水路費	五八、〇〇〇	一五、〇〇〇	四三、〇〇〇		土工 費 三〇、一八九
第二項 縣債費	六、〇五九	六、〇五九			工作 費 二五、五八九
第一目 縣債利子	六、〇五九	六、〇五九			費 二、二九六
第三項 豫備費	五、一四一	五、一四一			元金一萬五千圓ニ對スル四ヶ月
第一目 豫備費	五、一四一	五、一四一			分年利七分三厘
	五、一四一	五、一四一			元金七萬八千圓ニ對スル一ヶ年
	五、一四一	五、一四一			分年利七分三厘

三 薩摩原開田用水路及溜池計畫說明書

目的

用水路及溜池ヲ築造シ薩摩原ノ畑地、山林、原野約二百町歩ヲ開田スルニアリ

水源

東諸縣郡八代村大字八代南俣北部ニ貯水面積約二十町歩ノ溜池ヲ築造シ其ノ用水源トシテ同郡三財村字田野ノ西南ヲ流ルル田野川ノ上流赤松ノ尾ヨリ約五十間ノ下流ニ於テ恰好ノ地ニ引入口ヲ設ケ隧道三百五十五間半開渠八十二間半計四百三十八間ノ水路ヲ開鑿シテ之ヲ溜池内ニ導クモノトス溜池ノ集水面積ハ約四十五町ナルモ田野川ノ集水面積ハ約三百町歩アリ其ノ水量ハ平水時ニ於テ七立方尺内外過水時ニ於テ二、五立方尺最大洪水時ニ於テ百五十立方尺内外トス本川下流ニハ約三十町歩ノ古田アルモ其ノ下流ニ於ケル支川ノ水量ヲ以テ供給シ得ヘシ

引入用水路

用水引入口ニハ高九尺ノ石造堰堤及制水門ヲ設ケ平水時ニ於テハ水量全部洪水時ニ於テハ百二十立方尺迄ヲ引水シ得ル設備トス水路ノ大サハ隧道ノ部分ニ於テ巾七尺高六尺五寸トシ開渠ニアリテハ底巾六尺側壁勾配五分トシ丸石煉積トス水流ノ勾配ハ全部六百分ノ一トシ隧道ニ於テ水速毎秒三尺七寸開渠ニ於テ三尺三寸トス

用水路中ニ砂吐放水門及溢流堰ヲ設ケ不時ノ出水ニ備フルモノトス

溜池工事

溜池豫定地ハ八代村大字八代南侯ノ北部ニシテ薩摩原ノ西北部約二丁ノ處ニ位シ東北及西南ハ高臺ノ畑山林原野ニ接シ北ハ多良原山岳重疊シ其ノ間ニ彎曲シテ介在ス其ノ面積約二十一町五反トス
築堤高ハ田面ヨリ七十尺トシ馬踏二十四尺内法ハ全部二割五分外法ハ三段ニ別チ巾一間宛二段ニ犬走ヲ附シ其ノ最下層ヲ二割五分ノ勾配トシテ上部二段ヲ二割勾配トス
築堤箇所ニ於ケル谷間ノ距離ハ六十間トス

伏樋及鑿樋

伏樋ハ山腹ノ下部ニ巾四尺高五尺ノ小隧道ヲ開鑿シ其ノ山腹ニ沿フテ鑿樋ヲ敷設シ其ノ下部ハ隧道ノ入口ニ連絡セシム

餘水吐

溜池ノ水位豫定以上ニ達セシ場合ニ山腹ニ底巾十二尺水深三尺五寸ノ開渠ヲ設ケ自然ニ放水セシム
築堤敷ニ於ケル地質

築堤ノ山腹ニ接スル箇所ハ表土、腐植土ニシテ少量ノ礫ヲ混シ深サ六寸内外トス心土ハ深三尺乃至五尺ノ粘土ニシテ其ノ下層ハ水ノ浸透スル恐ナキ粘盤岩トス其ノ平坦部ハ表土ハ腐植質ノ壤土ニシテ深サ二尺内外心土ハ赤褐色ヲ呈スル強粘土ニシテ深九尺以上ニ達シ其下層ハ總テ粘盤岩トス
及金築立

水ノ浸透ヲ防ク爲堤敷ノ中心ニ於テ粘盤岩ニ達スル迄掘下ケ尙粘盤岩ノ風化セル部分ヲ切取リ岩盤切取ノ部分ニハ三和土ヲ堅ク填充シ其レヨリ順次粘土及金ニテ築立ツルモノトス

貯池ノ貯水量及有効雨量

溜池ノ貯水面積ハ約二十町歩ニシテ水深平均三十三尺此ノ水量七千二百二十八萬立方尺トス
溜池敷地及田野川ニ於テ流域合計三百四十五町歩ニシテ一ケ年降雨量約二千「ミリメートル」アリ此ノ雨量合計二億四千五百餘萬立方尺アリ而シテ降雨ノ分布ヲ見ルニ灌溉期間中ニ於ケル雨量ト其ノ他ノ期間ニ於ケル雨量トハ殆ト相半スルヲ以テ前記雨量ノ半分乃一億二千萬餘立方尺ノ水量ハ裕ニ灌溉期間前ニ既ニ溜池内ニ満水シ得ルニ充分ナルヘク而シテ灌溉期間中ニ於ケル雨量ハ尙一回溜池内ニ有効雨量トシテ引用シ得ヘシト認ムルヲ以テ適當トスヘク結局本溜池ニヨリ灌溉シ得ル水量ハ溜池容積ノ二倍乃チ一億四千二百五十六萬立方尺トス

開田地ニ於ケル所要水量

開田地ノ豫定面積二百町歩ニシテ漸次六ケ年ニ完成スルモノトシ初年度ニ於テ八十五町歩第二年度以降ニ於テ毎二十三町歩宛開田スルモノトシ其ノ開田年次ニ於ケル一町歩當リノ用水量ヲ左ノ如ク推定セリ

開田初年	一町歩ニ灌溉期間中溜池ヨリ供給スル水量	一、六八四、八〇〇	毎	三〇立方尺
				秒

同	二年目	一、一三三、二〇〇	二〇立方尺
同	三年目	八九八、五六〇	一六立方尺
同	四年目	六七三、九二〇	一二立方尺
同	五年目	五六一、六〇〇	一〇立方尺
		四八八	

但シ普通灌溉日數ハ百日内外ナルモ内三十五日間ハ地區内及地區外高峯部降下セル雨量其ノ他地區内ニ於ケル湧水及田地ノ乾燥日等アルニヨリ溜池ヨリ供給スル日數ヲ六十五日間トス

故ニ開田反別ニ應シ開田後毎年ノ用水量ヲ計算スルトキハ左ノ如シ

年次	開田年次	開田初年	同二年目	同三年目	同四年目	同五年目	同六年目	同七年目	合
第一年目	八十五町	八十五町	八十五町	八十五町	八十五町	八十五町	八十五町	八十五町	一、一〇八、〇〇〇
第二年目	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	一、一〇八、〇〇〇
第三年目	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	一、一〇八、〇〇〇
第四年目	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	一、一〇八、〇〇〇
第五年目	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	一、一〇八、〇〇〇
第六年目	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	一、一〇八、〇〇〇
第七年目	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	二二三町	一、一〇八、〇〇〇
計									七、一〇四、〇〇〇

本表ニ據ルトキハ開田最終ノ時期乃チ第六年目ノ際ニ多少不足ノ感アルモ第七年目以後ニ於テハ灌溉水量ニ餘裕アルニ至ルヘシ

薩摩原溝池並引入用水路工費豫算

總工費 七萬七千參百〇七圓

費目	設	計	單	價	費	用
溜池築立工事	長六十四間三分八厘					二六、四〇六、〇〇〇
築堤	長八十五間					一、九七〇、〇〇〇
伏樋代用壁	長八十間					五、〇〇七、〇〇〇
餘水吐						一七二、〇〇〇
林道附替						一四七、〇〇〇
石橋架設						六九六、〇〇〇
用水路堀						三、三九八、〇〇〇
引入用水路工事	長三百五十五間五分					一六、四五六、〇〇〇
明渠	長八十二間五分			四六二、九〇〇		六、二八九、〇〇〇
シヤ	四ヶ所			七六二、三〇〇		七、八〇〇、八〇〇
歩道	四百五十間			一九五、〇二〇		一、二八八、〇〇〇
取水口堰	一ヶ所			三〇〇		一、五〇〇、〇〇〇
制水門	一ヶ所					一、五〇〇、〇〇〇
放水門	一ヶ所					一、四〇〇、〇〇〇
小砂吐	二ヶ所					二、五三八、〇〇〇
計						四八、九〇〇、〇〇〇

用地及溜池	二十四町二反五畝步	一一、六四八〇〇〇
溜池及溜池	一反六畝步	三二〇〇〇〇
開田水路敷地		〇〇〇〇〇
引水水路明渠敷地		〇〇〇〇〇
小計		一一、六八〇〇〇
監督員俸給	助手一名月俸 二十四圓一年分	七二〇〇〇
俸給	助手一名同 二十四圓同	六二一〇〇
旅費	助手一名同 三六圓一分	一、三四一〇〇
小計	助手一名同 三六圓一分	一、〇〇〇〇
雜費	助手一名同 三六圓一分	一、〇〇〇〇
小計	助手一名同 三六圓一分	一、〇〇〇〇
備合		七三、八〇七〇〇
備合		三、五〇〇〇〇

四九〇

薩摩原溜池及水路工事費收支豫算

溜池及水路工事ハ大正三年度ニ著手シ同年度内ニ完成ス工事費トシテ大正三年度ニ七萬七千三百圓ヲ四ヶ年据置(年七分二厘)七ヶ年間年賦償還(年七分)ニテ借入ル
 開田ハ耕地整理組合ニテ大正四年度ヨリ著手ス
 溜池及水路工事費納付金トシテ大正三年度ニ於テ反當一圓八十二錢大正四年度ニ於テ反當八十六錢ヲ徴收ス
 用水料ハ年々經費ニ應シテ大正四年度ヨリ反當四圓五十六錢乃至九圓五十七錢ヲ徴收ス雜收入トシテ
 ハ大正三年度借入金ハ年度内時々必要ニ應シテ仕拂フヲ以テ之ニ對シ半年分ノ預金利子(年五分)ヲ

見込ム

年度	借入金	開田反別用水料收入	工事費	雜收入	前年度繰越金	年度收入計	工事費維持費	縣債償還金	償還元利	支出計	殘
大正三年	七、三〇〇	八五丁	四、五〇〇	三、六四〇	一、九三三	八二、八七三	七、三〇七	〇〇〇	五、五六六	八二、八三三	〇
同四年	〇	五〇〇	五、九六六	〇	〇	五、九七〇	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇
同五年	〇	一〇八丁	五、九六六	〇	〇	五、九六六	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇
同六年	〇	一三一丁	五、九六六	〇	〇	五、九六六	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇
同七年	〇	一五四丁	五、九六六	〇	〇	五、九六六	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇
同八年	〇	一七七丁	五、九六六	〇	〇	五、九六六	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇
同九年	〇	八、三三	五、九六六	〇	〇	五、九六六	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇
同十年	〇	二〇〇丁	五、九六六	〇	〇	五、九六六	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇
同十一年	〇	七、七六	五、九六六	〇	〇	五、九六六	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇
同十二年	〇	二〇〇丁	五、九六六	〇	〇	五、九六六	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇
同十三年	〇	七、三七	五、九六六	〇	〇	五、九六六	〇	〇〇〇	五、五六六	五、九六六	〇

薩摩原現在農作收支計算

地目	作物	反別	反當	單價	反當	總收	額量	反當	反當	勞力	勞力	反當	反當	公課	總支	反當	總利
			量		代價	額		金	當	當	總計	當	當	課	出	當	計益
			丁					錢									

四九一

本則ハ大正三年度ヨリ之ヲ施行ス
大正二年 月 日提出

宮崎縣知事 有 吉 忠 一

宮崎縣薩摩原開田起債及償還方法案

第一條 縣ハ薩摩原開田ニ要スル溜池及水路費ニ充用スル爲大正三年度ニ於テ金七萬七千三百百ヲ日本勸業銀行又ハ其ノ他ノ銀行若
ハ會社ヨリ借入ルルモノトス
但シ借入期ハ貸主ト協定スルモノトス
第二條 借入金利率ハ年七分二厘以內トシ毎年元金ト同時ニ支拂フモノトス
但シ借入及償還最終年度ニ於ケル利率ハ日割ヲ以テ之ヲ附スルモノトス
第三條 元金ハ大正七年度ヨリ大正十三年度迄七ケ年間ニ之ヲ償還スルモノトス
但シ縣經濟ノ都合ニ依リ償還年額ヲ増加シ又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ借替ヲ爲スコトヲ得其ノ額ハ豫算ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 毎年度ニ於ケル償還期日及据置年度ニ於ケル利率ノ仕拂期日ハ貸主ト協定スルモノトス
第五條 縣債ノ利率及元金償還ハ溜池及水路工事費納付金用水料及其ノ他開田事業ヨリ生スル一切ノ收入ヲ以テ之ニ充ツルモノトス
前項ノ收入ニシテ縣債ノ利率及元金償還ニ不足ヲ告クルトキハ一般會計ヨリ之ヲ補填シ漸次前項ノ收入ヲ以テ展入ルルモノトス

薩摩原溜池及水路工事費起債償還年次表 (据置期間 年七分二厘 償還期間 年七分)

年次	年	度	債 額	償 還 金	利 子	償 還 元 利 計
一	大 正	三 年	七、七、三〇〇 ^円		五、五六六 ^円	五、五六六 ^円
二	同	四 年	同		同	同
三	同	五 年	同		同	同

年次	年	度	債 額	償 還 金	利 子	償 還 元 利 計
四	同	六 年	同		同	同
五	同	七 年	六八、三六八	八、九三二	四、七八六	一四、三四三
六	同	八 年	五八、八一	九、五五七	四、一七	同
七	同	九 年	一〇、二二六	一〇、九四二	三、四〇一	同
八	同	十 年	四八、五八五	一一、七〇八	二、六三五	同
九	同	十 一 年	三七、六四三	一一、七〇八	一、八一五	同
十	同	十 二 年	二五、九三五	一二、五二八	九三六	同
十一	同	十 三 年	一三、四〇七	一三、四〇七	四五、三六五	一一二、六六五
計				七七、三〇〇		

大正三年度宮崎縣薩摩原開田歲入歲出豫算說明

第一款 開田收入 歳入

本款ハ新設ニ屬シ金八萬二千八百七十三圓ヲ要ス其ノ理由左ノ如シ

- 第一項 縣 債
本項ニ於テ金七萬七千三百圓ヲ要スルハ開田ノ爲縣債ヲ起スニ由ル
- 第二項 溜池及水路工事費納付金
本項ニ於テ金三千六百四十圓ヲ要スルハ水路工事費納付金ノ收入アルニ由ル
- 第三項 雜 收 入
本項ニ於テ金千九百三十三圓ヲ要スルハ預金利率ノ收入アル見込ナルニ由ル

科 目	本 年 度 豫 算 額	備 考
第一款 開田收入	八二、八七三 ^円	

第一項	縣債	七七、三〇〇	
第一目	縣債	七七、三〇〇	
第二項	溜池及水路	三、六四〇	
第一目	工事費納付金	三、六四〇	
第二目	溜池及水路	三、六四〇	
第三項	雜收入	一、九三三	
第一目	雜收入	一、九三三	
		開田反別二百町歩一反歩ニ付 金一圓八十二錢ノ割	

五〇〇

第一款 開田費 歳出

本款ハ新設ニ屬シ金八萬二千八百七十三圓ヲ要ス其ノ理由左ノ如シ

第一項 溜池及水路費

本項ニ於テ金七萬三千八百七圓ヲ要スルハ溜池及水路工事費ヲ要スルニ由ル

第二項 縣債費

本項ニ於テ金五千五百六十六圓ヲ要スルハ縣債利子ノ支出ヲ要スルニ由ル

第三項 豫備費

本項ニ於テ金三千五百圓ヲ要スルハ豫算外又ハ豫算超過ノ支出ニ充用セントスルニ由ル

科	目	本年度豫算額	備考
第一款	開田費	八二、八七三	
第一項	溜池及水路費	七三、八〇七	
第一目	溜池及水路費	七三、八〇七	
第二項	縣債費	五、五六六	
第一目	縣債利子	五、五六六	
		工用事費 地事費 俸給及旅費 雜費	一五九、七八六 一、三六八 〇、四〇一 〇、四〇一

第三項	豫備費	三、五〇〇
第一目	豫備費	三、五〇〇

宮崎縣月中原及薩摩原開田用水料徴收規則案

第一條 月中原及薩摩原開田ハ開田實測面積一反歩ニ付一ヶ年金十圓以内ノ用水料ヲ徴收ス

但シ毎年度徴收スヘキ金額ハ歲入豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 用水料ハ開田地所有者ヨリ之ヲ徴收ス

附則

本則ハ大正三年度ヨリ之ヲ施行ス

大正二年 月 日提出

宮崎縣參事會委任案

縣參事會委任條件中ニ左ノ事項ヲ加フ

一、宮崎縣月中原及薩摩原開田起債償還方法更正ニ關スル件

大正二年 月 日提出

宮崎縣知事 有 吉 忠 一

四 月中原水路及溜池計畫說明

目的

本事業ハ兒湯郡三財村上三財字河平ニ於テ三財川ノ流水ヲ取入レ之ヲ三財村字月中原ニ導キ畑地及山林原野二百六十町歩ヲ開田スルヲ以テ目的トス

用水源

用水源ハ三財村上三財字河平ニ於テ三財川ヨリ引水スルモノニシテ同川ハ其ノ源ヲ西米良村ニ發シ
三財村字寒川ニ於テ一支流ヲ合セ其ノ流末ハ佐土原町ニ於テ一ツ瀬川ニ合ス用水取入口迄ノ流域約
六千二百町アリ概ネ森林ニシテ夏期ノ平水量約九十立方尺ヲ有シ渴水時期ニ於テ約七十立方尺ニ減
水ス本川ハ取入口ヨリ下流ニ於テ約五百町歩ノ古田ヲ灌溉シ居レルヲ以テ本事業ノ爲渴水時ニ於テ
古田ノ灌溉ニ故障アル場合ヲ慮リ其ノ補給ノ目的ヲ以テ本川南岸上三財字電野ニ於テ田野川ノ支流
ノ溪間ヲ堰キ止メ築堤高六十尺水面積六町歩餘水量約一千三百萬立方尺ノ溜池ヲ設クルモノトス
用水路

起點、兒湯郡三財村上三財字河平ニ於テ三財川ノ左岸

經過地、引入口ヨリ以下ハ概ネ三財川ニ並行シ地區ニ達スル前約三百間ノ所ニ於テ本川ト稍離レ畑
地又ハ山腹ヲ通過シテ開田地區ニ達ス

終點、水路ノ終點ハ月中原ノ西北隅ニ於ケル高最部トス

水路ノ大サ勾配及水量

水量ハ平水時ニ於テ毎秒三十五立方尺ヲ引水シ三財川ノ水量豊富ニシテ下流古田ニ何等影響ヲ及ホ
ササル時ニ於テ四十五立方尺迄ヲ引水シ得ル設備トス
水路ハ左ノ五種トス

- 一、暗渠、隧道、岩盤ニ於ケル開渠、普通土質ニ於ケル開渠及ヒ掛樋トス暗渠ハ敷巾三尺五寸水深
三尺兩岸三分勾配トシ丸石煉積又ハ岩盤ノ切取トシ半圓形ノ混凝土ノ有蓋渠トス
- 隧道ハ敷巾五尺水深三尺五寸高六尺左右壁ハ直立ノ切取トシ其ノ上部ハ經五尺ノ半圓形トス
- 岩盤質ニ於ケル開渠ハ敷巾三尺五寸水深三尺左右勾配三分トシ兩岸ハ岩盤ノ切取又ハ煉石積トス
- 普通土質ニ於ケル開渠ハ敷巾三尺五寸水深三尺左右側壁ノ勾配ハ共ニ一割トシ側面及ヒ底面ハ厚サ
一尺ノ粘土及金ヲ挿入スルモノトス
- 掛樋ハ木造トシ内法巾五尺高三尺トス
- 水路ノ勾配ハ一千分ノ一トス
- 水路ノ延長ハ左ノ如シ

有蓋渠二十間開渠八百六十七間隧道一千〇三十六間合計一千九百二十三間トス

各種附帶工事

量水標ノ設置

三財川ノ水量ヲ觀測スル爲引入口附近ニ於テ本川ニ量水標ヲ設置シ各水位ニ應シ水量ヲ調整ス

整水門

用水引入口ニ整水門ヲ設ケ引揚戸扉ヲ裝置シ其ノ上下動ニヨリテ水量ヲ調整ス

砂吐

水路中ニケ所ニ放水路及砂吐ヲ設ケ洪水ノ際進入セシ土砂ヲ排出スル設備ヲナス
溢水路

洪水ノ際豫定以上ノ水量カ水路ニ浸入セシ際ニ於テ自然ニ放水スル溢水路ヲ數ケ所ニ設置シ以テ水
路ノ破壊ヲ防ク

歩道ノ新設

巾三尺内外ノ歩道ヲ開田地區ヨリ引入口ニ達スル迄設ケ以テ水ノ監視ニ便ナラシム
架橋

水路カ道路ヲ横斷スル箇所ニ於テハ其ノ路巾ニ應シテ板橋ヲ架スルモノトス

溜池工事

渴水時ニ於テ古田ノ灌溉水ヲ補フ爲字電野ニ於テ溜池ヲ設ク其ノ大サハ築堤高六十尺馬踏二十尺ニ
シテ外法ハ各二十尺宛ノ三段ニ分テ各段毎ニ巾一間ノ犬走ヲ二ケ所ニ設ケ其ノ最下層ハ二割五分ト
シ上二段ハ二割勾配トシ總張芝トス

内法ノ勾配ハ全部二割五分トシ豫定水位ハ馬踏面以下八尺トシ水際法長二十尺ヲ波避ノ爲丸石張ト
ナス

餘水吐ハ流域三百町歩ニ三時間降下スル最大雨量ヲ同時間内ニ排水シ得ル設備トス
伏樋及堅樋

伏樋ハ山腹ノ一方ニ巾二尺五寸高三尺ノ隧道ヲ堀鑿シ其ノ山腹ニ沿フテ堅樋ヲ設ケ其ノ隧道口ニ連
絡セシム

溜池内ニ貯水シ得ル量ハ左ノ如シ

溜池水面積六町歩平均深二十尺此ノ水量一千二百九十六萬立方尺灌溉期間ノ初メニ於テ以上ノ水量
ヲ貯ヘ尙灌溉期間中ニ一回ノ水量ヲ貯ヘ得ルヲ以テ此ノ溜池内ニ於ケル有効水量ハ二千五百九十二
萬立方尺ナリ此ノ水量ハ毎秒二十立方尺宛放水シツツ十四日間ノ久敷ニ堪ユヘシ故ニ灌溉期間中ニ
週間ノ渴水時期アリト雖此ノ溜池ヲ以テ充分給水シ得ヘシ

溜池水源地ニ於ケル一ケ年ノ有効雨量

本溜池ノ水源地ハ田野川ノ流域ニシテ面積約三百町アリ而シテ同地方ニ於ケル一ケ年ノ雨量ハ毎年
平均二千「ミリメートル」内外ナリ此ノ水量ハ二億一千三百餘立方尺ナルヲ以テ其ノ八割ハ蒸發、浸
透、及ヒ餘水吐ヨリ逸去スルト見ルモ其ノ殘餘二割ノ水量ヲ以テ裕ニ溜池ニ二回ノ水量ヲ貯水シ得
ヘシ

古田及開田地ニ於ケル所要水量

古田ニ於ケル面積ハ五百町歩ニシテ十町歩ニ對シテ一秒間一立方尺ト見積ルトキハ毎秒五十立方尺
ノ水量ヲ要ス

開田地ニ於ケル所要水量ハ左ノ如シ

溢水路	三ヶ所	二〇・〇〇〇	六〇
小計			六二、九二六
附屬溜池工事	延長六十五間		一八、七七七
築堤費	延長百十間		七六〇
伏樋費	延長五十間		三、一四六
餘水吐費			二二、六八三
小計			二、二六〇
用地費	八千六百六十五坪		二、四一五
用水路敷地	一町六反一畝歩		四、六七五
溜池敷地			
小計			九六〇
監督員俸給及旅費	技手一名 月俸四十四圓一年分		八七六
俸給	助手二名 月俸二十四圓一年分		一、八三六
旅費	技手一名 三百六十五日分		一、五〇〇
小計	助手二名 同		一、五〇〇
雜費			九三、六二〇
小計			五、〇〇〇
合備費			九八、六二〇
通計			

五〇八

月中原水路及溜池工事費收支豫算

水路及溜池工事ハ大正三年度ニ著手シ同年度内ニ完成ス
 工事費トシテ大正三年度ニ九萬八千六百圓ヲ四ヶ年据置(年七分二厘)七ヶ年間賦償還(年七分)ニテ

借入ル

開田ハ耕地整理組合ニテ大正四年度ヨリ著手ス

水路及溜池工事費納付金トシテ大正三年度ニ於テ反當一圓七十九錢大正四年度ニ於テ反當一圓〇四錢ヲ徴收ス

用水料ハ年々經費ニ應シテ大正四年度ヨリ反當四圓五十三錢乃至九圓四十五錢ヲ徴收ス

雜收入トシテハ大正三年度借入金ハ年度内時々必要ニ應シテ仕拂フヲ以テ之ニ對シ半年分ノ預金利子(年五分)ヲ見込ム

年 度	借入金	開田反別 反當用水料	用水料 收入	工事費 納付金	雜收入	前年度 繰越金	收入計	工事費	維持費	縣償償還 金元利	支出計	殘
大正三年	九、六〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	二、七〇〇	二、四六五	一、〇五七	七、〇九二	九、六〇〇	六〇〇	七、〇九二	一〇、五七二	一、四八〇
同 四年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一
同 五年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一
同 六年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一
同 七年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一
同 八年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一
同 九年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一
同 十年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一
同 十一年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一
同 十二年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一
同 十三年	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、七〇〇	七、七〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	七、〇九九	七、六九九	一、〇〇一

五〇九

月中原耕地整理組合起債償還金元利豫算

整理費ハ反當十二圓トシ其ノ開田反別ニ應シテ必要ナル費用ヲ三年据置キ十二ヶ年賦償還法ニ依リ六ヶ年間ニ順次借入ルル事トシ据置期間ハ年利七分償還期間ハ年利六分五厘ト豫定ス

年	度	開田反別	整理費起債元金
大正	正	年	一〇〇〇
同	四	年	四〇〇
同	五	年	三〇〇
同	六	年	三〇〇
同	七	年	三〇〇
同	八	年	三〇〇
同	九	年	三〇〇
同	十	年	三〇〇
同	十一年	年	三〇〇
同	十二年	年	三〇〇
同	十三年	年	三〇〇

年	度	四年起債償還金元利	五年起債償還金元利	六年起債償還金元利	七年起債償還金元利	八年起債償還金元利	九年起債償還金元利	計
大正	四年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	八四〇
同	五年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	一、一七六
同	六年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	一、四二八
同	七年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	二、三一
同	八年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	二、八一五
同	九年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	三、二五六
同	十年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	三、四四五
同	十一年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	三、六三四
同	十二年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	三、八二三
同	十三年	八四〇	三三六	二五二	二五二	二五二	二五二	三、八二三

月中原耕地整理組合開田後利益ト支出トノ差引豫算

年	度	開田後利益	減開田後利益	反當
同	十二年	五八八	四四一	一、四七二
同	十三年	五八八	四四一	一、四七二

年	度	工事費	用水料納付	耕地整理費	計	生産物利益	増開田後利益	減開田後利益	反當
大正	三年	四、六五四	五、〇〇〇	八四〇	四、六五四	八、六三二	三、八八〇	四、六五四	一、七九九
同	四年	二、七〇四	七、七〇〇	一、一七六	八、五五四	一、一五二	九、九三二	四、六五四	一、七九九
同	五年	七、七〇〇	七、七〇〇	一、一七六	八、八七六	一、八五六	九、九三二	四、六五四	一、七九九
同	六年	七、七〇〇	七、七〇〇	一、一七六	九、一五九	二、〇二八	一、七三九	四、六五四	一、七九九
同	七年	七、七〇〇	七、七〇〇	一、一七六	九、一五九	二、〇二八	一、七三九	四、六五四	一、七九九
同	八年	七、七〇〇	七、七〇〇	一、一七六	九、一五九	二、〇二八	一、七三九	四、六五四	一、七九九
同	九年	七、七〇〇	七、七〇〇	一、一七六	九、一五九	二、〇二八	一、七三九	四、六五四	一、七九九
同	十年	七、七〇〇	七、七〇〇	一、一七六	九、一五九	二、〇二八	一、七三九	四、六五四	一、七九九
同	十一年	七、七〇〇	七、七〇〇	一、一七六	九、一五九	二、〇二八	一、七三九	四、六五四	一、七九九
同	十二年	七、七〇〇	七、七〇〇	一、一七六	九、一五九	二、〇二八	一、七三九	四、六五四	一、七九九
同	十三年	七、七〇〇	七、七〇〇	一、一七六	九、一五九	二、〇二八	一、七三九	四、六五四	一、七九九

月中原耕地整理組合工事完了迄六年間補償金反當豫算

年	度	開田地反當豫算	現在平均	小作料	代價	小作人	補償金トシテ地主ヨリ徴收シ得ヘキ收量	代價
大正	三年	一、四〇四	二斗七升	三、九八	一〇、〇六	一、〇〇六	一、〇〇六	一、〇〇六

現在三圓三錢ノ利益ト六錢ノ公課計三圓九錢内外カ小作料トシテ地主ノ所得トナル

第一款 開田收入

本款ハ新設ニ屬シ金十萬五千七百十九圓ヲ要ス其ノ理由左ノ如シ

第一項 縣費

本項ニ於テ金九萬八千六百圓ヲ要スルハ開田ノ爲縣債ヲ起スニ由ル

第二項 水路及溜池工事費納付金

本項ニ於テ金四千六百五十四圓ヲ要スルハ水路及溜池工事費納付金ノ收入アルニ由ル

第三項 雜收入

本項ニ於テ金二千四百六十五圓ヲ要スルハ預金利子ノ收入アル見込ナルニ由ル

科	目	本年度豫算額	備	考
第一款	開田收入	一〇五、七一九		
第一項	縣債	九八、六〇〇		
第一目	縣債	九八、六〇〇		
第二項	水路及溜池工事費納付金	四、六五四		
第一目	水路及溜池工事費納付金	四、六五四	開田反別二百六十町步	一反步ニ付 金一圓七十九錢ノ割
第三項	雜收入	二、四六五		
第一目	雜收入	二、四六五		

歳出

第一款 開田費

本款ハ新設ニ屬シ金十萬五千七百十九圓ヲ要ス其ノ理由左ノ如シ

第一項 水路及溜池費

本項ニ於テ金九萬三千六百二十圓ヲ要スルハ水路及溜池工事費ヲ要スルニ由ル

第二項 縣債費

本項ニ於テ金七千九百九十九圓ヲ要スルハ縣債利子ノ支出ヲ要スルニ由ル

第三項 豫算費

本項ニ於テ金五千圓ヲ要スルハ豫算外又ハ豫算超過ノ支出ニ充用セントスルニ由ル

科	目	本年度豫算額	備	考
第一款	開田費	一〇五、七一九		
第一項	水路及溜池費	九三、六二〇		
第一目	水路及溜池費	九三、六二〇	工用及地事旅費	八五、六〇九
第二項	縣債費	七、〇九九		一一四、六七〇
第一目	縣債費	七、〇九九		一〇三、六五〇
第三項	豫算費	五、〇〇〇		
第一目	豫算費	五、〇〇〇		

議案

五二〇

第二 工事完了後ニ於ケル事務施行ニ付地方廳及整理施行者ノ執レル方法及
其ノ得失

答申

北海道

答申事項ナシ

東京都府

本府ニ於テハ工事完了後ニ於ケル事務施行ニ付テハ經費ノ都合上換地配當及地價配賦位ハ本府ニテ之ヲナセトモ其ノ他ノ事務ニ付テハスヘテ整理施行者ニ之レヲナサシメ本府ニテハ之ヲ指導スルノミナリ
工事完了後ニ於ケル事務施行ニ付テハ經費ノ許ス限り官廳ニテ之ヲナシ速ニ事務ヲ終了セシムルヲ得策トス

京都府

耕地整理ハ法令多岐ニ涉リ手續複雑ナルモノアルヲ以テ當業者施行ニ際シ困難ヲ感スルヲ常トス殊ニ
工事施行後ノ事務完了ニ至リテハ一層澁滞ヲ來シ整理ヲ遅延スルノ傾向尠ナシトセス之レ畢竟新事業
ニシテ其ノ方法ヲ知了セサルニ依ルヘシト雖亦工事完了ヲ以テ事業一先終了セルモノノ如ク速斷スル
モノアルニ依ルカ如シ爰ヲ以テ府ハ從來施行前ハ書式ヲ示シテ書類ノ作製ヲ助成シ施行後ハ特ニ吏員
ヲ派シ設計變更換地處分確定圖調製其ノ他ニ付テ指導ヲ與ヘツツアリト雖目下事業多ク定員之ニ伴ハ
サルヲ以テ勢ヒ不充分ナルヲ免レサルハ遺憾トスル所ナリ惟フニ事務ヲ速了セシムル點ヨリ見レハ工
事中ノ設計變更ヨリ完了後ノ登記手續ニ至ル迄ノ間設計調査若ハ工事監督ノ如ク常ニ地區ヲ擔任シテ
事務補助ヲ爲スヲ可トスヘシ之レ當業者ノ最モ切望スル所ナランモ目下經費ノ點ニ於テ支障アルノミ
ナラス又地區内ノ事務ニ深入スルノ嫌ナキニアラス假令ハ終始一地區ノ事務ヲ補助セムトスルモ換地
配當ノ如キ如何ニ之ヲ指導スルヤ疑ナキ能ハス要スルニ此點ハ講究ニ俟タサルヘカサルモ府ハ當分
來得ル限り官廳ノ往復ニ要スル直接事務ニ付テ指導ヲ與ヘ殘務ヲ終了セシムルニ最メント欲ス但シ爰
ニ注意ヲ要スルハ事務施行ニ付各官廳ニ屬スル取扱聯絡ヲ缺クカ爲事業ノ進捗ト完了ヲ遅延セシムル
モノ尠ナカラサルコトナリ即チ地價配當終了後登記ノ手續ニ際シ多クノ日數ヲ要スルカ如キ其ノ一例
ナリ從テ一面當業者ヲ鞭撻シテ終了ニ最メシムルハ勿論ナルモ一面各官廳ノ事務統一ヲ圖リ手續ノ簡

五二一

捷ヲ講セラレシコトヲ望ム之レ事業ノ完了ニ影響スル所大ナルヲ以テ併セテ希望ヲ付記ス

大 阪 府

工事完了後ニ於ケル換地交付ヨリ登記ノ完了ニ至ル迄ノ諸般事務ハ手續繁雜ニシテ且整理施行者ノ利害ニ大ナル關係ヲ有スル事項ナルヲ以テ之ヲ整理施行者ニ於テ處理スルトキハ多大ノ時日ト少ナカラサル經費トヲ要シ加之公平ヲ缺クノ嫌アリ故ニ從來本府ニ於テハ當廳吏員ヲシテ之カ指導監督ヲ行ハシメ居レリ然トモ事務ノ繁劇ナル爲當廳吏員ヲシテ終始之カ指導ニ當ラシメ難キ現況ナルヲ以テ漸次府ノ設備ヲ改善シ將來ハ充分ナル指導ヲ與ヘ以テ事務ノ進捗ト完全トヲ期セントス

神 奈 川 縣

一 本縣ニ於テハ事業獎勵ノ手段トシテ相當ノ設備ヲ爲シ各地區ヨリ申請アリタル場合ハ技術員ヲ派遣シテ助成指導ニ努メシムルハ勿論用務ノ都合ニ依リテハ申請ヲ待タス時期ヲ見計ヒ隨時技術員ヲ派遣シテ一面手續上ニ誤ナキコトヲ期スルト同時ニ指導ヲ爲サシメ速成ヲ期シツツアリ
整理施行者中比較的地區ノ大ナルモノニ在リテハ專務ノ書記ヲ任用セルモノアルモ多クハ所屬町村役場ノ書記ヲ利用セルモノアリ或ハ組合役員自ラ事務ヲ取レルモノアリ殊ニ昨年度ヨリ補助金ヲ交付シ縣農會ニ於テ助成員ナルモノヲ設ケシメタルヲ以テ之ヲ利用シテ速成ヲ希フモノ漸ク多キヲ加

ヘツツアリ

二 其ノ得失

何レノ方法ヲ取ルモ一失ヲ免レサルハ已ムヲ得サルモ要スルニ理解力ニ乏シキモノニ對シ比較的繁雜ナル事理ヲ説明スルハ困難ナル場合少ナカラサルヲ以テ出來得ル丈ケ直接指導スル方誤リ尠少ク事務ノ統一ヲ圖ル上ニ於テ得策ナリト信ス農會助成員ヲ利用スルノ如何ニ至リテハ創始以來未タ一ケ年度ヲ經過シタルニ過キサルモ昨年度ノ成績ニ徴スルトキハ相當ノ効果アリト認メタリ

兵 庫 縣

耕地整理ノ行ハレタル初期ニアリテハ工事完了後ノ事務ニ滯滞ヲ來シ容易ニ事業ノ完了ヲ見ルニ至ラサリシカ其ノ多クハ手續ヲ知悉セスシテ往々工事ヲ急キ爲ニ後年換地處分ノ期ニ至リ配當方法等ニ關シ種々ナル錯誤ヲ生シ解決ニ日ヲ要スルト關係者ノ多クハ工事ノ完了ヲ以テ目的ヲ達シタルモノトナシ工事完了後ノ事務ヲ全ク等閑ニ付シ去リタルトニ依ルモノナルヲ以テ本縣ニ於テモ此ノ點ニ留意シ事業ノ頭初ニ際シテ先ツ事業完了迄ノ手續ノ經過ヲ會得セシムルニ努メシカ今日ニ於テハ完了後ノ事務進捗ニ就テハ孰レモ之カ必要ヲ感知スルニ至レリト雖諸種ノ複雜ナル事務ヲ完全ニ處理スルコトハ普通農業者ノ能クスル所ニアラス又適當ナル事務員ヲ得ルコト難ク自ラ其滯滞ヲ來スモノアルヲ免レヌ尤モ一二ノ郡ニアリテハ吏員ヲシテ終始之レカ指導監督ヲナサシメ又ハ事務ノ進歩ニ從ヒ之レニ對

スル補助金ヲ交付シ或ハ其ノ町村役場ニ於テ事務ヲ擔任シ之ヲ助ケツツアリテ斯ル地方ニ於テハ其ノ成績稍々良好ナリト雖未タ一般ニ普及スルニ至ラス完了後ノ事務ハ實ニ施行者ノ最モ苦ム所ナリ
斯ノ如ク之カ澁滞ハ管ニ整理ノ利益ヲ完フシ得サルノミナラス又事業獎勵上影響スル所蓋シ尠ナカラサルモノアルヲ以テ縣ニ於テ直接周到ナル指導ヲ爲サムトセルモ其ノ設備上未タ許ササルモノアリシカ昨年度ヨリ漸ク吏員ノ一部ヲ以テ之ニ充テ工事完了後ノ地區ヲ順次ニ整理スヘキ方針ヲ以テ地區ノ事務員ヲ直接指揮シ根本的處理ニ努メツツアリ

之カ完全ナル方法トシテハ吏員ヲ増加シテ指導監督ヲ充分ナラシムルト郡市及町村ニ於テモ相當ナル補助ヲ與ヘ之カ指導ヲ怠ラサラシムルト同時ニ郡市ノ吏員中之等ノ手續ヲ知悉セルモノ少ナキヲ以テ之等吏員ニ事務ノ講習ヲ行ヒ併セテ地區ノ實務ニ從事スヘキ事務員ノ養成ヲ成シ傍手續要覽ノ如キ印刷物又ハ申請書類ニ要スル用紙ヲ配付スル等諸般ノ便宜ヲ與フルハ事務進捗上現今ニ於ケル制度ヲ以テシテハ適當ノ方法ト云フヲ得ヘシ然トモ元來工事完了後ノ事務中最モ澁滞ヲ來ス所ノモノハ換地處分ニシテ之カ蹉跌ハ獨リ其ノ手續ノ複雑ナルカ爲ノミナラス寧ロ其ノ配當上ニ關スル各土地所有者ノ利害關係ニ歸因スルモノ大ナルモノアリ實ニ換地處分ハ各土地所有者ニ取り最モ重要ナル事項ニシテ之カ適當ニ處分サレサルニ於テハ或意味ニ於テ整理ノ效果ヲ全ク沒却セシムルノミナラス却テ惡結果ヲ來スモノタルヤ明カニシテ然モ之カ處分ハ互ニ偏破ニ傾キ易キ土地所有者ノ協議ニヨリ決セラルルノ現狀ニアリテハ蹉跌澁滞ヲ來ス誠ニ當然ノ事ト云フヲ得ヘク從テ單ニ手續ノ指導ノミヲ以テシテハ

如何ニ指導獎勵ノ設備ヲ完全ニスルモ充分ニ其ノ效果ヲ擧クルコト難カルヘク故ニ眞ニ其ノ速進ノ實ヲ擧ケントセハ更ニ一步ヲ進メテ評價換地配當等凡テ官廳ニ於テ處分スルノ制度トスルヲ以テ最モ適當ト認ムルモノニシテ斯ノ如クセハ單ニ完了後ノ事務ヲ速進セシメ得ルノミナラス整理ノ利益ヲ各土地所有者ニ平等ニ享受セシメ得テ眞ニ整理ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘキヲ信ス

長 崎 縣

大正二年度以後ハ整理施行者ヲシテ出來得ル限リ確定測量製圖及換地處分並地價配當案ノ作製等モ急速ニ處理セシムル主旨ヲ以テ縣ハ必要ト認ムル事項ヲ指導シテ之ヲ督勵シツツアリシモ其ノ處理頗ル緩慢ニシテ遲滞シツツアリ其ノ主因ハ耕地整理地區及其ノ地方ニ事務ヲ執リ得ル適當ノ人物ナク殊ニ整理後ノ土地各筆ノ面積實測及確定圖調製ハ殆ト不可能ナリシ場合多カリシニ由ルヲ以テ大正三年度ニ於テハ其ノ確定測量ハ縣ニ於テ之ヲ施行シ所要ノ確定圖及土地各筆ノ面積調書ヲ地區ニ交付シ一切ノ手續ヲ指導シツツアルヲ以テ此ノ方法ニ依ルトキハ向後ハ着々整理シ得ヘシト思惟セラル而シテ本縣ニ於ケル目下ノ狀態ニ照シ推考スルトキハ當分如斯方法ニ據ルノ外得策ナキカ如シ

新 潟 縣

本縣ニ於テハ事務ヲ指導セシムル爲農業技手二名農業技手補二名ヲ置キ當業者ノ申請ニ依リ主トシテ組合設立又ハ施行認可申請、設計書及地區變更、換地處分及地價配當ニ付當業者ニ於テ自ラ書類ヲ調製シ得ル程度迄ニ其ノ手續ヲ指導セシメツアルモ現在ノ人員ニテハ充分當業者ノ希望ヲ容ルルコト能ハサルカ如キ狀況ナリ然トモ尙多數ノ整理施行者ハ其ノ手續非常ニ繁雜ナルヲ厭ヒ從來書類ノ調製ヲ請負ニ附スルモノ多キヲ以テ縣下ニ於テ專ラ斯業ニ従事スル營業者七名其ノ他各地方ニ兼業トスルモノ亦少ナカラス事務進捗上頗ル貢獻シツアルモ請負金ハ左表ノ如ク高價然モ調製極メテ杜撰ニシテ不備ノ爲却下セラルルコト數回其ノ都度更ニ訂正料トシテ相當割増ヲ請求スル等結局施行後ノ一筆九十錢以上ニ當ルモノ少ナカラサルノミナラス請負者中不誠實ニシテ反テ手續ノ遲延ヲ來タスモノ少ナカラス而シテ組合ニ常任ノ事務員ヲ置キ一切ノ事務ヲ擔當セシムル場合ハ責任ヲ重ンシ書類ノ作製等比較的確實ナルモ換地處分、地價配當及登記申請ノ手續等ニ就テハ殆ト經驗ナキモノ多キヲ以テ時日ヲ要スルト給料其ノ他ノ費用ハ却テ請負以上ニ達スルモノ少ナカラス從テ請負ニ附スルト否トハ自ラ一得一失アリ着實ナル請負者ハ寧ロ之ヲ歡迎スヘシト雖請負者ハ一般無責任ナルヲ免レサルカ故ニ整理施行者ニ於テモ近時次第ニ事務直營ニ傾キツツアリ從テ縣ニ於テモ其ノ指導ニ遺憾ナカラシムルヲ努メ居レリ

耕地整理施行手續整理後一筆當請負金

種別	組合設立又ハ施行認可		施行認可後換地處分認可後換地處分認可後		地價配當登記		計
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	
平均	一七〇	八三	三五二	六〇	七五	一八〇	七七七
最高	一七〇	八三	三五二	六〇	七五	一八〇	七七七
最低	一七〇	八三	三五二	六〇	七五	一八〇	七七七
平均	一三四	一三四	一一二〇	一一二〇	五八	九〇	五〇二

其ノ他圖面ノミ調製スル場合

- 一 現形圖縮圖調製 五枚 一筆ニ付 一錢五厘
- 一 豫定圖百町歩以內 五枚 一枚ニ付 六圓

埼玉縣

縣ノ從來執リ來リタル方法ハ施行者ノ請求ニ應シ確定圖ノ調製ヲ補助スルノ外事務取扱上ノ書類形式等ヲ指導シ又ハ換地説明書ノ調査ヲ補助スルニ止マリシカ未タ複雜ナル事務ニ對シ不充分ナルヲ免レヌ依テ本年度以降ニ於テハ縣職員ヲシテ施行者ノ遂行スヘキ事務全體ニ付處理計畫ヲ豫定セシメ請求ヲ待タスシテ巡回指導ヲ行ハシメ尙將來出來得ル程度ニ於テ端歩丈量ノ補助ヲ爲シ施行者ノ手數ヲ輕減セムトス

整理施行者ハ從來工事施工ニノミ重キヲ置キ事務ヲ輕視セシ結果時日ノ經過ト共ニ土地所有權其ノ他ノ權利關係複雜ニ陥リ或ハ事務上複雜ナル手數ヲ要スルモノ等アルカ爲其ノ整理ヲ請負ニ付シ割合ニ

高價ナル費用ヲ支出シ或ハ放任シテ顧ミサリシ如キモノアリ是等ハ唯ニ地區ノ不利益ナルノミナラス新ニ經營セントスル地區ノ妨害トナリタル事實ナシトセス依テ縣ニ於テハ是等矯正ノ爲前項ノ如ク指導ニ兼テ督勵ヲ加ヘ來リタル結果漸次其ノ進捗ヲ呈スルニ至リ事業完了ヲ告クルモノ増加スルニ至ルヲ認ム其ノ成績ハ諮問第一項ニ添記セル成績表ノ如シ

群馬縣

工事完了後ニ於ケル事務ノ施行ニ付テハ縣當事者ノ監督ノ下ニ専ラ縣農會ニ設ケアル指導委員ノ指導ヲ待チ居ルモ指導委員ノ數甚タ少ナキヲ以テ一面縣ノ吏員ニヨリ之ヲ補ヒ今日ニ至ルト雖未タ充分ナリト云フ能ハス故ニ之カ方法ハ攻究中ニ屬セリ

千葉縣

事業完了後ニ付テハ成ルヘク速ニ換地交付、地價配當、登記等ノ事務ヲ了シ以テ事業完了ヲ計レリ依リテ耕地整理課ニ特ニ技手二名助手一名ヲシテ専ラ確定圖調製其ノ他事業完了ニ對シ各般ノ事務指導ヲ爲サシメツツアリ又整理施行者ハ事業完了ト共ニ整理事務ヲ水利組合ニ移サントスルコトヲ希望スルモノ多シ他ニ記載スヘキコトナシ

茨城縣

工事完了ノ組合若ハ施行地區ニ對シテハ整理後爲スヘキ各般ノ手續事務ニ付縣ハ先ツ地區内土地權利關係其ノ他ノ調査ニ付周密ニ注意ヲ加ヘ更ニ吏員ヲ派遣シテ確定圖竝關係圖面ノ調製ヲ始メ境界變更竝字名改稱ニ關スル件、従前ノ國有道路堤塘溝渠等廢止ニ因ル不用土地ノ交付竝之ニ代ルヘキ開設道路溝渠其ノ他ノ土地國有編入ノ件、地區ニ編入シタル國有林野地ノ組替若ハ拂下手續等ヨリ土地評定價額關係調査並換地精算換地説明書及地價配當案其ノ他換地處分上主要ナル書類一切ノ調製登記手續ニ至ル迄指示補導ヲ爲スノ例ナリ而シテ指導ノ方法順序ハ始ニ組合長若ハ施行當事者其ノ他事務ニ從事スル者ヲ集メテ施行順序方法ヲ説キ其ノ後ニ於テ數次之ヲ監視シテ遺漏ナカラシムルニアルモ施行者ノ多クハ當ニ前記ノ方法ニ依リ差支ナク進捗シ能ハス不審アル毎ニ休止シテ更ニ指導ヲ申請スルノ情態ニ在ルヲ以テ出來得ル限リ附キ切り指導ヲ爲スモノナキニアラスト雖事務員ニシテ手續ヲ完全ニ領得セサルモノアリ且吏員配置上之ヲ許ササル等アリテ豫期ノ進行ヲ見ルニ至ラサルハ常ニ遺憾トスル所ナリ爰ニ於テ昨年縣ニ於テ事務講習會ヲ開設シ毎ニ筑波眞壁ノ二郡ニ於テ整理地區事務員講習會ヲ開キ尙本年ヨリ適當ニ吏員ニ擔任セシメ便宜ノ箇所ニ數地區ヲ併セテ指導ニ膺ラシムルノ準備ニ出テツツアリ

施行者ニアリテハ多クハ擔當事務員ヲ設ケテ之ニ當リ縣吏員指導ノ下ニ從事スルハ比々概ネ然リトナ

ス而シテ僅ニ一、二ノ地區ニ於テ換地事務ヲ請負ニ附シタルモノアリト雖未タ其ノ成績ノ良否ヲ知ルニ由ナク從テ其ノ方法ノ得失ヲ斷スル能ハス惟フニ耕地整理ハ概ネ農村臨時ノ事業ナルヲ以テ此種ノ事務ニ渾熟セルハ容易ノコトニアラス依テ煩鎖タル工事完了後ノ事務進行ニ遲緩ノ状態アルハ今日ノ場合已ムヲ得サル所ニシテ冗費モ從テ多カルヘキニ依リ特別ノ事情アル向ニ在リテハ之ヲ請負ニ附スルヲ得策ナリト認ムルモ要ハ請負者ノ適否ト之ヲ監督スルノ方法如何ヲ講スルノ必要アルヘキヲ信ス今工事施行及完了後ニ於ケル手續指導ニ關スル豫定ノ順序方法ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、組合及施行地區ノ當務者ヲ各郡役所ニ參集シ左記事項ヲ豫メ調査スルコト

(イ) 工事施行方法及進捗ノ程度

(ロ) 設計又ハ地區變更必要ノ有無及有リトスレハ其ノ事由

(ハ) 工事及會計ニ關スル諸帳簿ノ整否

(ニ) 工事完了後ニ於ケル諸手續施行方法及進捗ノ程度

(ホ) 整理後ニ於ケル成績

二、前項調査ニ依リ特ニ指導又ハ督勵スヘキ事項及方法ヲ決定シ管内ヲ數區ニ分チ指導員二名以上ヲ以テ一分區ヲ擔當セシム

三、一分區中適當ノ地區ヲ選定シ最寄ノ地區當事者(各二名以上)ヲ參集シ諸般ノ手續ヲ實地練習セシメタル上夫々完成セシムルコト

四、毎年度替リ(八月又ハ九月)ニ於テ地區當事者ヲ各郡役所ニ參集シ年度中ニ施行スヘキ事業及諸般ノ手續事項ヲ豫定セシメ之カ遂行ノ順序及方法ヲ協定スルコト

五、事業完了ニ關スル事務ハ左ノ順序ニ依リ處理セシムルコト

(一) 工事竣成シタルモノハ其ノ組合事務員ヲ參集シ左記事項ニ付指導ノ上手續ヲ完成セシムルコト

(イ) 確定圖調製

(ロ) 必要アル場合ハ設計又ハ地區變更ニ關スル事項

(ハ) 村界字界ノ變更及改稱ニ關スル事項

(ニ) 國有地上地編入ニ關スル事項

(ホ) 換地處分ニ關スル事項

(ヘ) 地價配當案ニ關スル事項

(ト) 整理地登記ニ關スル事項

(チ) 事務引繼ニ關スル事項

(二) 工事中ノモノニアリテハ工事監督出張中ニ於テ左記方針ニ依リ竣工後ノ手續ヲ完成セシムルコト

(イ) 工事終了部分ニ對シテハ毎年部分確定圖ヲ調製シ工事完了ノ年ニ於テ確定全圖ヲ完成スル

コト

(ロ) 實施中設計變更ノ必要生シタル場合ハ其ノ都度變更ニ關スル手續ヲ爲スコト

(ハ) 工事完了ト共ニ以上ノ事務ヲ了シタルトキハ整理後事務ニ關スル擔任者之ニ代リ第一項ノ順序ニ依リ凡テノ手續ヲ了スルコト

栃木縣

一、縣ニ於テ執レル方法

本縣ノ工事完了後ニ於ケル事務ノ施行ニ付テハ明治四十二年以來縣ニ耕地整理書記ヲ常置シ目下書記六名及屬技手各一名ヲ置キ事務ノ指導監督ヲ爲サシムル爲ニ其ノ事務ハ敏速ニ進捗シツツアリ既ニ換地處分認可シタルモノ八十四地區其ノ面積二千四百三十三町六反歩ニシテ地區經費ノ如キモ之カ爲大ニ輕減セラレ斯業獎勵上其ノ效果甚大ナルモノアルヲ認ム

二、施行者ノ執レル方法

現ニ執行者ノ工事完了後ニ於ケル事務ノ施行ニ付特別ノ方法ヲ執レルモノアルヲ見スト雖稀ニ完了事務ヲ請負業者ニ委託處理セシムルモノアルモ請負業者ニ於テ斯業ニ關スル事務ノ複雑ナルニ加ヘ且經驗智識ノ伴ハサルモノアリ爲ニ之ヲ處理シタル結果ハ杜撰ニシテ誤謬多ク容易ニ結了ヲ見ル能ハス甚シキハ數年ニ涉リ尙結末ヲ告ケサルモノアリ故ニ現在ニ於テハ請負業者ニ完了事務ヲ委託ス

ルコトハ施行者ニ於テ利益ノ方法トハ認ムル能ハサルモ將來請負業者ニ於テ業務ニ熟練シ且正實ニ之ヲ處理スルヲ得ルニ於テハ必スシモ否認スヘキ方法ニアラスト認ム

奈良縣

本縣ニ於ケル整理施行後ノ事務指導ハ大正元年度ヨリ始マリタルヲ以テ未タ特筆スヘキモノナシト雖從來多クハ縣技術員ニヨリテ書類及圖面ノ全部ヲ作成シツツアリシモ近時工事完了地區ノ増加ニ伴ヒ到底整理シ盡シ難キヲ以テ縣ハ單ニ指導ヲナスニ止メ組合ニ於テ施行シツツアリ然トモ組合ノ役員カ自ラ進ミテ本事業ニ従事スルモノナク多クハ請負トスルカ又ハ書記ヲ雇入ツツアリ現在ニアリテハ請負ニ付スルモノハ地區ノ狀況ニヨリ差違アリト雖整理前後ノ地區内筆數ヲ平均シ一筆ニ對シ五十錢乃至六十錢宛ノ費用ヲ必要ルカ如シ日給ノ書記ハ普通五十錢乃至八十錢ニシテ從來ノ例ニ依ルトキハ請負ニ比シ多額ノ費用ヲ要スルカ如シ

其ノ得失ヲ論スレハ前述ノ如ク日給ハ經費多クヲ要シ請負ハ或ル場合ニ於テハ事務ノ經驗淺キ整理施行者ヲ欺キ請負金ヲ取出シテ事務ヲ拋棄スルカ如キモノナキニアラス互ニ一失一得アルカ如シ故ニ理想的ニ行ハルル方法トシテハ各地區ヨリ適當ナル事務員ヲ撰シ數ヶ組合ノ事務ヲ一ヶ所ニ集メ縣ノ指導者之ニ臨ミ誘掖監督ヲナスヲ得策ナリト認メ將來此ノ方法ヲ採ラントス

三重縣

工事完了後ニ於ケル事務施行ニ付當廳ノ執レル方法ハ從來換地説明書地價配當案整理確定圖ノ作製ハ勿論進テ登記申請書ノ調製ノ補助ヲモ爲シツツアリ整理施行者ニアリテハ専門ノ事務員ヲ雇入ルルカ又ハ稀ニハ書類調製ヲ請負ニ托スルモノアリ其ノ經費比較的大ナルヲ以テ困難ヲ感スルノ狀況ナリト雖是等ノ事務ヲ全部當廳ニ於テ取扱フコトハ到底經費ノ許ササル所ナルヲ以テ止ムヲ得ス指導ニ止ムルコトトナセリ

愛知縣

一、工事完了後ニ於ケル事務ノ施行ニ付執レル方法

(一) 工事完了後ニ於ケル事務ニ付縣ニ於テハ或ハ地方ノ申請ニ依リ或ハ自動的ニ指導ヲ爲シツツアリ而シテ其ノ指導ヲ爲ス事務ノ範圍ハ換地交付及之ニ伴フ一切ノ事務、地價配賦、換地ノ登記等ニシテ各事務ニ對シ調査ノ方法、款問ニ屬スル事項ノ指示ニ止ムル程度ナリトス

(二) 工事完了後ノ事務ニ付整理施行者ニ於テハ比較的面積ノ多キ個所ハ事務員ヲ常設シ之ヲ施行スルモ面積ノ小ナル個所ハ大概役員ニ於テ農閑場合事務ニ従事スルヲ以テ自ラ其ノ遲滞ヲ免レス故ニ近時ハ相當ノ給料ヲ支出シ事務員ヲ雇入レ施行スルモノ多キヲ加フルノ狀況ト爲ルニ至レリ

二、工事完了後ニ於ケル事務施行ニ付執レル方法ノ得失

(一) 工事完了後ニ於ケル事務ノ施行ニ付現在縣ハ郡ト協力適當ニ其ノ進捗ヲ圖リツツアルモ尙一層事務施行ヲ進捗セシムトスルニハ左ノ方法ヲ執ルヲ適當ト認メラル

(一) 工事完了後ノ事務ニ關スル講習會ヲ開キ整理施行者ニ其ノ智識ヲ普及セシムルコト

(二) 縣ハ郡ニ經費ヲ補助シ事務員ヲ設置セシメ工事完了後ノ事務ヲ助成セシメタキコト

(三) 地方廳ニ於テ希望者ニ或ル期間事務ノ練習ヲ爲サシメ施行者ノ希望ニ依リ之ヲ各地區ニ配置スルコト但シ費用ハ地區ノ負擔トス

(二) 役員カ農閑ノ場合其ノ事務ニ従事スルハ管ニ事務ノ澁滞ヲ來スノミナラス却テ不經濟ナル弊害アルヲ以テ工事完了後ノ事務進捗上左ノ方法ヲ執ルヲ適當ト認ム

(一) 一定ノ計畫ヲ立テ之ニ依リ事務ヲ施行スルコト

(二) 事務員ハ相當ノ給料ヲ支拂ヒ事務ニ技術アル者ヲ雇入ルルコト

静岡縣

事業大ナル地區ニアリテハ概シテ專任ノ事務員ヲ雇聘シ役員監督ノ下ニ事務ニ従事セシムルヲ以テ迅速確實ニ事務ノ進捗ヲ圖リ得ヘシト雖小地區ニアリテハ經費ノ關係上事務員ヲ僱聘シ能ハサルモノ多ク主トシテ熟練セサル役員之ニ執掌スルヲ以テ大地區ニ比シ事務簡單ナルニ係ラス遷延スルノ傾向アル憾ナシセトスサレハ縣ハ是カタメ特ニ規定ハ設ケサルモ毎ニ各地區事業ノ進捗程度ヲ調査シ事業完

了ニ至ル迄ハ地區ノ申出ヲ俟タス時日ヲ空費セシメサル様時々事務擔任吏員ヲ派遣シテ書類ノ作製及手續ノ順序等ノ指導ヲナサシメ殊ニ換地處分ヨリ登記完了ニ至ル迄ノ事務履行期間ノ短縮ニ努メツツアリサレト限リアル吏員ヲ以テ應務ニ從事ノ傍ラ之ニ當ラシムルモノナルヲ以テ事務指導專務ノ吏員ヲ特設セルノ敏速周到ナルニ及ハサル勿論ナリト雖豫算ニ制限セラレツツアル目今ノ狀況又止ムル得サルト謂フヘキカ

山 梨 縣

工事完了後ニ於ケル事務施行ニ付縣ハ平易ニ其ノ手續ノ記述シタルモノヲ示シ且吏員ヲ派遣シテ懇篤ニ之カ指導ヲナサシメ又整理確定圖ノ如キ作成ノ容易ナラサルモノハ之ヲ縣ニ於テ調製交付シ以テ其ノ手續ノ施行ニ便セリ而シテ整理施行者ノ執レル方法ハ左ノ二トス

甲、整理施行者又ハ事務員ニ依リ之ヲ施行スルモノ

乙、請負ニ爲シ之ヲ施行スルモノ

後法ニ依ルモノハ市町村大字及字ノ境界變更ヨリ登記ヲ了スル迄ノ手續ニ對シ期間ヲ定メ整理地區舊土地ノ狀態及地區ノ大小ヲ斟酌シ工事後ノ民有土地一反歩ニ付二十五錢乃至五十錢ノ範圍ヲ以テ請負ハシムルモノナリ而シテ前法ノ場合ニ於テ役員最モ熱誠事ニ當リ義務的ニ之ヲ施行スルモノノ外ハ事務遷延セルノミナラス經費嵩ムノ嫌アリ後法ニ於テ請負者ノ選定ヲ誤ラサルトキハ事務進捗シテ其ノ

費用却テ廉ナルカ爲近時之ニ依レルモノ多ク未タ其ノ不利ヲ發見セス

滋 賀 縣

本縣ニ於テハ事務ニ從事スヘキモノ二名ヲ置キテ指導セシメ夫々施行者ヲシテ工事完了後ニ於ケル事務ヲ施行セシム

岐 阜 縣

本縣ニ於テハ關係吏員ヲシテ實地指導ヲ行ハシム而シテ此ノ方法ヲ以テ最モ完全ニシテ且安全ニ而カモ工事完了後ニ於ケル事務ヲ迅速ニ終了セシムル良法ナルヘキヲ信ス然トモ經費ノ關係上當該吏員ノ數ニ限アリテ普ク理想通り指導セシメ得サルヲ遺憾トス

敍上ノ外代理業者ヲシテ處理セシメ若ハ經驗アル人物ヲ備入レ處理セシメ或ハ當事者ヲ招集シテ講習ヲ行ヒ所要ノ智識ヲ授クル等ノ方法無キニアラスト雖第一ノ如キハ斯種ノ營業者少ク從テ報價ノ廉ナラサルノミナラス危險ノ伴フアリ、第二ハ適當ノ人物ヲ得難キノ困難アリ、第三ハ稍々良法ニ近キモ一地區毎ニ當事者ヲ異ニシ行クヲ以テ新タナル起業者ノ爲ニハ更ニ又講習ヲ行ハサルヘカラス假リニ年々講習ヲ行フトスルモ單ニ一回ノ講習ニ依リ得タル智識ヲ以テ一切ノ事務ヲ處辨スルヲ望ムヲ得サル等(指導ニ際シ幾分手數ヲ省キ得ルノ効果ハアルヘシ)何レモ缺點無キヲ得ス

工中完了後ノ事務ニ關シテハ整理施行者ノ最モ困難ヲ感スル所ニシテ工事完了ヲ以テ耕地整理事業ノ完了ト思料シ容易ニ之カ完結ヲ圖ルモノナシ

此農家ノ文筆ニ疎ナルト又換地説明書其ノ他工事完了後ノ書類作製ノ甚タ繁雜ナルノ至ス所以ナリトス既ニ換地處分其ノ他工事完了後ノ諸手續ヲ完了セル地區三十三ヶ所中組合又ハ地區役員ニ於テ書類ヲ作製セルモノハ其ノ一部ニ過キスシテ其ノ大部ハ代書ヲ業トセル者等ニ依頼シ多額ノ對價ヲ支辨シ辛シテ事務ノ遂行ヲ圖ルノ狀況ナリ然トモ本縣ノ如キ一地區平均總面積十數町歩ニ過キサルモノニアリテハ特ニ專務ノ書記ヲ雇傭スルノ資力ナキヲ以テ斯業獎勵上工事完了後ノ事務指導ニ對シテハ相當考ノ慮ヲ費スノ必要アリ

地區ノ現況如斯ナルヲ以テ縣ニ於テハ客年四月耕地整理組合地區役員等ヲ招集シ耕地整理事務講習會ヲ開催シ縣耕地整理主任及工事完了後ノ事務ニ關係アル地方裁判所登記主任並稅務監督局土地主任ヲ講師トシテ各其ノ手續ノ指導ヲナサシメ又北安曇、下水内兩郡ニテハ之ニ倣ヒ區裁判所稅務署及縣廳ノ各關係主任官ヲ聘シ工事完了後ノ事務講習ヲ開キテ指導ノ策ヲ講セリ又同年末ニ於テ農閑ト且事務閑散ノ時期ヲ利用シ農業技手ヲ五班ニ分チ先ツ第一ニ舊法ニ依リ施行認可ヲ得タルモノノ内工事完了後ノ諸手續ヲ怠レルモノ二十六地區ニ向テ實地指導ヲナサシメ書類ハ可成地區役員ヲシテ作製セシメ

役員ニ於テ施行シ能ハサルモノハ便宜筆工ヲ雇傭セシメ尙其ノ人ヲ得サル場合ニ限り縣ニ於テ直接書類ノ作製ヲ施行スルコトトシ事務指導ヲナセルニ其ノ成績良好ニシテ既ニ換地處分ノ認可ヲ得タルモノ五地區之カ手續施行中ノモノ十五地區ヲ算スルノ盛況ナリ如斯一面舊法地區ノ指導ヲナスト同時ニ新法ニヨリ認可ヲ得タルモノニシテ工事完了セルモノニ對シテハ各郡長ニ向テ極力事務ノ速成ヲ圖ル可キ様通牒ヲ發シ兩々相俟テ之カ速成ヲ圖ルコトトセリ

耕地整理發起當時ニ於テ縣ハ測量設計ヨリ組合設立又ハ施行認可申請ニ關スル諸手續ニ到ルマテ最モ懇切ニ施行スルヲ以テ事業着手ハ比較的容易ニ施行セラルルモ工事完了後ニ於テハ事務指導當初ノ如クナル能ハサル現狀ナルヲ以テ聊カ龍頭蛇尾ノ嫌ナキハ能ハス然トモ縣ニ於ケル經費節減ノ結果耕地整理獎勵ニ關スル設備ハ常ニ縮少セラルルニ反シ新事業ハ漸次勃興スルヲ以テ不得止此ノ現狀ニ甘セザルヘカラサル狀態ナリ

而シテ此等ノ優劣ヲ判スルニ縣吏員ヲ派シテ施行セシメタルモノハ各事務ニ精通セル結果最モ完全ナルモ地區役員ニ於テ作製セルモノ及代書人ヲシテ作製セシメタルモノハ概シテ事務疎ナル結果不完全ナルヲ免レス然トモ經費ノ關係上全部縣ニ於テ施行スルノ困難ナルモノニアリテハ努メテ各地區ニ書記ヲ備入セシメ又ハ筆工ノ講負ニ附シ一面縣吏員ノ實地指導ニ依リ事務ノ速成ヲ圖ルコトトスルカ便ナルヘシ

宮城縣

縣下ノ耕地整理ハ去ル明治三十六年以降大ニ勃興シタルモノニシテ現下別表ノ通り地區數三四三ヲ算シ内換地處分認可済ノモノ一九二アリ之レ縣ニ於テ時々事務指導ヲ爲シタル結果ニ外ナラス從來整理施行者ノ執レル方法トシテハ地區ノ役員ノ多クハ事務ノ觀念ニ乏シク實際事務ヲ執掌スル者尠ナク此等事務ニ經驗アル者ニ委託シ處辨セシメツツアルハ一般ノ事實ニシテ寧ローノ風ヲ爲セル觀ヲ呈セリ而シテ受托者中果シテ其ノ任ヲ盡シ得ヘキ伎倆ヲ有スル者アリヤ否ヤ甚ダ疑ハシキモノアリ故ニ事業遲々トシテ進捗セス荏苒十年以上ヲ經過スルモノアリ輒近又郡内ノ耕地整理ヲ郡役所々在地ニ集メ直接監督ノ下ニ事業完了ヲ計リタルモノアルハ之レ事務ノ進捗ニ於テ頗ル見ルヘキモノアリト雖其ノ内容ハ一種請負ノ感アリ從テ換地清算等公平ヲ欠クモノナキヤ否ヤ疑ハシキモノアリ以上要スルニ事務ノ請負ハ事業整理上頗ル不利ナルモノアルヲ以テ縣内ヲ左ノ五區ニ分テ

- 第一區 伊具、刈田、柴田ノ三郡
- 第二區 亘理、名取、宮城ノ三郡
- 第三區 志田、遠田、玉造、加美ノ四郡
- 第四區 栗原ノ一郡
- 第五區 登米、本吉ノ二郡

以上各區内其ノ最古キ即明治三十六年舊耕地整理法ニヨリ施行シタル而モ復雜セル地區ノ事業完了ヲ計ルヘキ其ノ方法トシテハ技術者及事務員若干ヲ適宜各區ニ駐在セシメ專ラ實地事務ノ指導ニ當ラシメ本廳ニハ更ニ各區主任ヲ置キ隨時監督指導シ本年度(大正三年度)ハ五千町歩ノ事業完了ヲ告クヘク豫算ヲ計上シ只管縣下一般ノ完成ヲ計畫シ夫々實施中ナリ

換地處分未済郡別表 大正三年五月末日現在

郡市別	換地處分認可済		換地處分未済		計	
	地區數	面積	地區數	面積	地區數	面積
仙臺	一	三,五九二七	一	八〇八四一六	一	二二,九五二七
刈田	二	一,九六六二	三	二六,七三三	五	二七,五〇二七
柴田	五	三,六七〇六	一	九七,一七五〇	六	三九,三四七三
伊具	一〇	一,八六,二六〇	一六	九七,一七五〇	二六	二二,五〇二四
亘理	三	四〇,八四八三	七	一,〇三,四八三	一〇	一,四三,三三〇
名取	三〇	二〇,三,〇九六	一三	一,七六,一七五〇	四三	三,七九,八四一六
宮城	三	二〇,五〇四二	二	一,六四,四四一七	五	三,六九,四九〇八
黒川	一一	五〇,三七四九	七	五〇,四六七〇	一八	一〇〇,八四二九
加美	五	一,一六,四二五三	一五	八四,三七五〇	二〇	二〇〇,八〇一〇
美田	三〇	四,一四,〇三六	二二	四六,四七七〇	四二	八,七,一七五〇
造田	二	一,一三,一八二	七	四七,三四五〇	九	五八,六三三〇

福島縣

遠原	栗原	登米	桃生	牡鹿	本吉	計
二八	三四	四	八	四	二	一九二
四、四六九〇六二〇	一、六三一八六一一	二〇三、二九一五	六五、二九二六	三六、五二七八	四五、六六二七	一七、七八〇四七〇一
八	二四	二	二	一	二	一五二
二、九三〇、五〇四	一、一〇五、〇七四	二、八〇〇、二九四	三〇、六四一四	九、四八二五	二七〇、七八〇八	一八、二七九二四
三六	五八	二六	一〇	五	一三	三三三
七、三九九、五七四	二、八三六、九三五	三、〇〇三、五〇九	九、五七七一〇	四、九九九二	三、六四四三五	三五、八九八、三八五

五四二

本縣ノ執レル方法ハ農閑ノ時期ニ於テ出來得ル限リ數地區ヲシテ一ノ聯合事務所ヲ設置セシメ而シテ各地區ノ役員又ハ事務員ヲ執務セシメ地區ヨリ事務指導ノ請求アリタルトキ又ハ其ノ必要アリト認めタル場合ハ數十日又ハ數ヶ月書記ヲ派遣シテ指導セシメ以テ諸般ノ事務完結ニ努ム又聯合事務所ヲ設置シ能ハサル地區ニ對シテハ隨時迂回指導ヲ加フルモ適當ノ執務者ナキ地區ニ於テハ事務ニ堪能ナル者ニ請負ハシメ以テ整理完備ヲ圖ルモノモ亦多數アリ

要スルニ其ノ得失ニ至リテハ勿論地區ノ役員又ハ事務員ヲシテ執務完結セシムルヲ得策ナリト雖請負者ニアリテハ早キモ數ヶ月遅キハ數ヶ年ノ時日ヲ要シ殊ニ地區ノ地理歴史等ノ内情ニ迂遠ナル爲往々作製書類ニ欠點ヲ認め故ニ各地區役員、事務員等ニ耕地整理ニ關スル智識ヲ啓發シ以テ地區自ラ施行セシムルヲ良策ト認ム

岩手縣

(イ) 地方廳ニ於テ執レル方法及得失

本縣ニ於テハ明治四十年十一月縣農會ヲシテ一ヶ月間事務員養成ノ目的ヲ以テ講習會ヲ開キ講習修了者四十七名ヲ出シ各地區ニ事務員トシテ之ヲ採用セシメタリシニ成績大ニ揚リタルヲ以テ大正元年七月各郡技手主任郡書記並各他區事務擔當者ヲ召集講習セシメシニ其ノ成績頗ル良好ナリ最モ縣當事者ハ時ニ出張指導監督ハ勿論ナリ

(ロ) 整理施行者ノ執レル方法及其ノ得失

施行者ノ一般ハ完了後ノ事務施行トシテハ左ノ三種ナリトス

- 一 (イ) 號記載ノ講習修了者ヲ事務員ニ採用執務セシム
- 二 講習修了者ニ換地交附地價配當登記申請等ノ如キ普通役員ニ於テ處理困難ナルモノヲ請負的ニ執務セシムルモノ
- 三 役員ニ於テ全然處理スルモノ

以上三種ノ内第三號ハ一見可ナルカ如シト雖詳細之ヲ調査スルニ徒ニ時日ト經費トヲ要スルノミナラス成績不良ナルヲ以テ適當ナル方法ナラス第一、二ノ兩號ハ本縣トシテ適當ナル方法ト認ム

青森縣

五四三

(一) 工事完了後ニ於ケル事務施行方法

工事完了シタル地區ニハ縣ヨリ技術員ヲ派遣シ確定圖、換地説明書、地價配當案、字界變更等ノ圖書ヲ調製シテ施行者ニ下付スル方法ヲ採レリ而シテ尙事務指導ヲ爲シ施行者ハ下付セラレタル圖面及書類ニ依リ總會ノ決議ヲ經ルニ止マレリ

(二) 得失

縣ノ事務ヲ多クシ事業發展ノ障害トナルト雖施行者ノ堪フヘキ事務ニアラサルヲ以テ右ノ方法ハ本縣ニ適當ナルモノナリ

山形縣

本縣ニ於テハ當業者ノ申請ニ應シ又ハ廳內事務ノ繁閑ヲ見計ヒ隨時指導ヲナシ整理施行者中大地區ニ在リテハ常時事務員ヲ置キ小地區ニ在リテハ組合又ハ施行地區ノ役員農閑ノ時期ニ於テ事務ヲ處理シツツアリ大體ニ於テ不都合ヲ見サルモ縣ニ於テハ經費ノ許ス範圍ニ於テ事務指導員ヲ増加シ進ンテ事務ノ指導ヲ行フニ於テハ地方事務ノ滯滞ヲ防キ得ヘキモノト信ス

秋田縣

工事完了後ニ於ケル事務ヲ如何セハ迅速ニ完了セシメ得ルヤ否ヤノ問題ニ對シ未タ充分ナル解決方法

ヲ見ルニ至ラサルハ甚タ遺憾ナリ畢竟其ノ由來スル原因カ幾多錯綜スル所アルヲ以テ之ヲ詳解實行スルノ困難ナルニ基クニ非ルカ然トモ之カ一般的ニ共通シタル主因トモ謂フヘキモノヲ討尋シ之ニ對シ適當ノ方法ヲ講スルノ徒爾ナラサルヲ信スルヲ以テ左ニ大要三四ヲ舉示スヘシ將又此ハ一面整理施行者ノ執レル方法トモ見做スコトヲ得ヘシ

一、法規手續ノ複雜多端ナル爲低級ナル普通農民ノ手ニ之ヲ委スルハ其ノ負擔カ過重ナルカ如シ
二、各地區ニ於ケル事務員ノ多クハ種々ノ事情ノ爲責任ヲ重セス法規手續等ノ研究勵行ノ誠意乏シク
兎角事務ヲ等閑ニ附スルノ嫌アリ

三、組合長組合副長其ノ他ノ役員ノ如キモ一層熱誠盡力ナランコトヲ要ス
四、事務員ノ採用ハ組合ノ役員若ハ其ノ郷閭ノ農民ナルヲ以テ之ヲ監督スヘキ組合役員ノ首腦者モ情實ニ驅ラレ嚴密周到ナル監督ヲ加フルコト能ハサルカ如シ

五、比較的公平ニ假配當ヲ了シタル以後ニ於テハ土地所有者ハ本配當ヲ行ヒタルモノト思惟シ之ヨリ生スル利害ノ影響ハ土地所有者ニ取リテハ多大ノ痛痒ヲ感セサルヲ以テ換地處分ノ未完完ハ自然意ニ介セサルカ如シ隨テ其ノ間ニ於ケル土地賣買異動行ハルルト雖之カ拾收整理ハ單リ換地説明書調製ノ際ニ於テ困難ヲ見ルノミナルカ故若換地處分ノ完結ニ對シ之ヲ督勵シ刺戟スルモノナキ限リハ惰性ノ久シキ依然閑却スルヲ免レス

以上列記ノ事項ニツキ縣ニ於テ執リツツアル方法及執ラントスル方法ハ左ノ如シ

一、事務ノ連絡統一

換地處分ニ關聯シタル事項中或ハ庶務課或ハ土木課ト夫々主管ヲ異ニシ分岐シアル爲其ノ連絡統一ヲ缺ク虞アルヲ以テ是等ノ事務ヲ悉ク一途ニ處理スルハ手續ノ簡捷統一ヲ圖ル上ニ於テ必要ト認ムルヲ以テ可成之ヲ實現セントス

二、講習及講話

直接事業ニ從事スル當業者ニ對シ工事完了後ニ於ケル各般ノ手續ヲ速ニ終了セシムル必要ト之ヲ等閑ニ附シテ遲延スルノ不利益トヲ會得了解セシムルカ爲時々講習及講話會ヲ開催シテ講授セリ

三、印刷物

換地交付、地價配當、登記ニ關スル手續上ニ就キ其ノ指針タルヘキモノヲ印刷シテ之ヲ配付スルノ見込ヲ以テ目下草案中ナリ而シテ地價配當ノ如キハ各稅務署ノ主宰ニ屬スルカ故ニ往々其ノ取扱方統一ヲ欠キ見解ヲ異ニシ當業者ノ迷惑不尠カ爲監督局モ茲ニ見ル處アリ之ヲ一定ニ律スル準則ヲ各稅務署及縣ニ通知センカ爲同局ニ於テモ目下披調中ナルヤニ聞ク之カ實行ノ早カラシムコトヲ要ス

四、研究會

本年六月管内耕地整理地區ノ發起人整理委員ハ組合役員、事務員並各郡ノ耕地整理事務ニ從事スル勤業吏員ヲ一堂ニ會シ會則ヲ設ケ斯業ニ關スル意見又ハ知識ノ交換意思ノ疏通脈絡ヲ許リ同時ニ注意事項ヲ指示シ諮問事項ヲ附議シテ當業者ヲ指導誘掖シタリ斯ノ如キ會合益々發展シテ毎年ノ開催

ハ必要ト認ム

五、專任書記

事務上ノ指導誘掖ハ單ニ講習、研究等ノ開催ニテハ充分効果ヲ奏シ難キヲ以テ直接當該地區ニツキ實務ノ上ヨリ指導誘掖ノ要アルヲ以テ本年度ニ於テハ特ニ專任書記二名ヲ増加シタリ而シテ是等ノ書記ハ同一ヶ所ニ滞在ノ上周到懇切ナル指導援助ヲ與ヘテ事務ノ促進ニ努メツツアリ尙其ノ功程ハ一ヶ年ヲ通シテ三百町步（一地區五十町步ニテ六地區ノ見込）ノ換地處分ノ認可ヲ告クル豫定ニシテ尙擴張ノ見込ナリ

今本縣ノ換地處分ノ認可未済面積一萬六千町步（八四地區）アルヲ以テ該功程ヲ以テ將來ヲ推ストキハ實ニ前途遼遠ノ感ナキニアラス今之ヲ一氣呵成ニ完了セントセハ一面土地所有者ノ覺醒ヲ促スト同時ニ多數ノ書記ヲ増員シテ官民一致ノ協力奮勵ニ俟タサルヘカラサルモ是等ハ縣財產ノ關係並地區ノ事情等ニ依リ實現シ能ハサルモ漸次此ノ方針ヲ以テ進マントス

要之縣ニ於テ執レル方法ハ以上ノ如クニシテ或ハ相當ナル技術智識經驗ヲ有スル者ニ之ヲ請負ハシメ事務ノ完了ヲ計ルカ一法タラサルヲ得ヌ又一部内ニ於テ各組合ヲ聯合シ其ノ下ニ相當ナル事務員技術員ヲ置キテ之ニ當ラシムルカ如キハ管ニ冗費ヲ省クノミナラス其ノ完結ヲ速カナラシムル効果アルヲ信スルモ目下攻究中ナリ

耕地整理事業中工事完了セルモノ少ナキ當時ニ於テハ縣ニ於テ施設セル事項ナク一ニ整理施行者ハ特ニ書記ヲ雇フテ事務ヲ執行セシメ或ハ整理施行者ハ換地其ノ他ノ重要事項ヲ定メ之ヲ筆耕者ニ委ネ必要ナル書類ノ作成ニ對シ一定ノ金額ヲ定メテ之ヲ執行セシメタルモノアリト雖事務ノ整理完全タルヲ期シ難カリキ之ヲ以テ工事完了セルモノニ對シテハ速ニ之カ完結ヲ圖ラントシテ整理施行者ニ對シ設計變更確定測量ノ助成ハ勿論土地評定換地配當其ノ他ノ方法ニ關シ事業指導ヲ與ヘ以テ整理施行者ニ草案セシメ著々事業ノ完了ヲ計ラシメタリシカ事務完結上幾多ノ時日ヲ要シ其ノ間土地所有權ノ賣買讓與ニヨル異動ヲ生シ更ニ換地配當其ノ他ノ事項ニ變更手續ヲ經サルヘカラサルニ至ル等蓋シ容易ノ業ニアラス凡ソ耕地整理事業完了後ニ於ケル事務施行ニ要スル確定圖ノ作製ニハ相當技術ヲ又整理施行後ノ土地評定ニ付テハ農業上ノ技能ヲ要スルハ勿論其ノ他換地交付地價配當及登記申請等ニ關シテハ法規ノ素養ヲ要スルヲ以テ整理施行者ノ之ヲ完結セシムルニ困難ヲ感スルハ同情ニ堪ヘサル所ナリトス本縣之ニ鑑ミ晚近整理事業ノ進捗ニ伴ヒ工事ノ完了セントセルモノ漸ク増加セルヲ以テ大正三年度ヨリ工事完了地區ニ對シテハ積極的ニ確定圖ノ助成其ノ他ニ關シ指導完結セシメンカ爲テ農業技手一名ヲ置キ専ラ之カ完結ニ努メツツアリト雖往々整理施行者中換地交付ニ關シ紛議ヲ生スルモノアリ爲ニ事務完了ニ至ラサルハ頗ル遺憾ナルヲ以テ整理計畫ノ當初ニ於テ豫メ換地配當ヲモ加ヘ計畫スヘキハ本事業完了ヲ速進セシムヘキ方法ナリト認ム

石川縣

石川縣ニ在リテハ既ニ工事ノ完了セシモノ一萬二千町歩以上ニ達セシモ整理施行者ハ工事完了後換地ノ假交付ヲ爲シタル儘數年ヲ經過シ之カ完了ノ手續ヲ爲スモノ甚タ稀ナルヲ以テ爾來縣ハ各郡ニ於テ講習會ヲ開キ其ノ手續ヲ指示シ或ハ吏員ヲ派遣シテ指導ヲ爲サシムル等督勵ヲ怠ラサルモ當事者自ラ之ニ從事スルモノナク偶々調筆受負者ノ如キモノニ託スルモノアルモ之等ノ者事ニ慣レス徒ニ日數ト多額ノ費用ヲ要スルモノミニシテ而モ書類不完全面積不確實ナル爲容易ニ認可ヲ與フ可カラサル狀況ナルヲ以テ縣ハ大正二年度ニ於テ特ニ專任技手一人書記二人ヲ置キ先ツ確定丈量ヲ爲シ以テ確定圖ヲ作製シ且整理施行ニ伴ヒ町村字ノ境界變更ヲ要スルヘキモノアラハ之ヲ調査シ之ニ關スル圖面並書類ヲ作り尙當事者中筆算ノ能アルモノヲ撰定シテ事務ヲ擔當セシメ之ヲ指揮監督シテ換地説明書、地價配賦案ヲ作ラシメ以テ整理地ノ登記、事業完了迄指導シタルニ其ノ成績甚タ良好ナリシヲ以テ大正三年度ニ於テハ更ニ書記八人ヲシテ之ニ當ラシメツツアリ以上ノ設備ヲ以テ本年度ニ於テ一千四百町歩ノ完了事務ヲ終結スル豫定ナリ

富山縣

工事完了後ニ於ケル事務即チ換地配當、地價配賦等ヲ迅速ニ終了セシメ以テ土地所有權ヲ確定シ納租

上ノ根元ヲ鞏固ナラシムルハ最モ必要事ニ屬スルヲ以テ縣ニ於テハ絶ヘス督勵ヲ怠ラサルモ其ノ手續等複雑ノ爲自然放漫ニ流レ好良ニ施行スルモノ尠ナシ故ニ工事完了後地味ノ固定スルヲ俟テ縣ハ吏員ヲ派シ是等ノ事務施行ヲ獎勵指導シツツアルト同時ニ債務未済ノ地區ニアリテハ整理後得タル利收ニ依リ可及的速ニ償還ノ途ヲ講セシメツツアリ

鳥 取 縣

本縣ニ於テハ工事完了後ノ地區ニツキ假換地交付、換地交付、確定圖調製、地價配賦其ノ他事務指導ノタメ必要ニ應シ吏員ヲ派シテ指導セシム就中假換地交付ハ殆ト吏員ノ手ニテ行フ位ニ懇切ニ指導セ

然トモ以上ノ指導ノ程度ニテハ整理施行者ヲ満足セシメサルコト勿論ナルモ現在縣ノ設備ヲ以テシテハ此ノ以上ノ指導ヲ行フコト困難ナリ

次ニ整理施行者ノ執レル方法トシテハ

- 一、事務員ヲ督シテ事務ノ進行ヲ圖ルモノ
- 一、熟練ナル事務員ヲ特ニ雇入レテ從事セシムルモノ
- 一、熟練ナル事務員ニ工事完了後ノ一切ノ事務ヲ受負ハシムルモノ等アリテ整理施行者ノ經費節約上其ノ他一切ノ點ヨリ觀察シテ請負ノ方法ハ良法ト信スルモ熟練ナル事務員ノ乏シキヲ遺憾トス

島 根 縣

本項前段ニ關シテハ左ノ各項ノ方法ヲ執レリ

- (一) 縣ヨリ事務員ヲ派遣シテ實地ノ指導ヲナス
- (二) 島應郡役所及同農會職員ニ於テ指導ヲナス
- (三) 町村役場員又ハ村農會專任職員ニ於テ書類作成ノ補助ヲ爲シ又ハ全部作製ス
- (四) 鳥郡、同農會主催町村役場、町村農會職員及當事者事務講習會ニ縣ヨリ講師ヲ派遣シテ事務上ノ講習ヲナス

(五) 鳥應郡役所ニ於テ當事者ノ協議會ヲ開催スル場合ハ縣ヨリ事務員ヲ派遣シテ事務上ノ指導ヲナス

整理施行者ノ執レル方法ハ地區ニヨリ特ニ事務ニ熟達セル者ヲ雇入ルルモノアルモ多クハ役員ニ於テ事務ヲ處理ス

以上ノ方法ニ依リ從來ノ成績ハ比較的良好ナリ然トモ更ニ經費ノ許ス限リ縣ヨリ充分ノ指導ヲ加フルハ最モ必要ナリト信ス

岡 山 縣

整理事業完了後ニ於ケル事務ノ施行ハ今尙初步ニ屬スト雖事務施行ノ當否ハ重ニ整理施行者ノ利害ニ影響スルヲ以テ最モ慎重ニ處理ヲ要スト同時ニ其ノ處理ニシテ多年ニ亘リ在苒決セサルカ如キハ獨リ各參加土地所有者ノ貴重ナル所有權ヲシテ危殆ノ状態ニ陥ラシムルノ虞ナシトセス其ノ間種々ノ事故續發シ爲ニ一層事務施行上ニ支障ヲ來タセルハ既往ノ實驗ニ徴シ明ナルヲ以テ縣ニ在テハ工事完了後ハ可及的敏活ニ事務ノ施行ヲ爲サシムルノ方針ヲ執リ以テ銳意之カ進捗ニ努ムルモノニシテ其ノ執レル方法トシテハ大要左ノ如シ

(一) 縣ニ在リテハ專務吏員一名ヲ置テ事務施行ノ普及ヲ圖ルト同時ニ其ノ施行ヲシテ適當ナラシムルコトニ留意シ細心指導ノ任ニ當ラシメ之カ發展ヲ促進スルノ方法ヲ執リ猶專務吏員ノ外ニ庶務ニ従事セル吏員ヲシテ補助セシメ以テ遺算ナキヲ期シタリ

(二) 組合側ニ於ケル事務施行ノ方法トシテハ相當材幹アル者ヲ傭聘シ又ハ整理施行者中ニ於テ適當ナル者ヲ選擇シテ之カ事務施行ニ當ラシムル等臨機適切ノ措置ヲ執リ漸次斯業ノ進捗ニ努メツツアリ

前述ノ如クニシテ事務ノ施行ハ漸次進捗ノ域ニ向ヒツツアリ隨テ各地ニ斯業ニ關シ相當經驗アルモノヲ出シタルヲ以テ是等ヲ他ノ事務未處理ニ係ル組合側ノ傭聘ニ應セシメンコトニ勸誘シ以テ事ニ當ラシムル等周密注意ヲ加ヘ其ノ成績良好ナルヲ認メタリ

廣 島 縣

本縣ニ於テハ郡長ノ請求ニ基キ一般事務ニツキ講習會ヲ開キ耕地整理施行者ノ斯業ニ對スル智識ヲ涵養スルト共ニ事務處理方法ヲ授ケ一面實地指導ヲナシツツアリ故ニ工事完了後ノ事務ニ就キ特筆スヘキモノナシ然トモ郡ニヨレハ斯業ノ盛ナルニ連レ事務ノ滯滞セン事ヲ慮リ郡費ヨリ事務費ノ補助ヲナシ以テ其ノ處理ヲ敏活ナラシメントセルモノアリ現今ニ於テハ事務ハ總テ整理施行者ニ於テナシツツアルノ結果事務ノ滯滞ヲ來タスノミナラス徒ラニ經費ノ膨張シ終ニ事務不整理ヲ來タシ延テハ事業ノ成績ニモ影響スルモノナキヲ保シ難キカ故ニ事務中尤モ複雑ナル換地交付處分ノ書類整理ノ如キハ可及的熟練者ニ請負ハシムルノ方針ヲ執ラントス

山 口 縣

工事完了後ニ於ケル事務施行ニツキテハ主トシテ郡ヲシテ之ニ當ラシメ縣之ヲ補助ス整理施行者ハ縣郡ノ指揮ノ下ニ其ノ事務ヲ探ルモ整理箇所多キ爲縣郡ノ監督指導徹底セサル嫌ヒアリ爲ニ未タ満足ナル成績ヲ舉クルヲ得ス

和 歌 山 縣

本縣ニ於テハ工事完了後ノ事務ニ付テハ專ラ國費支辨ノ技手ヲシテ之カ指導監督ヲナサシム而シテ既ニ工事完了シタル十五地區中十三地區ハ換地處分ヲ了セリ

事務施行ニ付執レル方法トシテハ工事完了ノ地區ニ對シテハ直チニ確定測量ヲナシ整理確定圖ヲ作製交付シ換地配當ニ際シテハ係技手ヲシテ其ノ方法ヲ指導シ大體ノ換地割當方針確定ニ至ル迄ノ事務ヲ助成セシム尙其ノ他地價配當、登記申請手續等ニ付テモ其ノ方法ヲ指導シ居レリ然ルニ一般農民ハ筆算ノ能力ニ乏シク法令ノ解釋困難ナルニ拘ラス完了後ノ各種手續ハ至テ復雜ナル爲往々錯誤ヲ來シ再三照復ヲ重ヌルヲ要シ處分ヲ遲延スルノミナラス之カ書類ノ整備ニ少ナカラサル勞力ヲ要スルノ不利アルニ依リ今後ハ尙一層周到ナル指導ヲナスノ必要アルヲ認ム

整理施行者ノ執レル方法トシテハ其ノ地方ノ狀況ニ依リ異ナリ組合役員ニ於テ一切ノ事務ヲ處理スルアリ又書記ヲ備入レ或ハ附近既整地ノ經驗家若ハ地區所在ノ町村役場吏員ニ書類ノ調製ヲ委託シ施行セルモノアリ其ノ成績トシテハ何レモ大差ナキモ書記ヲ備入レ又ハ經驗家ニ委託シ施行セルモノハ比較的事務進捗シ書類ノ整頓セルモノ多シ

德 島 縣

本縣ニ於ケル施行地區數ハ三十三箇所ニシテ工事完了セルモノ十八箇所換地交付處分濟僅カニ三箇所ニ過キス縣ニ於テハ大正三年度ヨリ已成地事務整理ノ擔當技術員ヲ特設シ本年内ニハ八地區約四百町

歩ノ整理ヲ指導督勵セントス尙縣下耕地整理區ヲ以テ組織セル耕地整理聯合會ニ於テ講習生ヲ撰出セシメ實地講習會ヲ開設シテ必要事務ヲ習得セシメントシ目下之カ計畫中ニ屬シ且整理施行者ハ該事務ヲ請負ニ附シタル箇所アルモ未タ初期ノ事トテ成績ノ見ルヘキモノナシ

香 川 縣

從來本項ニ對シ本縣及整理施行者ノ執レル方法ハ縣ニ於テ確定測量ヲ施行シ每筆ノ面積及圖面ヲ調製シテ交付シ是ニ依リテ施行者ハ縣吏員ノ指導ノ許ニ換地説明書、地價配當案等ノ調製ヲ成シ來リシモ組合ニ於テ之カ事務ヲ所理スルニ適當ナル人物少ナキト經費ノ都合ニ依リ縣ニ依テ充分之カ指導ヲ爲ス能ハス加フルニ關係官廳取扱不馴ノ爲之カ認可ヲ容易ニ與ヘサルニ依リ時日延遷シテ速ニ事業ノ終了ヲ見ル能ハサルノ状態ナリ而シテ從來ノ方法ニ依リ施行後ノ事務ヲ處理スル時ハ比較的少額ノ經費ヲ以テ處理スル事ヲ得ルモ時日延遷ノ結果ハ土地所有權ヲ不確定ナラシムルト同時ニ換地交付ノ爲地租ニ不公平ヲ來ス恐アルヲ以テ今後ハ左記ノ方針ニテ之カ終了ヲ計ルノ考ナリ

- 一、稅務署、登記所ノ吏員ト打合ヲ行ヒ迅速ニ事務ヲ所理スル道ヲ講スルコト
- 一、事務指導ニ關スル吏員ヲ特ニ設置シ之カ助成ヲ計ルハ頗ル得策ナレ共經費ノ許ササルニ依リ地方ニ於ケル適當ナルモノヲ選ヒ測量及事務ニ關スル講習ヲ少クモ毎年一回開會シ之カ知識ノ普及ヲ計リ整理後ノ事務ヲ迅速ニ處セシムルコト

一、組合ニ於テ施行後ノ事務ヲ採ルニ適當ノ人物ナキトキハ右講習ニ依リテ食成セシ者ヲシテ工事完了ヨリ事業終了ニ至ル間ノ手續ヲ行ハシムルコト

愛媛縣

(一) 本廳ノ執レル方法、工事完了後ニ於ケル手續ハ全般ヲ縣ニ於テ作製セルヲ以テ單ニ事務ノ指導ニ止メ左記ノ方法ヲ採レリ整理施行者ヨリ工事完了ノ届出アリタルトキハ可成速ニ工事完了後ノ手續ヲ履行セシムル爲時々注意ヲ促シ整理施行者ヨリ事務指導ヲ申請シ來リタル場合ハ當該吏員ヲ派シ確定圖ヲ作製附與スルト同時ニ事務施行ニ關シ懇切ニ實際ニ就キ指導ヲナシ尙書類完成ノ際ハ可成當該吏員ヲ派シ之カ調査ヲナスト共ニ總會ニ臨席シテ換地交付處分ヲ圓滿ニ決議セシムルコトニ努メツツアリ從テ現在ノ處吏員一名ヲ以テ之ニ從事セシムレハ支障ナシ

右ニ對スル得失、工事完了後ニ於ケル事務全般ヲ縣ニ於テ施行スルハ非常ナル手数ヲ要シ且經費ノ關係上實施シ難シ依テ出來得ル限リ指導ヲ懇切ニシ役員ヲシテ自己ノ責任ヲ盡サシムルヲ得策ト認ム

(二) 整理施行者ノ執レル方法、縣ノ指導ヲ得地區ノ役員ニ於テ事務ヲ施行スルモノ或ハ全然無關係者ヲシテ手續全部ヲ請負ハシムルモノトアリテ一定セス

右ニ對スル得失、整理施行者トシテ工事完了後手續ノ如キ繁雜ナル事務ハ非常ニ煩シキ事トセリ然トモ縣ニ於テ全部之ヲ施行セントスルハ困難ナルニヨリ現今是非之カ手續ハ施行者ヲシテ施行セシ

メサルヘカラス故ニ地區ノ役員ヲシテ施行セシムルカ或ハ請負者ヲシテ施行セシムルカノ外ナシ請負者ヲシテ之ヲ爲サシムルハ比較的短時日ヲ以テ施行スルコトヲ得ルモノ不親切ニシテ且誤謬ヲ生シ易シ故ニ可成地區ノ役員ヲシテ施行セシムルヲ得策トス(請負トハ一定ノ報酬ヲ後テ工事完了後事務ヲ施行スル役員外ノ者ヲ云フ)

高知縣

工事完了後ノ事務ハ何レノ地區ニ於テモ至難トスル所ニシテ遲延ノ傾向ニアリ縣ハ技術員ヲ其ノ地ニ派シ確定圖ヲ調製セシメ諸般ノ手續ヲ指導獎勵シツツアルカ見ルヘキ成績擧ラサルニヨリ大正四年度ヨリ手續指導係トシテ専務ノ技術員一名ヲ置キ手續ノ困難ナルモノハ半ハ作製シテ與フル迄ニ指導セントスル計畫中ナリ整理施行者ハ縣技術員ノ説明ヲ俟ツテ手續ヲ了スルモノナレトモ細部ニ至ツテハ偶々無益ノ手数ヲ要スルコトアリテ難事トス

福岡縣

耕地整理工事完了後ニ於ケル事務ハ縣下一二郡ニ於テハ各地區聯合シテ事務所ヲ設置シ縣ヨリ雇員ヲ派遣シ事務ノ完了ヲ速カナラシムルノ方法ヲ採リ居レルモ其ノ他各郡ニ於テハ特別ノ方法ニ依レルモノナク從來工事完了後ノ事務一切ヲ請負ニ附シテ處理セシムルモノ大部分ヲ占メ縣ニ於テハ時々之ヲ

督勵スルニ過キサリシカ該請負者ハ多數ノ地區ヲ一時ニ請負爲ニ其ノ整理往々遅延シ甚タシキハ數年ヲ經テ尙完了ニ至ラサルモノアリ地區ノ困難尠ナカラサルニ依リ縣ニ於テ極力其ノ完了ヲ速ナラシムルノ方針ヲ以テ本年度ニ於テ係員二名ヲ増置シ郡役所ト協力シテ事務未完了ノ地區ヲ督勵シ一方從來ノ請負者ハ其ノ整理確實ナルモノノ外ハ解約セシメ適當ノ事務員ヲ選擇セシメ縣係員ハ常ニ巡回指導ヲ加フルノミナラス出來得ル限り事務ノ幫助ヲ爲スコトトシ尙地區ニシテ適當ナル事務員ヲ得難キ場合ニ於テハ縣係員ヲシテ確定測量及圖面書類ヲ調製セシムル等ノ便宜ヲ與フルコトトセリ要スルニ從來整理施行者カ請負ニ附シテ事務ヲ整理セルハ其ノ弊害尠ナカラサルノミナラス事務ノ完了ヲ遅延シ尙其ノ經費比較的多額ヲ要スルノ嫌アリ之ニ反シ各地區聯合(可成一郡ヲ區域トス)シテ事務所ヲ設ケ縣係員ヲ特派シ事務指導ノ傍圖書ノ調製ヲ幫助セシムルハ最モ適當ノ措置ニシテ事務ノ完了ヲ速ナラシムルモノト認メ將來可成此ノ方針ニ依リ澁滞セル殘務ノ整理ヲ圖ラムト欲ス

大 分 縣

耕地整理施行後ノ事務ニ關シテハ縣ハ技術員書記都合三名ヲ以テ一ケ年度内約三百六十町歩ノ換地交付並地價配當、登記完了迄ノ計畫ヲ立テ專ラ事務指導ニ從事セシメ居ルト雖各組合地區ニ適當ナル事務員アラサルヲ以テ容易ニ豫定ノ計畫ヲ遂行スル能ハス依テ本年ハ年度内ニ於テ縣、郡關係吏員並各地區事務員ノ協議會ヲ開催シ專ラ整理事務ノ研究ヲ爲シ漸次計畫ヲ増大シ以テ豫定以上ノ事務完了セシメントノ計畫中ニ屬セリ然ルニ整理施行者ニ於テハ工事完了後斯カル煩雜ナル事務アリトハ殆ト豫期シ居ラサルモノノ如ク只管當局ノ指導ヲ待チ居ルモノノ如シ是ヲ以テ整理施行者ヲシテ工事完了後ノ事務整理ヲ促進セシムルニハ相當事務員ヲ養成シ縣指導員トノ連絡ヲ保チ以テ進捗ヲ計ルヲ得策ナリト信ス尙本縣ニハ近來民間ニ耕地整理事務ニ關スル請負業ヲ開始セル者アルモ日尙淺キヲ以テ未タ其ノ得失ヲ知ル能ハス

佐 賀 縣

一、縣ノ執レル方法及其ノ得失

工事完了後ニ於ケル事務施行ニ付テハ縣ハ技師一名技手二名書記三名ヲ置キ專ラ其ノ指導監督ノ局ニ當ラシメツツアリ而シテ其ノ指導方法トシテハ特ニ整理施行ノ當初ヨリ事業完了ニ至ル迄ノ手續ニ關シ特ニ縣令ヲ發布シ之ニ要スル手續、順序、様式、雛形等ハ取纏メ印刷ニ附シテ之ヲ地區ニ交付シ尙別ニ書類代書人ヲ設ケシメ(應員ニ非ス)施行者ノ依囑ニ應セシメツツアリ之ノ施設及方法ハ現今ニ於テハ稍々良好ナル成績ヲ擧ケツツアリ特ニ代書人ヲ組織セシメタルハ頗ル有効ナリシカ如シ然トモ今日ニ於テハ之ノ局ニ當ルヘキ人物ニ乏シク從テ十分地區ノ求ニ應スルヲ得サルノ觀アルヲ以テ縣ハ之カ養成ヲ計畫シツツアリ

二、整理施行者ノ執レル方法及其ノ得失

整理施行者中ニハ特ニ事務員ヲ雇入ルルモノアリ又前記ノ代書人ニ依囑スル等斯シテ工事完了後ノ事務ヲ施行シツツアリ然トモ其ノ局ニ當ル人物少ナキヲ以テ其ノ人物養成ノ方法トシテ縣ノ耕地整理助手ニ此ノ事務ヲ修養セシメツツアリ此ノ方法ハ比較的長時日ノ間修養セシムルヲ以テ短時日ノ講習ヨリ實効アルハ論ナシ而シテ此ノ養成シタル人物ハ必要ニ應シテ整理施行者ニ之ヲ供給セリ施行者ニシテ事務員ヲ雇入タルモノ及代書人ニ依囑スルモノハ徒テ事務ノ進捗良好ナリト雖特ニ事務員ヲ雇入ルルコトハ本縣ノ整理施行ノ如キ小規模ノモノノ爲シ能ハサル恐アリ代書人ニ依囑スルモノハ經費ノ上ハ便宜ナルモ其ノ取扱フ事務ハ依囑セラレタルモノニ限ルヲ以テ稍モスレハ手續ノ順序ヲ前後セララルル恐アリ而シテ之ノ點ニ就テハ縣ノ此ノ局ニ當ル職員ノ常ニ注意ヲ忽ラサル所ナリトス

熊 本 縣

本項ニ付目下執リツツアル方法ハ施行者ニ對シ縣カ明治四十一年度以來事業ノ補助技術員トシテ養成セル事務員トノ間ニ殘務受負ニ關シ契約ヲ締結セシメ執務中五名ノ事務指導員(技手一)(書記四)ハ執務地ニ出張シ或ハ當廳ニ召喚シ執務上ニ付懇篤ナル指導ヲ與へ或ハ右事務員又ハ組合長整理委員長ヲ召集シ稅務監督局及地方裁判所係官ノ出席ヲ乞ヒ換地處分、地價配付、登記等ノ事務ニ付講話又ハ質疑應答ヲ爲サシメ以テ各關係員ノ意志疎通ヲ圖ルト共ニ相互ノ智識ヲ啓開シ執務者ニ對シ執務上ノ指

針ヲ與フルト共ニ一面執務者ノ團體(熊本縣耕地整理研究會ト稱シ其ノ會則ハ別紙ノ通)ヲ組織セシメ縣主任技師之ヲ統御シ尙殘務處理ニ對シ施行者ノ負擔ヲ輕減シ且其ノ進捗ヲ圖ルカ爲執務者カ受ク可キ金額及殘務終了ノ期日並金錢授受時期等ニ付施行者ト契約締結前ニ團體長ノ承認ヲ求ムル事トシ縣ハ四十一年以來右方針ニ依リ殘務ノ進捗ニ努メタルカ其ノ成績ハ既ニ述ヘタル如ク頗ル良好ナリ故ニ今後ニ於テモ此ノ方針ニ基キ一層事務ノ進捗ヲ圖ラムトス右施設ニ對シテハ從來特ニ其ノ弊害ヲ認メサルモ執務者カ事務進捗ノ程度ヲ超越シテ適當ノ内渡金ヲ請求スル處レ等アルヲ以テ監督ヲ勵行シテ之ヲ防止シ居レリ

耕地整理研究會々則 (明治四十五年一月改正)

- 第一條 本會ハ耕地整理事業ノ發達ヲ圖リ併テ會員相互ノ親睦ヲ厚ラスルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ熊本縣耕地整理研究會ト稱ス
- 第三條 本會ハ左ノモノヲ以テ組織ス
 - 一、本會ノ趣旨ニ賛同スルモノ
 - 二、本會員派遣規程ニ依リ耕地整理ニ從事スルモノ
- 前項第一號ノモノヲ特別會員トシ第二號ノモノヲ通常會員トス
- 第四條 本會事務所ハ熊本縣內務部農務課內ニ置ク
- 第五條 會員十名以上ヲ有スル地方ハ本會長ノ承認ヲ經テ支會ヲ設クルコトヲ得
- 第六條 本會ニ會長一名幹事四名書記一名ヲ置キ支會ニ支會長一名幹事二名ヲ置ク
- 第七條 會長及支會長ハ其ノ會務ヲ總理ス

- 第八條 幹事ハ會長及支會長ノ命ヲ受ケ其ノ會務ヲ掌理シ書記ハ會長及幹事ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス
- 第九條 會長ハ本縣耕地整理主任技師ニ支會長ハ其ノ郡長又ハ郡書記ニ囑托シ幹事及書記ハ會員中ヨリ會長及支會長之ヲ任免ス
- 第十條 本會ニ詮衡會ヲ設ク其ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十一條 詮衡會ノ資格證明ヲ得タルモノハ整理施行者ノ請求ニ應ジ派遣規程ニ依リ派遣スルモノトス
- 第十二條 本會ニ入會セムトスルモノハ會長ニ願出ツ可シ
- 前項ノ場合通常會員ニアリテハ幹事ニ諮リ會長之ヲ許否ス
- 第十三條 本會員ハ會長ノ承認ヲ經サレハ退會スルコトヲ得ス
- 第十四條 本會ハ必要ニ應ジ臨時總會ヲ開催ス
- 第十五條 總會ノ決議ハ會員ノ過半數出席シ其ノ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
- 第十六條 本會ノ經費ハ左ノ割合ヲ以テ會員之ヲ負擔ス
但支會ニ屬スル會員ハ半額トス
通常會員年額一圓二十錢
特別會員年額六十錢
- 第十七條 前條ノ經費ハ其年一月七月ノ二期ニ分チ之ヲ徵收ス
但新入會者ニアリテハ月割ヲ以テ之ヲ徵收シ退會者ニ對シテハ既納金ヲ還付セス
- 第十八條 本會則ハ總會ノ決議ヲ經サレハ變更スルコトヲ得ス
- 第十九條 本會員ニシテ其ノ職務ヲ盡ス能ハスト認ムルモノ又ハ本會ノ體面ヲ損スノ行爲アリト認ムルトキハ會長ハ幹事ニ諮リ之ヲ除名ス

詮衡會々則

第一條 通常會員ニシテ技能上ノ資格證明ヲ請求シタルトキハ詮衡ノ上資格證明書ヲ下附ス

- 第二條 資格證明ヲ請求セントスルモノハ第一號様式ニ依リ證明料金五十錢ヲ添ヘ願書ヲ提出スヘシ
- 第三條 本會ハ會長及詮衡委員若干名ヲ以テ組織シ必要アル都度本會長之ヲ召集ス
- 第四條 詮衡委員ハ必要アル場合會長之ヲ命シ其ノ會限リ之ヲ免ス
- 第五條 本會ニ於テ相當ノ技術ヲ有スル者ト認メタルトキハ第二號様式ノ證明書ヲ下附ス
- 第六條 本會ハ既ニ資格證明ヲ得タルモノニシテ其ノ技術上進セリト認ムルモノニハ更ニ其ノ資格ノ詮衡ヲ爲スコトヲ得

(第一號書式)

資格證明願

耕地整理ニ關スル技能上ノ資格御證明相成度別紙履歴書相添此段相願候也

私儀

大正 年 月 日

原籍
原住所

何

某◎

(第二號書式)

資格證明書

熊本縣耕地整理研究會員

何

某

右本會規定ニ依リ
事務整理 級俸ヲ受クヘキ資格ヲ有スルコトヲ證明ス
工事監督 級俸ヲ受クヘキ資格ヲ有スルコトヲ證明ス

年 月 日

會長 何

某◎

會員派遣規程

- 第一條 整理施行者設計調査工事監督書類調製等ノ爲本會員ヲ備聘セントスルトキハ本規程ニ依ル可シ
- 第二條 派遣請求ハ別記様式ニ準シテ之ヲ爲ス可シ

第三條 派遣會員ノ旅費及月給ハ別表ノ規程ニ依リ整理施行者之ヲ其ノ會員ニ支拂フ可シ
(別表)

一級	二級	三級	四級	五級	六級
二十五圓	二十二圓	二十圓	十八圓	十六圓	十五圓
七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
十四圓	十三圓	十二圓	十一圓	十圓	九圓

但勤務日數一ヶ月二十六日ニ達セサルトキハ日割ヲ以テ支給ノコト
勤務中宿泊スルトキハ一泊ニ付金十錢支給ノコト

車馬路	水路	瀛車路	日當宿泊
一里ニ付 金十錢	一海里ニ付 三錢	一哩ニ付 二錢	一日ニ付 三十錢
			一泊ニ付 五十錢

派遣請求書

本地區工事監督(設計調査又ハ書類調製)ノ爲會員派遣相成度尤會員派遣規程遵守可致候間此段請求候也

年 月 日

郡村大字何々

何々耕地整理組合長

(又ハ整理委員長)

某印

宮崎縣

熊本縣耕地整理研究會御中

本縣ハ耕地整理施行地及將來整理ヲ施行セントスル土地ノ所有者ニ耕地整理事務並耕地整理ニ關スル智識ノ普及ヲ計ル目的ヲ以テ明治四十三年同四十四年ノ二回ニ亘リ耕地整理短期講習ヲ開キ講習終了者二百五十七名ヲ出セリ然トモ煩雜ナル耕地整理事務ヲ僅々二週間内外ニ知悉セシムルコト困難ニシテ良好ナル成績ヲ舉クルコト能ハサルヲ認メ大正元年度ニハ耕地整理ニ關スル實務ヲ練習セシムル目的ニテ縣ニ事務練習生ヲ置キ其ノ期間ヲ三ヶ月トシ學理ト實務トヲ練習セシメ終了者ヲシテ整理施行地ニ就キ事務ヲ執ラシメタリ又大正二年度ニ於テハ各郡耕地整理事務擔任ノ郡書記ニ對シ三週間事務講習ヲ爲シ郡内耕地整理施行地ノ事務指導ノ任ニ當ラシム之等兩種講習ノ結果稍々事務進捗ノ成績見ルヘキモノアリト雖全縣下ニ亘リ事務指導ヲ全カラシムルコト不可能ナルヲ以テ大正二年度以來耕地整理事務ニ從事スル技手助手ノ員數ヲ増加シテ各郡毎ニ事務主任ヲ定メ之ニ數名ノ雇ヲ付シ工事完了地區ニ對シテハ直ニ換地説明書地價配賦案並登記申請ニ關スル書類調製指導ノ任ニ當ラシメツツアリ其ノ結果工事完了後遲延シ易キ諸種ノ事務ハ著々進捗シ其ノ成績甚タ佳良ナリトス

鹿兒島縣

本縣ニ於テハ明治四十四年四月縣下ヲ五區ニ分テ出張所ヲ設ケ之ニ技手二——三名助手數名ノ外書記一——二名事務係助手一——二名ヲ配置シ不絕各地區ヲ巡回セシメ換地處分、地價配賦、登記申請其ノ他ノ諸般ノ事務ノ指導助力ニカメツツアリ大正二年度末ノ換地處分認可濟ノ地區數百三十三ニ達シ同

處分ニ付テハ著々成績ヲ舉ケツツアリ然トモ事務其ノモノカ餘程複雑ニ涉リ居ルト換地處分以下ノ主ナル事務ノ所轄官廳ヲ異ニシ自然利害關係ヤ組合ニ對スル關係ノ親疎ヲモ異ニシ事務取扱ノ步調モ自ラ同一ナラス只縣ノミ如何ニ力ヲ入ルルモ或ル程度以上ノ指導ヤ助力ハ全ク無効ニ歸スル場合アルヲ以テ法規手續ノ改廢ヲ爲ササル限り之ヲ一氣ニ結了セシムルコトハ餘程至難ノ事ニ屬スレトモ今後尙指導督勵ヲ怠ラサルニ於テ追々事業ノ完了ヲ見ルニ至ランカ、事務處理ノ方法ニ付テハ地區ノ役員ニ於テ處理シツツアルモノト事務ヲ請負ニ附シテ處理スルモノトアリ地區役員ノ事務ニ慣レ居ル處ハ前者ニ依リ然ラサル處ハ後者ニ依リ處理シツツアリ其ノ利害得失ニ付テハ各地區ニ依リ其ノ事情ヲ異ニシ居レルヲ以テ之ヲ一概ニ論スルヲ得サルモ請負ニシテ其ノ人ヲ得レハ事務モ比較的迅速ニ且經費モ餘程低廉ナル様見受ラル

沖繩縣

本縣ハ未タ整理ヲ施行セシコトナキヲ以テ該當ノ事項ナシ

議案

第三 費用分賦ニ關スル評定價格標準主義ノ適否及適當ナラストセハ之ニ代ルヘキ標準

答申

本議案ニ關シテハ委員ヲ指名選定シ其ノ調査ニ依ル所ノモノヲ會議ニ付シ決定セルモノ左ノ如シ
評定價格標準主義ハ一般的ニハ適當ナル方法ニシテ此ノ主義ヲ以テ遂行セシムルヲ可トス
然トモ特種ノ地區ニ於テハ實行ニ甚タシク困難ヲ感シ最良ナル方法ト信シ難キニヨリ斯ル際ハ寧ロ他ノ方法ニヨラシメラレタシ

本議案ニ關シ議長ノ指名ニ依リ福岡外二縣ノ答申シタルモノ左ノ如シ

福岡縣

一 本縣ニ於テハ評定價格標準主義ヲ採用セス、本主義ハ従前ノ土地ニ付テ言ヘハ評定價格ノ少ナキモノ利益ニシテ高キモノハ損耗トナル理ナルヲ以テ採用セサルナリ又之ヲ以テ換地ヲ交付スルコト

二 本縣ハ利益標準主義ヲ採用ス即チ利益本位ニシテ利益ノ多キ土地ヨリハ多ク費用ヲ徵集シ少ナキ土地ヨリハ小額ヲ徵集スルコトトセリ而シテ此ノ利益本位ヲ基礎トシ其ノ他土地ノ事情、事業ノ種類等ヲ斟酌シテ費用ヲ賦課スル方法ハ關係者ノ意ニ最モヨク投合ス
今其ノ二三ノ例ヲ述フレハ左ノ如シ

(一) 大體ノ事業費ハ利益配當額ニ賦課シ維持管理ノ費用ハ反別割トス換地ハ比例權利額ト換地ノ評定價格トノ差ニヨリ其ノ清算ヲナス

從前ノ土地ノ權利額トハ從前ノ土地ノ價格ト利益トヲ加エタルモノナリ

(二) 事務所費ハ從前ノ面積ニヨリテ賦課シ、維持管理費ハ施行後ノ反別割ニ工事費ハ利益割ニ課スルモノトス

(三) 普通工事費ハ整理前後ノ評定價格ノ差額即チ利益ヲ標準トシテ賦課シ、主要工事費ハ利益ヲ受ケシ土地ノ反別ニ、事務所費並維持管理費ハ反別割トス

要之利益割ト云フヲ得ヘク縣下ノ殆ト總テノ組合ハ本主義ニヨリテ大同小異ナル規約ヲ制定シ居レリ

茨城縣

本縣ハ現在ノ規約例ヲ採用セリ評定價格標準主義ハ評定ヲナス其ノ物カ確然ナラサルヲ以テ施行者ニ對シ不公平ナル恐レアリ而テ本縣ニ於テハ目下整理前後ノ評定方法ニ關シ考究中ニシテ從前ノ評定價格ヲ評定スルニモ數年ニ遡リテ收量ヲ調査シ之ニ交通其ノ他ノ條件ヲ考慮シテ決定ス
從前ノ評定價格定マラハ次ニ整理後ノ評定價格ヲ決定シ其ノ差額即チ利益ニ費用ヲ賦課スルカ普通ナリ其ノ整理後ノ評定價格モ工事完了後尙暫ク研究シテ決定スヘキナリ而シテ一般ニ評定方法ハ採點法其ノ他ニヨリ廣ク且長時日ニ亘リテ之ヲ定メ潛勢力ハ加味セサルヲヨシトス故ニ換地交付ハ可成早ク之ヲ行フ必要アレトモ早ク處分セントセハ完全ニシテ公平ナル費用ノ分賦ハ不可能ナラン

秋田縣

評定價格標準主義ハ適當ナラン然トモ本主義モ亦其ノ内容、方法如何ニヨリテハ不公平ナル結果ヲ來スコトアルヘシ

本縣ニ於テハ從前ノ評定價格ヲ各筆毎ニ定ムルコト殆トナク大體法定地價ニヨリ定メ特殊ナルモノヲ除クノ外大ナル誤リナシ只從前ノ土地カ著シク上ル場合ハ或比例ヲ乘スルコトトセリ
整理後ノ評定價格ハ(一)賣買時價ト(二)組合ノ役員、大地主及篤農家ヲ以テ組織スル評價委員ヲ設ケテ定ムルモノト(三)採點法ニ依ルモノトノ三種アリ

(一) 賣買時價ニ基ク評定方法ハ實際ニ近キ様ナレトモ元來賣買時價ナルモノハ時ニヨリ大差アレ

ハ之ニ基キ一概ニ決定スルコト能ハス

(二) 評定委員ヲ設クルモノハ比較的實際ニ近シト認メラル何トナレハ之等ノ委員ハ整理後ノ土地ノ實狀ニ通スルモノトシテ多クノ人ヨリ信頼セラレタル者ナレハナリ然トモ評價委員モ時トシテ大地主又ハ勢力家ニ有利ナル評價ヲナシ公平ヲ欠クカ如キ恐ナシトセス故ニ前記評價委員中ニ更ニ小地主ノ委員ヲ加エ此ノ四者ヲ合シテ委員ヲ組織スルコトハ本縣ニ於テ最モ歡迎セララル方法ナリ

(三) 採點法ニ依レハ理想的ナランモ實際ニ應用スルコト少シ

利益標準方法ハ本縣ニ於テモ試ミシカ現在ノ耕地整理土地所有者ノ能力ニテハ此ノ利益云々ヲ理解スルコト困難ナレハ本縣ハ目下此ノ方法ヲ採用セルモノ少ナシ

府縣提出議案

一 耕地整理法第八十四條ニ依リ監督官廳カ必要ナル命令ヲ發シタル場合ニ於テ若シ整理施行者其ノ命令ニ從ハサルトキハ直ニ監督官廳ニ於テ之ヲ施行シ之ニ要シタル費用ハ整理施行者ヨリ徵收スルコトヲ得ヘキ様相當規定ヲ設ケラレムコトヲ望ム

二 農業水利ノ改良竝開發ニ關スル設備竝工事ニシテニ府縣以上ニ亘ルモノ又ハ其ノ事業カ困難ニシテ整理施行者ニ於テ遂行シ能ハサルモノト認メタル場合ハ政府ニ於テ之ヲ施行シ以テ其ノ相當對價若ハ使用料ヲ徵收スルノ方針ヲ採リ之ニ關スル相當方法ヲ講シ且規定ヲ設ケラレムコトヲ望ム

三 現行法規ニ依レハ整理施行者ヲシテ換地處分、地價配當、登記申請、國有地上地編入、町村、大字、小字名ノ改稱竝區域ノ變更等ニ關スル手續ヲ爲サシムヘキ規定ナルモ是等ノ手續ハ頗ル煩雜ニシテ且關係官署數個所ニ涉リ從テ多大ノ時日ト勞費トヲ要シ容易ニ進捗セス爲ニ事業ノ完了竝將來ノ發展ヲ阻害スルコト鮮ナカラス洵ニ斯業ノ爲寒心ニ堪ヘサルモノアリ故ニ右ハ耕地整理法第三十條ニ依リ地方長官ニ於テ換地處分ノ認可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ告示スルト共ニ夫々關係アル官署ニ通知シ當該官署ハ其ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク整理施行者ノ申請ヲ要セスシテ之カ相當處分ノ手續ヲ爲スヘキコトニ相當規定セラレムコトヲ望ム

四 農業水利及耕地ノ開發ニ關スル行政機關ノ整備ヲ圖リ之ニ關スル相當法

令ノ發布アラムコトヲ望ム

五 耕地ノ開發及其ノ利用維持ヲ永遠ニ圖ランカ爲農業保險ノ制ヲ設ケ家畜、建物其ノ他勞力資本ノ供給竝其ノ保全ノ途ヲ講セラレムコトヲ望ム

六 耕地ノ整理竝開發ニ關スル費用ハ或程度迄低利資金(郵便貯金運用)ニ依リ負擔ヲ輕減セシムルハ適當ノ策ナルモ現時ノ狀態ノ如ク金融逼迫ノ場合ニ於テハ事業ノ頓挫ヲ來タスコトヲ保セス故ニ此ノ場合ニ於ケル救濟策トシテ左記事項ノ如キ相當ノ方法ヲ講セラレンコトヲ望ム

(一) 整理費用拾萬圓以上ヲ要スル組合ニ在リテハ組合債券ヲ發行シ得ルノ制ヲ設クルコト

(二) 組合員ヲシテ工事着手ニ先チ組合費ノ一部若ハ全部積立ヲ爲シ得ルノ制ヲ設クルコト

(三) 政府ハ耕地ノ整理竝開發ニ關スル事業基金ヲ積立テ之ヨリ生スル利金ヲ以テ低利貸付ヲ爲スコト

(四) 整理費用三萬圓以上ヲ要スル組合ニ在リテハ必要ニ應シ金券ヲ發行シ得

ルノ制ヲ設クルコト

以上六件茨城縣提出

茨城縣提出ニ係ル右六件ハ本會議ニ上サス主務省ニ於テ其ノ是非ヲ考究スルコトトナス

七 耕地整理ノ地價配賦ノ決定ヲ早カラシムル方法如何

鳥取縣提出

理由 耕地整理工事完了後ノ事務ハ概シテ遲緩ヲ免レサル所ナルカ就中換地處分ノ認可ハ縣ニ於テ指導速了セシメ得ヘキモ地價配賦ニ至リテハ其ノ進行極メテ純ク實例ニ徴スレハ稅務署ハ地價配賦申請後一ケ年位ヲ經テ實地検査ヲ行ヒ而シテ配賦決定ニハ尙一ケ年餘ヲ費セルモノハ比々皆然リ如斯ハ整理施行者ノ迷惑少ナカラサルノミナラス事業發達ノ妨ケトナルノ虞アリ

決議

(一) 稅務監督局及稅務署ニ於テ耕地整理ニ關スル專務官吏ヲ置キ事務ノ進捗ヲ期スルコト

(二) 豫メ稅務署員ヲシテ其ノ管轄區域内ノ關係者ニ對シ地價配當ニ關スル講話ヲナサシメ其ノ手續ノ周知ヲ計リ以テ地價配當ノ完了ヲ促進スルコト

八 耕地整理施行地ニ於ケル整理前後ノ評定價格決定ニ對シ適切ナル標準竝其ノ方法ヲ示サレタキコト

宮城縣提出(一)

理由 土地ノ評定價格決定ノ標準ハ各地ノ狀況ニヨリ一定シ難シト雖土地ノ評定價格ハ換地處分ノ基礎ニシテ之ヲ誤レハ換地ノ目的ヲ失シ各土地所有者ノ利益ヲ平均ニ保護シ得サルナリ然ルニ現今本邦ニ於ケル耕地整理施行地ノ土地ノ評定價格ハ概ネ整理施行者ニ一任シ決定スルモノ多ク公平ヲ缺クルモノナキヲ保セス故ニ土地ノ評定價格決定ニ際シ適切ナル標準並其ノ方法ヲ示シ之ヲ實施セシメラレシコトヲ望ム

本件ニ關シ委員會ニ於テ調査シタルモノ左ノ如シ本會ニ於テハ之ヲ採決セサリシモ多數ノ同意アリ組合長及役員ニ於テ豫メ地區内ノ土地評定ニ關スル等級數ヲ實地ニ就キ考慮決定シ次ニ適宜ノ等級ニ對スル標準田區ヲ指摘シ以上ノ用意整ヒタル後地區内全筆ノ等級ヲ定メ最後ニ各等ノ評定價格ヲ定ム特ニ評價ニ困難ナル場合ハ組合長ハ評價査定委員ヲ任用シ前記ノ方針ニヨリ別ニ査定シテ原案ニ付討議セシムルヲ可トス、評價ニ對シテハ更ニ官廳官公吏ヲシテ指導ヲ爲スト共ニ不公平ニ流レサル様相當ノ干渉ヲ爲スヲ妨ケスト信ス

九 耕地整理事務員長期講習開會ノ件

宮城縣提出(二)

理由 農商務省ニ於テハ年々技術員長期講習會ヲ開催セラレタルモ事務員ニ對シテハ短期講習ニ限ラレ之カ開催ナシ然ルニ耕地整理ノ事務ハ甚タ繁雜ニシテ短期間ニテハ容易ニ修得セサルノ

ミナラス今ヤ各府縣其耕地整理施行地ニシテ工事完了シタルモノ多ク此等ハ速ニ事業完了ヲ遂ケシムルヲ急務ト認メラルルヲ以テ特ニ土地ノ評定、換地處分、地價配當其ノ他一般關係法規ニ付技術員ト同様長期講習會ヲ開催セラレ之ニ從事スヘキ事務員ヲモ養成セラレシコトヲ望ム
本件ハ希望者小數ノ爲採擇セス

一〇 希望、耕地整理組合ニ在リテハ總會ヲ招集スルモ流會ニ終ルコト尠ナシトスルモ舊耕地整理法ニ依ル總會ニハ此種ノ流會ニ終ルコト數々ニシテ事業ノ進行ヲ妨クルコト多トス依テ町村制第四十八條但書ノ如ク同一ノ事件ニ付招集再會ニ至ルモ尙定數ニ滿タサルトキハ出席者ノ過半數ヲ以テ決議スル様救濟法トシテ耕地整理法中ニ規定セラレシコトヲ希望ス右ハ強制ニ過クルカ如キモ素ヨリ規約規定ノ執行ニ止マリ敢テ公益ヲ害スル慮レ之ナク本縣ノ如キハ目下其ノ必要ヲ認メツツアルヲ以テ之カ規定ヲ望ム

宮城縣提出(三)

決議

適當ナル希望ト認ム

一一 増歩地處分制限廢止ニ關スル件

三重縣提出

理由 増歩地處分ニ關スル件ハ明治四十二年農第一三七七七號内訓第十四號ヲ以テ制限セラレタルカ爲之ヲ規約ニ規定セスト雖事實ニ於テ實行スル所鮮ナカラス強ヒテ阻止セントセハ徒ニ形式ヲ修飾シ内實之ニ反スルカ如キ状態ニシテ絶對ニ之ヲ否認スルコト能ハサルヲ以テ之カ廢止ヲ希望スル所以ナリ

決議

適當ナル希望ト認ム

主任官提出議案

一 府縣村有基本財産ヲ耕地整理資金ニ供給スル様内務省ト協定アリタキコト

愛媛、島根、兵庫、岡山、香川、佐賀、新潟、大阪、一府七縣主任官提出

決議

大阪府外七縣主任官ヨリ提出ニ係ル耕地整理資金ニ關スル件ハ資金供給上便利ナルヲ以テ内務省ト相

當協定アリタキコト

二 勸業銀行又ハ地方農工銀行ニ資金ノ貸付ヲ仰ク場合ニ銀行ハ地價標準ヲ以テ査定ノ上貸出サルルカ如シ銀行トシテハ勿論理由アルヘキモ一般ニ耕地整理事業ノ最モ有利ナルハ開墾、地目變換、溜池新設等ノ如ク比較的地價低廉ナル地ノ事業ニシテ却テ之等ノ地區ハ資金ノ潤澤ナル供給ヲ必要トスル所ナレトモ銀行ノ査定標準前記ノ如クナルヲ以テ十分借入ヲナスコトヲ得ス頗ル困難ヲ感シツツアリ埋立干拓等ヲ含メル改正法實施ノ曉ニ於テハ更ニ一層不便ヲ感スルナラン本件ニ關シ他府縣ノ狀況如何若同様ノ府縣アラハ勸業銀行又ハ農工銀行ニ對シ整理事業ハ官廳監督ノ下ニ行フモノナルヲ以テ特ニ寛大ナル方法ヲ以テ貸付ラルヘク交渉アランコトヲ希望ス

大阪、愛媛、島根、兵庫、岡山、香川、佐賀、新潟、一府七縣主任官提出

本件ハ決議ヲナスニ至ラザリシカ希望トシテハ異議少ナシ

三 耕地整理及土地改良獎勵規則中、土地改良事業ヲ削除セラレタシ

大阪、新潟、香川、神奈川、群馬、熊

本、福島、秋田、一府七縣主任官提出

理由 土地改良事業ハ元來耕地整理事業ノ一部ニシテ主トシテ耕地整理法ニ依リ施行シ得ルノミ
ニシテ特ニ土地改良事業トシテ獎勵スルノ必要ナキノミナラス之カ爲却テ耕地整理事業ヲ破壊
スル場合尠ナカラス因テ獎勵規則中ヨリ之ヲ削除セントス

決議

單ニ希望トシテ採用ス

四 保安林ヲ地區ニ編入セムトスル場合ニ於テ手續ヲ簡易ニセラレタシ

岐阜、愛媛、香川、三縣主任官提出

理由 溜池ノ築造地、水路敷地等カ往々保安林ナル場合ハ現行法ニ依レハ之ヲ解除セサル限リ地
區ニ編入シテ組合ノ設立ヲナス能ハス此ノ爲地方森林會ノ開會迄俟テテ設立認可ヲ經工事ニ着
手セサルヘカラス之カ爲徒ラニ一ケ年ヲ經過シ却テ實行困難ナルコト尠ナカラス殊ニ溜池ノ如
キハ保安上歷然トシテ支障ナキハ明ナルニヨリ斯ル迂遠ナル手續ヲ廢シ希望トシテハ一、森林
會ヲ經ス地方長官限リ許可シ能フ途ヲ開クコト

(一) 若シ不可能ナラハ地方長官ハ耕地整理關係者ヨリ解除ノ申請アラハ十五日以内位ニ地方森
林會ニ諮詢ヲ要スル様セラレタシ

決議

適當ナル希望ト認ム

大正四年三月五日印刷
大正四年三月七日發行

農商務省農務局

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷者 中野 鐸太郎

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷所 東洋印刷株式會社

電話芝 〇
二二二
二二二
七六五

63
77

終

